平成27年度
名古屋市美術館年報
2015

Nagoya City Art Museum

目　次

序 …… 1
沿革 …… 2
展覧会事業 …… 3
　1 常設展 …… 3
　　⑴名品コレクション展 …… 4
　　⑵常設企画展 …… 12
　2　特別展 …… 18
教育普及事業 …… 39
　1 教育プログラム …… 39
　　1 一般成人対象の事業 …… 40
　　⑴講演会・解説会 …… 40
　　⑵コレクション解析学 …… 40
　　⑶パフォーマンス･ワークショップ …… 42
　　⑷その他 …… 42
　　2 子ども対象の事業 …… 42
　　⑴学校休業日の体験活動の推進 …… 42
　　⑵夏休みこどもの美術館 …… 44
　　⑶芸術と科学の杜 …… 46
　　3 学校対象事業 …… 47
　　⑴ボランティアによる学校団体向け
　　ガイドトークの実績 …… 47
　　⑵アートカード貸出実績 …… 47
　　⑶出前アート体験 …… 48
　　⑷就業・職業・職場体験及び
　　職場訪問受け入れ …… 50
　　⑸教員対象の講座 …… 50
　　⑹その他 …… 51
　2 ボランティア …… 53
　　⑴ボランティア登録者 …… 53
　　⑵定例会 …… 53
　　⑶ガイド活動 …… 54
　　⑷サポート活動 係の活動 …… 54
　　⑸その他 …… 55
　3 学生向け優待事業 …… 55
　4 協力会 …… 56
　5 図書室 …… 56
　6 出版 …… 57
資料 …… 58
　1 収集 …… 58
　　⑴購入 …… 59
　　⑵寄贈 …… 59
　　⑶受入変更 …… 61
　　⑷資料収集状況一覧 …… 62
　2 保存・修復 …… 63
　3 調査・研究 …… 64
　4 貸出 …… 65
　5 寄付金 …… 66
入館者一覧 …… 67
組織・予算 …… 68
　1 組織図 …… 68
　2 美術館協議会 …… 68
　　⑴名古屋市美術館協議会委員 …… 68
　　⑵名古屋市美術館協議会開催状況 …… 68
　3 職員 …… 68
　4 運営予算 …… 68

序
PREFACE

名古屋市美術館の平成27年度の活動をまとめた年報を発行いたします。

美術館活動の根幹となるコレクションについて、今年度は購入、寄贈、受入変更など32点の作品が新たにコレクションに加わりました。主な作品としては、メキシコ写真史の創世記に活躍したフーゴ・ブレーメの貴重な写真３点を収集しています。当館のコレクションの中で、特にメキシコ美術は日本の他の美術館にはない最も特徴のあるものですが、ブラボーやティナ・モドッティなど、近年非常に注目度の高いメキシコの写真家のルーツでもあるブレーメの作品を新たに加えることができ、歴史的な厚みを加えることができました。また地元洋画壇の重鎮の一人である、伊藤廉の作品をまとめて寄贈いただきました。

特別展については、平成27年度は５本の展覧会を開催いたしました。現代美術、地元の若手・中堅作家の紹介、明治から昭和にかけての日本の近代美術、19世紀半ばのイギリス美術、そして終戦から70年の節目を回顧する企画展など、実に多彩な内容の展覧会をお楽しみいただきました。特に８月15日の終戦記念日を挟んで開催した「画家たちと戦争」展は、戦争と美術との関わりをあらためて問い直す試みとして静かな反響を呼びました。また地元作家の紹介という、地方美術館の大きな使命の一つを果たす「ポジション展」は、早くも５回目を迎えましたが、「クラフト」という視点を取り込むことにより、これまでとは一味違う展示内容となりました。

地下の常設展示室３の部屋では、しばしば常設企画展と銘打って小企画展を開催していますが、平成27年度には３本の展覧会を開催しました。前年にまとめてご寄贈をいただいた鷲見麿の作品展、名古屋市内の現代美術のコレクションをご紹介するＪコレクション展、そして愛知県立芸術大学との共同企画となった北川民次の絵画技法を紹介する展覧会の３本です。特に共同企画となった展覧会は、北川民次がメキシコで開発した独自の絵画技法を科学的な視点も交えて分析するという内容で、大学との共同研究ならではの成果をご紹介することができました。

常設展は例年通り、収集方針ごとに小テーマを設け、それぞれの作品の特徴を浮かび上がらせるように工夫してご覧いただきました。美術館の魅力の基本はコレクションであり、それをご紹介する常設展こそが活動の中心、という基本方針をおろそかにすることなく、作品の魅力をより分かりやすくお伝えする常設展を目指したいと思います。

教育普及活動については、例年通り講演会や講座、常設展、特別展でのギャラリートーク、「びじゅつ びっくり たまてばこ」や「夏休み子どもの美術館」といった子どもたち向けの事業、出前授業、教師のための美術館利用研修など、精力的に展開しました。多彩な美術館活動を支えていただいているボランティアの皆さんは、現在100名弱の方に登録していただいており、27年度には９期生を募集し、22名の方に新たに活動に加わっていただきました。一方で長年に渡って活躍していただいた４期生の方々は卒業を迎え、今後はこれまでとは違った形で美術館をご支援いただくことになります。

平成27年度は新たに大学との共同連携事業として、「学生メンバーズ」の制度を発足させ、すでに３つの大学の参加をいただいています。また、開館30周年に向けて、記念作品の収集を目的とした募金も開始し、初年度900万円を超えるご寄附をいただきました。これら新規の事業をさらに充実させ、美術館活動のさらなる発展を目指していきたいと考えております。どうぞ、これまで以上に美術館活動に対するご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

2016年12月

名古屋市美術館

沿　革
HISTORY

昭和52年12月　「名古屋市基本構想」策定、同構想において美術館建設をめざす
昭和56年１月　市長、年頭記者会見において、美術館の具体化検討を発表
12月　市会、美術館建設のための調査費を議決
昭和57年２月　美術館調査委員会（委員長 豊岡益人愛知県立芸術大学学長）設置、美術館のあり方について諮問
４月　「名古屋市市民文化振興のための基金に関する条例」制定
昭和58年１月　美術館調査委員会「名古屋市美術館（仮称）基本構想について」答申
７月　美術館建設委員会（委員長 伊藤延男東京国立文化財研究所所長）設置
８月　美術館基本設計委託（黒川紀章建築・都市設計事務所）
10月　美術館資料収集審査委員会設置、資料の収集を開始
昭和59年３月　建築基本設計完了
９月　美術館実施設計委託（黒川紀章建築・都市設計事務所）
昭和60年１月　建築実施設計完了
２月　名古屋市文化顧問（安達健二　東京国立近代美術館長）委嘱
７月　美術館建設工事着手
昭和61年11月　「名古屋市美術館（仮称）収集作品展」を市博物館で開催
昭和62年４月　美術館開設準備顧問（谷隆夫　元名古屋市助役）委嘱
７月　美術館本体工事完成
10月　外構工事完成
昭和63年３月　「名古屋市美術館条例」制定
４月　美術館顧問（河北倫明氏）委嘱
４月　開館（館長　谷隆夫）
平成元年９月　博物館登録
平成５年９月　南側エレベーターの設置
平成７年６月　美術館長（劔持一郎　元名古屋市教育長）委嘱
美術館顧問（谷隆夫　元館長）委嘱
平成10年10月　美術館参与（馬場駿吉　元名古屋市立大学教授）委嘱
平成11年６月　美術館長（小林龍郎　元名古屋市総務局長）委嘱
平成14年６月　美術館長（宮澤明倫　元名古屋市教育長）委嘱
平成18年６月　美術館長（渡辺豊彦　元名古屋市選挙管理委員会事務局長）委嘱
美術館参与（石黒鏘二　名古屋造形芸術大学名誉教授）委嘱
平成21年５月　美術館長（松永恒裕　元名古屋市総務局長）委嘱
６月　開館以来1,000万人目の入館者を迎える
平成26年５月　美術館長（横井政和　元名古屋市選挙管理委員会事務局長）委嘱

展覧会事業　1 常設展
EXHIBITION Permanent Collection

平成27年度の常設展（名品コレクション展）は､「エコール･ド･パリ」と「メキシコ･ルネサンス」のコーナーでは、昨年度に続けて、年間を通しての計画を立案する方式によって、また「現代の美術」と「郷土の美術」のコーナーでは、コレクションの多角的な紹介の形式を復活させて、総計３回（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）の展示を行いました。

「エコール･ド･パリ」のコーナーにおいては、Ⅰ「前衛から古典へ～第一次世界大戦がもたらしたもの」では、大戦後、安定を志向する社会のなかで、絵画もまた前衛から復古的な傾向へと変貌することで「エコール・ド・パリ」が注目されたことを紹介しました。Ⅱ「藤田と荻須：巴里の日本人画家たち」では、藤田の周辺に集まった海老原喜之助、岡鹿之助などの作品、Ⅲ「スローンとマーシュ：同時代のアメリカ美術」では、エコール・ド・パリと同時代の1920年代から1930年代にかけてニューヨークで活躍した二人の画家の作品を展示しました。

「メキシコ・ルネサンス」のコーナーにおいては、メキシコ壁画運動の三大巨匠を、Ⅰ「ディエゴ・リベラ」、Ⅱ「ダビッド･アルファロ･シケイロス」、Ⅲ「ホセ・クレメンテ・オロスコ」の順に、それぞれの画家の作品（油彩画、水彩画、素描、版画）のコレクションを総合的に紹介しました。

「現代の美術」のコーナーでは、Ⅰ「大きな物語、小さな日記」と「浮遊感覚」、Ⅱ「参照／引用／言及」、Ⅲ「ブランク－虚無」と「鏡－実像と虚像」というテーマで、現代美術のコレクションのなかから相応しい作品を選定して展示しました。

「郷土の美術」のコーナーでは、Ⅰ「遠くを見つめる－欧米へのまなざし」と「近くを見つめる－名古屋の風景」というタイトルで、写真作品に現れた対照的な視線を見せました。一転して、Ⅱ「やまと絵」では、郷土の日本画の代表作品を紹介しました。Ⅲ「渡欧した郷土の画家たち」と「日本画の伝統と革新」では、大正から昭和・戦後にかけて活躍した郷土の画家たちの作品を展示しました。

常設企画展では、今年度は久し振りに力を入れて、「白土舎コレクションによる鷲見麿」展、「北川民次の絵画技法－自然科学的調査と再現研究を通して－」展、「思い出の中の揺らめき：Jコレクション」展を連続して開催しました。

「白土舎コレクションによる鷲見麿」展では、昨年度に寄贈された作品の初紹介として、名古屋で活躍した異端の現代美術家・鷲見麿（1954～）が白土舎で発表した最初期から2010年までの作品（29点）を展示しました。

「北川民次の絵画技法」展は、愛知県立芸術大学との共同研究の成果を発表する企画として、メキシコ時代における独自のテンペラ技法の素材、技法などを、わかりやすく解説した展示として好評でした。関連催事として、記念シンポジウムも実施しました。

「思い出の中の揺らめき：Ｊコレクション」展では、名古屋有数の現代美術コレクターから拝借した作品（20点）を紹介しました。

(1)名品コレクション展
Selected Works from the Collection of Nagoya City Art Museum

名品コレクション展 I

会期：2015年 4 月18日（土）～ 9 月23日（水・祝）

常設展示室 1 ・ 2

＊：寄託作品　☆：初出品
i ：前期 4 月18日（土）～ 6 月21日（日）
ii ：後期 7 月18日（土）～ 9 月23日（祝・水）

出品作品

コレクション解析学

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ（cm）	
1	フリーダ・カーロ	死の仮面を被った少女	1938	油彩・ブリキ	14.9×11.0	i
2	コンスタンティン・ブランクーシ	うぶごえ	1917（1984）	ブロンズ	17.0×26.0×18.0	ii

エコール・ド・パリ：前衛から古典へ-第一次世界大戦がもたらしたもの-

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ（cm）	
1	モーリス・ユトリロ	ノルヴァン通り	1910	油彩・厚紙	73.1×92.6	i・ii
2	コンスタンティン・ブランクーシ	うぶごえ	1917（1984）	ブロンズ	17.0×26.0×18.0	i
3	東郷青児	帽子をかむった男（歩く女）	1922	油彩・キャンヴァス	60.9×49.9	i・ii
4	田中保	ソリタ・ソラノの肖像	1923	油彩・キャンヴァス	103.0×73.5	i・ii
5	キスリング	新聞のある静物	1913	油彩・キャンヴァス	81.0×100.0	i・ii
6	キスリング	マルセル・シャンタルの肖像	1935	油彩・キャンヴァス	116.0×81.0	i・ii
7	アメデオ・モディリアーニ	立てる裸婦（カリアティードのための習作）	c.1911-12	油彩・板に貼った紙	83.0×47.8	i・ii
8	アメデオ・モディリアーニ	おさげ髪の少女	c.1918	油彩・キャンヴァス	60.1×45.4	i・ii
9	マリー・ローランサン	サーカスにて	c.1913	油彩・キャンヴァス	116.5×89.0	i・ii
10	マリー・ローランサン	アポリネールの娘	c.1924	油彩・キャンヴァス	73.1×54.0	i・ii
11	キース・ヴァン・ドンゲン	コルセットの女	1908	油彩・キャンヴァス	65.0×50.0	i・ii
12	オシップ・ザツキン	扇を持つ女	1923	ブロンズ	84.0×35.0×31.0	i・ii
＊ 13	アルベール・グレーズ	キュビズム　静物	1920's前半	油彩・キャンヴァス	61.0×47.5	i・ii
＊ 14	ジャン・メッツァンジェ	静物	c.1920	油彩・キャンヴァス	49.0×60.0	i・ii
＊ 15	フェルナン・レジェ	青い背景のコンポジション	1930	油彩・キャンヴァス	92.0×60.0	i・ii

メキシコ・ルネサンス：ディエゴ・リベラ

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ（cm）	
1	マヌエル・アルバレス・ブラボー	ディエゴ・リベラ	1930-40	ゼラチンシルバープリント・紙	25.4×20.3	i・ii
2	フリーダ・カーロ	死の仮面を被った少女	1938	油彩・ブリキ	14.9×11.0	ii
3	ホセ・クレメンテ・オロスコ	メキシコ風景	1932	油彩・キャンヴァス	76.1×93.9	i・ii
4	ディエゴ・リベラ	スペイン風景（トレド）	1913	油彩・キャンヴァス	89.0×110.0	i・ii
5	ディエゴ・リベラ	プロレタリアの団結	1933	フレスコ・石膏（3層），ワイヤラス（金網），合板	161.9×201.3	i・ii
6	ディエゴ・リベラ	ヘンリー・ノーウェッブの肖像	1935	油彩・板	115.1×91.2	i・ii
7	ディエゴ・リベラ	ホコの葬列		油彩・キャンヴァス	59.7×69.0	i・ii
8	ディエゴ・リベラ	自画像	1930	リトグラフ・紙	44.9×32.8	i・ii
9	ディエゴ・リベラ	タコスを持つ子供	1932	リトグラフ・紙	44.5×31.8	i・ii
10	ディエゴ・リベラ	大地の果実	1932	リトグラフ・紙	55.3×39.9	i・ii
11	ディエゴ・リベラ	夢	1932	リトグラフ・紙	42.5×30.5	i・ii
12	ダビッド・アルファロ・シケイロス	婦人像	1934	油彩・メゾナイト	152.7×78.7	i・ii
13	ダビッド・アルファロ・シケイロス	カウテモックの肖像	1947	ピロキシリン・メゾナイト	75.5×62.0	i・ii
14	ルフィーノ・タマヨ	夜の踊り子たち	1948	油彩・キャンヴァス	96.7×76.4	i・ii
15	ルフィーノ・タマヨ	横笛を吹く人	1983	油彩・キャンヴァス	129.0×95.5	i・ii

現代の美術：（前期）大きな物語、小さな日記

	1	荒川修作	忘れるということ(掘り起こされて出し尽くされていること)	1973-74	アクリル・キャンヴァス、コラージュ	195.5×609.9	i
	2	荒川修作	「忘れるということ」のための習作 No.1	1973-74	鉛筆・紙	85.0×105.0	i
	3	荒川修作	「忘れるということ」のための習作 No.2	1973-74	鉛筆、フェルトペン・透写紙、紙	97.0×127.0	i
	4	荒川修作	「忘れるということ」のための習作 No.3	1973-74	鉛筆、シルクスクリーン、コラージュ・紙	97.0×127.0	i
	5	荒川修作	「忘れるということ」のための習作 No.4	1973-74	鉛筆、フェルトペン、コラージュ・紙	97.0×127.0	i
	6	荒川修作	「忘れるということ」のための習作 No.5	1973-74	鉛筆、色鉛筆、コラージュ・紙	97.0×127.0	i
	7	荒川修作	「忘れるということ」のための習作 No.6	1973-74	鉛筆、シルクスクリーン・紙	97.0×127.0	i
	8	河原温	「IGotUp」シリーズ	1976	スタンプ、絵葉書　20通	各9.0×14.0	i
	9	河原温	百年カレンダー（18,864日）	1984	フェルトペン、シルクスリーン・紙	70.4×131.5	i
	10	岡本太郎	明日の神話	1968	油彩・キャンヴァス	132.7×728.9、3パネル	i
	11	ジェニー・ワトソン	この絵は画家が長距離ドライブに出掛けた後に描かれた/眠る少女	1992	アクリル・絹、キャンヴァス	50.0×104.0、41.0×30.0	i
	12	舟越桂	かたい布はときどき話す	1988	楠（着彩）、大理石	高さ 81.0	i
	13	舟越桂	「かたい布はときどき話す」のためのドローイング	1988	木炭、鉛筆・紙	97.0×86.3	i
	14	アンゼルム・キーファー	シベリアの王女	1988	ミクストメディア	280.0×501.0×6.5	i
	15	エドワード・ルッシェ	20世紀	1988	油彩・キャンヴァス	150.0×368.0	i
	16	フランク・ステラ	説教	1990	アルミニウム,ミクストメディア	345.5×365.8×139.7	i
	17	田淵銀芳	流氓ユダヤ−父子	1941/2005	g.s.p. オリジナル・ネガからのニュープリント	20.2×30.3	i
	18	田淵銀芳	流氓ユダヤ−チェス	1941/2005	g.s.p. オリジナル・ネガからのニュープリント	20.2×30.3	i
	19	田淵銀芳	流氓ユダヤ−男	1941/2005	g.s.p. オリジナル・ネガからのニュープリント	30.1×20.1	i
	20	椎原治	流氓ユダヤ−仲間	1941	g.s.p.	30.9×43.7	i
	21	椎原治	流氓ユダヤ−ヘブライの書	1941	g.s.p.	31.8×41.4	i
	22	椎原治	流氓ユダヤ−仮睡	1941	g.s.p.	35.7×43.2	i
	23	川崎亀太郎	流氓ユダヤ−題不詳（姉妹）	1941/2005	g.s.p. オリジナル・ネガからのニュープリント	20.2×30.1	i
	24	川崎亀太郎	流氓ユダヤ−題不詳（少女）	1941/2005	g.s.p. オリジナル・ネガからのニュープリント	20.1×29.9	i
＊	25	イケムラレイコ	赤の中に立って	1997	油彩・綿布	70.1×70.1	i
＊	26	イケムラレイコ	紫の中に横たわる	1998	テラコッタ、施釉	93.0×45.0×36.0	i
＊	27	坂本夏子	Octopus Restaurant	2010	油彩・キャンヴァス	70.1×70.1	i

現代の美術：（後期）浮遊感覚

	1	荒川修作	無題	1964	油彩・キャンヴァス　コラージュ	162.1×130.3	ii
	2	荒川修作	小さな細部としてのデュシャンの大ガラスとともにある図式	1964	アッサンブラージュ	230.0×168.0×57.0	ii
	3	河原温	Nov.17,1988	1988	アクリル・キャンヴァス	133.4×194.3	ii
	4	桑山忠明	無題	1978-79	アクリル・キャンヴァス	243.8×243.8	ii
	5	桑山忠明	無題	1978-79	アクリル・キャンヴァス	243.8×243.8	ii
	6	小清水漸	夢の浮舟―赤い舟	1987	木、石、水	85.0×300.0×40.0	ii
	7	庄司達	白い布による空間 '68-6	1968/2003	綿布、糸、塗装金属フレーム	216.0×202.0×202.0(布:89.5×89.5,19枚)	ii
＊	8	杉本博司	Orpheum, California	1977	g.s.p.	42.2×54.4	ii
	9	内藤礼	ナーメンロス/リヒト	1995	色鉛筆・紙	42.0×30.5	ii
	10	内藤礼	ナーメンロス/リヒト	1995	色鉛筆・紙	42.0×30.5	ii
☆＊	11	戸谷成雄	立ち昇る森	1999	木、灰、アクリル	166.0×30.0×30.0	ii
☆＊	12	戸谷成雄	レリーフ'98Ⅱ	1999	木、灰、アクリル	76.0×72.5×12.0	ii
＊	13	根岸芳郎	1991/3/8	1991	アクリル・キャンヴァス	200.0×270.0	ii
＊	14	田島秀彦	雨と雨粒	2010	アクリル、MDFパネル、電球、モーター	182.0×140.0	ii
	15	フリーデンスライヒ・フンデルトワッサー	蝉凪（原画:HWG102 557B 雨と家並み）	1990	彩色、蝉凪	30.0×36.0	ii
	16	フリーデンスライヒ・フンデルトワッサー	蝉凪（原画:HWG103 870A タヒチに降る雨）	1990	彩色、蝉凪	30.0×36.0	ii
	17	福岡道雄	琵琶湖の凪	1982	FRP	183.8×120.7×47.1	ii
＊	18	アニッシュ・カプーア	Void No.3	1989	顔料・ファイバーグラス	121.9×121.9×91.4	ii
	19	アンゼルム・キーファー	シベリアの王女	1988	ミクストメディア	280.0×501.0×6.5	ii
	20	李禹煥	風とともに	1990	油彩・キャンヴァス 4パネル	260.0×776.0	ii
	21	イサム・ノグチ	死すべきもの	1959-62	ブロンズ	190.0×51.0×48.0	ii
	22	フランク・ステラ	説教	1990	アルミニウム,ミクストメディア	345.5×365.8×139.7	ii

郷土の美術：（前期）遠くを見つめる―欧米へのまなざし

	1	水野誠司・初美	「フィンランド・ポートフォリオ」より　椅子、トペリウス通り	2013	パラジウム・プリント	11.4×11.4	i
	2	水野誠司・初美	「フィンランド・ポートフォリオ」より　リータ・パイメンサロ	2013	パラジウム・プリント	14.5×14.5	i
	3	水野誠司・初美	「フィンランド・ポートフォリオ」より　北の方へ	2013	パラジウム・プリント	15.2×22.9	i
	4	水野誠司・初美	「フィンランド・ポートフォリオ」より　浮光	2013	パラジウム・プリント	14.2×14.2	i
	5	水野誠司・初美	「フィンランド・ポートフォリオ」より　雪の丘	2013	パラジウム・プリント	17.8×17.8	i
	6	水野誠司・初美	「フィンランド・ポートフォリオ」より　イースターの光 #2	2013	パラジウム・プリント	22.9×15.2	i
	7	水野誠司・初美	「フィンランド・ポートフォリオ」より　バルティック海	2013	パラジウム・プリント	16.5×16.5	i
	8	河原温	Todayシリーズ	1987	リキテックス・キャンヴァス	25.5×33.0	i
	9	久野利博	BODY DISTANCE/August.13,1982(Firenze,Italy)	1982	ゼラチン・シルバー・プリント	90.0×60.0	i

郷土の美術：（後期）近くを見つめる―名古屋の風景

☆	1	臼井薫	写真集「戦後を生きた子供達　昭和22-32年」より　私のペット　名古屋　北区	1955	ゼラチン・シルバー・プリント	30.9(31.6)×23.5(24.1)	ii
☆	2	臼井薫	写真集「戦後を生きた子供達　昭和22-32年」より　裏町の兄弟　名古屋　中川区	n.d.	ゼラチン・シルバー・プリント	35.8(36.3)×25.4(26.1)	ii
☆	3	臼井薫	写真集「戦後を生きた子供達　昭和22-32年」より　明日に向って　名古屋　北区	1954	ゼラチン・シルバー・プリント	29.9(30.5)×24.6(25.0)	ii
☆	4	臼井薫	写真集「戦後を生きた子供達　昭和22-32年」より　かえり道　名古屋　港区	n.d.	ゼラチン・シルバー・プリント	23.1(23.7)×29.8(30.5)	ii
☆	5	臼井薫	写真集「戦後を生きた子供達　昭和22-32年」より　魚とりのかえり道　名古屋　北区	n.d.	ゼラチン・シルバー・プリント	20.6(21.2)×28.4(28.9)	ii
☆	6	臼井薫	写真集「戦後を生きた子供達　昭和22-32年」より　猫だよ　名古屋　北区	n.d.	ゼラチン・シルバー・プリント	31.7(32.1)×27.4(27.9)	ii
☆	7	臼井薫	写真集「戦後を生きた子供達　昭和22-32年」より　遅い母　名古屋　東区	n.d.	ゼラチン・シルバー・プリント　フェロタイプ	22.8×16.7	ii
	8	久野利博	BODY DISTANCE/February.1,1981(Nagoya)	1981	ゼラチン・シルバー・プリント	90.0×60.0	ii
	9	高松次郎	「イメージの空間:名古屋駅の人々」のための構想ドローイング	1989	鉛筆・紙	各54.7×79.2	ii

名品コレクション展 Ⅱ

会期：2015年10月 3 日（土）～12月20日（日）

常設展示室１・２

出品作品

＊：寄託作品　☆：初出品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ（cm）
コレクション解析学					
☆ 1	鷲見麿	Portrait of Battista Sforza, Portrait of Federico da Montefeltro and Portrait of Aoki（3点1組）	1995	油彩・ボード（2点） 油彩・キャンヴァス（1点）	42.3×30.5（2点） 12.7×10.0（1点）
エコール・ド・パリ：藤田と荻須～パリの日本人画家たち～					
1	アメデオ・モディリアーニ	おさげ髪の少女	c.1918	油彩・キャンヴァス	60.1×45.4
2	マルク・シャガール	二重肖像	1924	油彩・キャンヴァス	130.0×100.0
3	マリー・ローランサン	横たわる裸婦	1908	油彩・キャンヴァス	38.0×46.4
4	ハイム・スーチン	セレの風景	c.1922	油彩・キャンヴァス	79.8×87.2
5	モーリス・ユトリロ	ラパン・アジール	c.1913	油彩・キャンヴァス	50.0×65.0
＊ 6	藤田嗣治	裸婦	1928	油彩・キャンヴァス	73.0×101.0
7	藤田嗣治	自画像	1929	油彩、鉛筆、金箔・キャンヴァス	81.4×65.5
8	藤田嗣治	家族の肖像	1932	鉛筆、パステル・紙	86.5×67.2
9	岡鹿之助	魚	1927	油彩・キャンヴァス	60.0×73.0
10	海老原喜之助	風景	1927	油彩・キャンヴァス	81.4×100.3
＊ 11	荻須高徳	エドガー・キネ通りの市場	1929	油彩・キャンヴァス	60.0×73.0
＊ 12	荻須高徳	“リカール”の広告があるタバコ屋	1954	油彩・キャンヴァス	60.0×73.0
13	荻須高徳	アムステルダムの運河	1954	油彩・キャンヴァス	92.3×65.6
14	荻須高徳	洗濯場、オーヴェルヴィリエ	c.1960	油彩・キャンヴァス	116.3×89.2
現代の美術：参照/引用/言及					
1	荒川修作	忘れるということ（掘り起こされて出し尽くしていること）	1973-74	アクリル、コラージュ・キャンヴァス	195.5×609.9
☆ 2	岩田信市	砂漠の女	1977	アクリル、コラージュ・キャンヴァス	92.5×183.0
☆ 3	岩田信市	浴槽の女王	1983	アクリル・キャンヴァス	123.0×243.5
4	河原温	〈I Got Up〉シリーズ	1976	スタンプ、絵葉書	各9.0×14.0
☆ 5	岸本清子	［草原の女］	c.1970	水彩・紙	51.0×75.0
☆ 6	岸本清子	［Erotical Girl（エロティカル・ガール）］	c.1983	パステル・紙	65.0×50.0
☆ 7	岸本清子	［Erotical Girl（エロティカル・ガール）］	c.1983	パステル・紙	50.0× 65.0
☆ 8	岸本清子	［Erotical Girl（エロティカル・ガール）］	c.1983	パステル・紙	65.0× 50.0
＊ 9	中村正義	舞子図	1973	紙本着彩	22.7×15.8
＊ 10	中村正義	舞子図	1973	紙本着彩	22.7×15.8
＊ 11	中村正義	舞子図	1973	紙本着彩	22.7×15.8
＊ 12	中村正義	舞子図	1973	紙本着彩、鉛筆	22.7×15.8
＊ 13	中村正義	舞子図	1973	紙本着彩、鉛筆	22.7×15.8
＊ 14	中村正義	舞妓図	1974	紙本着彩、擦り出し	33.5×24.5
＊ 15	中村正義	舞妓図	1974	紙本着彩、鉛筆	22.7×15.8
＊ 16	中村正義	舞妓図	1974	紙本着彩	22.7×15.8
＊ 17	中村正義	舞妓図	1974	紙本着彩	22.7×15.8
＊ 18	中村正義	舞妓図	1974	紙本着彩	22.7×15.8
19	福田美蘭	陶器（スルバランによる）	1992	カラー写真	46.2×85.7×3.3
20	福田美蘭	陶器（スルバランによる）	1992	カラー写真、レンチキュラー・レンズ	47.9×86.0×3.5
21	森村泰昌	兄弟（虐殺I）	1991	カラー写真、メディウム・パネル	240.0×309.0
22	森村泰昌	兄弟（虐殺II）	1991	カラー写真、メディウム・パネル	240.0×309.0
＊ 23	ロイ・リキテンスタイン	積み藁　#1	1969	リトグラフ、スクリーンプリント	34.0×59.7
＊ 24	ロイ・リキテンスタイン	積み藁　#2	1969	リトグラフ、スクリーンプリント	34.0×59.7
＊ 25	ロイ・リキテンスタイン	積み藁　#3	1969	リトグラフ、スクリーンプリント	34.3×59.9
26	アンゼルム・キーファー	シベリアの王女	1988	ミクストメディア	280.0×501.0×6.5
27	フランク・ステラ	説教	1990	アルミニウム、ミクストメディア	345.5×365.8×139.7

メキシコ・ルネサンス：ダビッド・アルファロ・シケイロス

1	マヌエル・アルバレス・ブラボ	ダビッド・アルファロ・シケイロス	1939–40	ゼラチンシルバープリント・紙	25.4×20.3
2	ホセ・クレメンテ・オロスコ	メキシコ風景	1932	油彩・キャンヴァス	76.1×93.9
3	フリーダ・カーロ	死の仮面を被った少女	1938	油彩・ブリキ	14.9×11.0
4	ダビッド・アルファロ・シケイロス	婦人像	1934	油彩・メゾナイト	152.7×78.7
5	ダビッド・アルファロ・シケイロス	独立1818年	1941	インク、デュコ・紙、キャンヴァス	51.7×99.0
6	ダビッド・アルファロ・シケイロス	征服者ケンタウロス	1945	リトグラフ・紙	75.0×55.0
7	ダビッド・アルファロ・シケイロス	カウテモックの肖像	1947	ピロキシリン・メゾナイト	75.5×62.0
8	ダビッド・アルファロ・シケイロス	ビルバオとガルバリノ	1957	リトグラフ・紙	88.3×74.7
9	ダビッド・アルファロ・シケイロス	幼き母親	1956	リトグラフ・紙	93.5×66.5
10	ダビッド・アルファロ・シケイロス	奴隷	1961	アクリル・板	86.4×64.8
11	ダビッド・アルファロ・シケイロス	母と子	1962	デュコ・メゾナイト	80.2×61.2
12	ルフィーノ・タマヨ	苦悶する人	1949	油彩・キャンヴァス	100.0×80.0
13	ディエゴ・リベラ	ホコの葬列	n.d.	油彩・キャンヴァス	59.7×69.0
14	ディエゴ・リベラ	プロレタリアの団結	1933	フレスコ・石膏（3層）、ワイヤラス（金網）、合板	161.9×201.3

郷土の美術：やまと絵

1	朝見香城	南蛮船	n.d.（昭和）	紙本着彩 額	133.0×214.0
2	石川英鳳	［葵上］	［1920s］	絹本着彩 額	204.0×94.5
3	服部有恒	業平観梅	［1930s］	紙本着彩 屏風（二曲一隻）	147.0×146.0
4	林雲鳳	玄上	1929	絹本着彩 軸	225.5×134.6
5	林雲鳳	松の下露図	1934	絹本着彩 額	229.0×171.5
6	前田青邨	宿場	c.1914–15	絹本墨画淡彩 軸	128.2×50.3
7	前田青邨	修羅道	［1920s–30s］	絹本着彩 軸	139.3×55.0
8	森村宜永	合戦図	1929以前	絹本着彩 額	174.3×208.3
9	山田秋衛	竜宮城図屏風	c.1930	絹本着彩 屏風（六曲一隻）	139.0×293.0

名品コレクション展 Ⅲ

会期：2016年 1 月 5 日（火）～ 4 月17日（日）

常設展示室１・２

＊：寄託品　☆：初出品
ⅰ：前期 1 月 5 日（火）～ 2 月21日（日）
ⅱ：後期 3 月 5 日（土）～ 4 月17日（日）

出品作品

コレクション解析学

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ（cm）	
1	辰野登恵子	WORK 86-P-12	1986年	油彩・キャンヴァス	291.0×218.0	ⅰ
2	ハイム・スーチン	農家の娘	1919年頃	油彩・キャンヴァス	80.0×45.0	ⅱ

エコール・ド・パリ：スローンとマーシュ～同時代のアメリカ美術～

1	アメデオ・モディリアーニ	おさげ髪の少女	1918年頃	油彩・キャンヴァス	60.1×45.4	
2	マルク・シャガール	二重肖像	1924年	油彩・キャンヴァス	130.0×100.0	
3	キスリング	ルネ・キスリング夫人の肖像	1920年	油彩・キャンヴァス	73.7×54.6	
4	キース・ヴァン・ドンゲン	コルセットの女	1908年	油彩・キャンヴァス	65.0×50.0	
5	ジュール・パスキン	横たわるエリアーヌ	1929年	油彩・キャンヴァス	73.2×92.6	
6	ハイム・スーチン	農家の娘	1919年頃	油彩・キャンヴァス	80.0×45.0	
7	マリー・ローランサン	アポリネールの娘	1924年頃	油彩・キャンヴァス	73.1×54.0	
8	ジョン・スローン	ヴィレッジ監獄の解体	1929年	テンペラ、油彩・厚紙	72.6×61.0	
9	ベン・シャーン	牛乳工場で働く囚人たち	1934年	グワッシュ・紙	35.6×49.5	
10	ベン・シャーン	健康診断を受ける囚人たち	1934年	テンペラ・厚紙	26.8×39.8	
＊ 11	トーマス・ハート・ベントン	サワーウッド・マウンテンでいい娘を見つけた	1938年	リトグラフ・紙	51.4×41.9	
＊ 12	トーマス・ハート・ベントン	オールド97号の遭難	1944年	リトグラフ・紙	45.7×55.9	
＊ 13	レジナルド・マーシュ	二番街高架鉄道	1930年	エッチング・紙	43.8×49.2	ⅰ
＊ 14	レジナルド・マーシュ	陽気なバーレスク	1930年	エッチング・紙	49.2×43.8	ⅰ
＊ 15	レジナルド・マーシュ	刺青、髭剃り、散髪	1932年	エッチング・紙	49.2×43.8	ⅰ
＊ 16	レジナルド・マーシュ	パンの行列（誰も飢え死にはしない）	1932年	エッチング・紙	43.8×49.2	ⅰ
＊ 17	レジナルド・マーシュ	スティープルチェイス	1932年	エッチング・紙	43.8×49.2	ⅰ
＊ 18	レジナルド・マーシュ	バーレスクのスター	1933年	エッチング・紙	49.2×43.8	ⅰ
＊ 19	レジナルド・マーシュ	エリー鉄道蒸気機関車の給水	1934年	エッチング・紙	43.8×49.2	ⅰ
＊ 20	レジナルド・マーシュ	五月の朝	1936年	エッチング・紙	43.8×49.2	ⅱ
＊ 21	レジナルド・マーシュ	空中ブランコ	1936年	エッチング・紙	43.8×49.2	ⅱ
＊ 22	レジナルド・マーシュ	木馬	1936年	エッチング・紙	43.8×49.2	ⅱ
＊ 23	レジナルド・マーシュ	バッテリー（美人）	1938年	エッチング・紙	43.8×49.2	ⅱ
＊ 24	レジナルド・マーシュ	コニー・アイランド・ビーチ　No.1	1939年	エッチング・紙	43.8×49.2	ⅱ
＊ 25	レジナルド・マーシュ	メトロポリタン劇場の特別席	1939年	エッチング・紙	43.8×49.2	ⅱ
＊ 26	レジナルド・マーシュ	1939年のモダン・ヴィーナス	1939年	エッチング・紙	43.8×49.2	ⅱ

現代の美術：（前期）ブランクー虚無

1	荒川修作	大気のようで何かに似ているもの:意図のある空間	1982-83年	アクリル・キャンヴァス、5パネル	335.5×1,091	ⅰ
2	河原温	APR. 1, 1978	1978年	リキテックス・キャンヴァス	33.0×44.0	ⅰ
3	河口龍夫	DARK BOX 2008	2008年	鉄・闇	37.0×60.0×35.0	ⅰ
4	内藤礼	ナーメンロス/リヒト	1995年	色鉛筆・紙	42.0×30.5	ⅰ
5	内藤礼	ナーメンロス/リヒト	1995年	色鉛筆・紙	42.0×30.5	ⅰ
6	櫃田伸也	あいまいな風景	1993年	油彩・キャンヴァス	181.8×227.3	ⅰ
7	櫃田伸也	あいまいな風景	1993年	油彩・キャンヴァス	181.8×227.3	ⅰ
8	村上友晴	無題	1981/1982年	木炭、油彩・キャンヴァス	162.0×130.0	ⅰ
＊ 9	アニッシュ・カプーア	虚空No.3	1989年	顔料・ファイバーグラス	121.9×121×91.4	ⅰ
10	アンゼルム・キーファー	シベリアの王女	1988年	ミクストメディア	280.0×501.0×6.5	
11	李禹煥	コレスポンダンス	1992年	油彩・キャンヴァス	227.0×182.0	ⅰ
12	リサ・ミルロイ	皿	1992年	油彩・キャンヴァス	188×243.8	ⅰ
13	ナムジュン・パイク	ロボット家族（お父さん/お母さん）	1986年	テレビ・ビデオ	お父さん-226.1x139.1x52.1 お母さん-203.1x153.7x53.3	ⅰ
14	フランク・ステラ	説教	1990年	アルミニウム,ミクストメディア	345.5×365.8×139.7	

現代の美術：（後期）鏡ー実像と虚像

	1	荒川修作	デュシャンの大ガラスを小さな細部としている図式	1964年	アッサンブラージュ	230.0×168.0×57.0	ii
*	2	加納光於	星・反芻学	1962年	インタリオ・紙	45.1×42.3	ii
*	3	加納光於	SOLDERED BLUE (はんだづけされた青)	1965年	インタリオ・紙	47.3×43.0	ii
*	4	加納光於	暁に呼ばれてI	1991-92年	カラーインタリオ・紙	61.2×50.5	ii
	5	河原温	APR. 1, 1978	1978年	リキテックス・キャンヴァス	33.0×44.0	ii
*	6	坂本夏子	Octopus Restaurant（蛸のレストラン）	2010年	油彩・キャンヴァス	227.0×182.0	ii
	7	設楽知昭	鏡よりモノタイプ	1988年	カーボン、リンシード油、雁皮紙	176.0×97.0	ii
	8	設楽知昭	鏡よりモノタイプ	1988年	カーボン、リンシード油、雁皮紙	176.0×97.0	ii
	9	設楽知昭	鏡よりモノタイプ	1988年	カーボン、リンシード油、雁皮紙	176.0×97.0	ii
	10	高松次郎	《イメージの空間:名古屋駅の人々》のための構想ドローイング	1989年	鉛筆・紙　18枚1組	No.1-2:各26.4×73.1　No.3-18:各54.7×79.2	ii
*	11	瀧口修造	デカルコマニー	1962年	水彩・紙	16.9×10.5	ii
*	12	瀧口修造	デカルコマニー	1964年	水彩・紙	13.2×9.3	ii
*	13	瀧口修造	デカルコマニー	1962年	水彩・紙	16.7×10.5	ii
	14	福岡道雄	琵琶湖の凪	1982年	FRP	183.8×120.7×47.1	ii
	15	村上友晴	無題	1981/1982年	木炭、油彩・キャンヴァス	162.0×130.0	ii
*	16	アニッシュ・カプーア	虚空No.3	1989年	顔料・ファイバーグラス	121.9×121×91.4	ii
	17	アンゼルム・キーファー	シベリアの王女	1988年	ミクストメディア	280.0×501.0×6.5	
*	18	ロイ・リキテンスタイン	鏡＃5（鏡シリーズ）	1972年	リトグラフ、スクリーンプリント・紙	87×61.6	ii
*	19	ロイ・リキテンスタイン	鏡の前で（心の鏡ポートフォリオ）	1975年	リトグラフ、スクリーンプリント・紙	89.5×63.5	ii
	20	フランク・ステラ	説教	1990年	アルミニウム,ミクストメディア	345.5×365.8×139.7	
	21	ビル・ヴィオラ	映りこむ池	1977-79年	DVD	7min	ii

メキシコ・ルネサンス：ホセ・クレメンテ・オロスコ

1	フリーダ・カーロ	死の仮面を被った少女	1938年	油彩・ブリキ	14.9×11.0	
2	マリア・イスキエルド	生きている静物	1947年	油彩・キャンヴァス	80.3×99.7	
3	ディエゴ・リベラ	プロレタリアの団結	1933年	フレスコ・石膏（3層）、ワイヤラス（金網）、合板	161.9×201.3	
4	ダヴィッド・アルファロ・シケイロス	奴隷	1961年	アクリル・板	86.4×64.8	
5	ルフィーノ・タマヨ	横笛を吹く人	1983年	油彩・キャンヴァス	129.0×95.5	
6	北川民次	トラルパム霊園のお祭り	1930年	油彩・キャンヴァス	99.5×89.8	
7	ホセ・クレメンテ・オロスコ	地下鉄/労働者（失業者）	1929年	油彩・キャンヴァス	46.5×53.8	
8	ホセ・クレメンテ・オロスコ	メキシコ風景	1932年	油彩・キャンヴァス	76.1×93.9	
9	ホセ・クレメンテ・オロスコ	白い神々	1947年頃	油彩・メゾナイト	71.0×91.5	
10	ホセ・クレメンテ・オロスコ	[スケッチブック]より　7	不詳	インク、グアッシュ・紙　29点1組	34.0×21.5（紙サイズ）	
11	ホセ・クレメンテ・オロスコ	[スケッチブック]より　13	不詳	インク、グアッシュ・紙　29点1組	34.0×21.5（紙サイズ）	
12	ホセ・クレメンテ・オロスコ	[スケッチブック]より　15	不詳	インク、グアッシュ・紙　29点1組	34.0×21.5（紙サイズ）	
13	ホセ・クレメンテ・オロスコ	[スケッチブック]より　16	不詳	インク、グアッシュ・紙　29点1組	34.0×21.5（紙サイズ）	
14	ホセ・クレメンテ・オロスコ	[スケッチブック]より　21	不詳	インク、グアッシュ・紙　29点1組	34.0×21.5（紙サイズ）	
15	ホセ・クレメンテ・オロスコ	[スケッチブック]より　27	不詳	インク、グアッシュ・紙　29点1組	34.0×21.5（紙サイズ）	
16	ホセ・クレメンテ・オロスコ	レクイエム	1928年	リトグラフ・紙	29.8×40.0	
17	ホセ・クレメンテ・オロスコ	曲芸士たちI	1944年	アクアチント・紙	17.0×13.0	
18	ホセ・クレメンテ・オロスコ	失業者たち	1944年	エッチング、アクアチント・紙	23.0×17.0	

郷土の美術：（前期）渡欧した郷土の画家たち

	1	伊藤廉	A.E.氏の肖像	1929年	油彩・キャンヴァス	100.8×81.0	i
*	2	荻須高徳	エドガー・キネ通りの市場	1929年	油彩・キャンヴァス	60.0×73.0	i
	3	鬼頭甕次郎	風景	1925年	油彩・キャンヴァス	60.0×73.0	i
	4	佐分眞	自画像	1927年	油彩・板	45.8×38.0	i
	5	佐分眞	食後	1931年頃	油彩・キャンヴァス	130.3×162.1	i
	6	鶴田吾郎	パリ（セーヌ河）	1930年	コンテ・紙	33.5×46.1	i
	7	鬼頭鍋三郎	手をかざす女	1934年	油彩・キャンヴァス	191.0×129.0	i
	8	鬼頭鍋三郎	エル・モニック	1954年	油彩・キャンヴァス	90.9×72.2	i
	9	三岸節子	室内	1942年	油彩・キャンヴァス	91.0×60.8	i
	10	三岸節子	雷がくる	1979年	油彩・キャンヴァス	89.0×116.3	i
	11	宮田重雄	滞欧スケッチ（Cagne sur mer 29, 12, 1928）	1928-30年頃	鉛筆、水彩・紙　19枚1組	30.0×38.0	i
	12	宮田重雄	滞欧スケッチ（Cagne sur mer 26, Janvier 1929）	1928-30年頃	鉛筆、水彩・紙　19枚1組	30.0×38.0	i
	13	矢橋六郎	サンポール2（南仏）	1932年	油彩・キャンヴァス	61.2×73.2	i
	14	山本鼎	「ブルトンヌ」画稿	1913年	鉛筆、インク、水彩・紙	13.8×10.8	i

郷土の美術：(後期)日本画の伝統と革新

1	川合玉堂	秋嶺白雲	1940年頃	絹本着彩　軸	78.8×99.4	ii
2	大野俶嵩	緋	1963年	絹本着彩、ジュート	117.0×93.0	ii
3	嶋谷自然	砂丘と海	1967年	紙本着彩	176.5×212.9	ii
4	田渕俊夫	ヨルバの花	1968年	紙本着彩	130.0×160.0	ii
5	中村正義	男	1963年	紙本着彩、ダンボール	161.9×129.7	ii
6	星野眞吾	喪中の作品	1965年	紙本着彩	183.0×123.2	ii
7	平川敏夫	樹凌	1967年	紙本着彩	169.6×239.5	ii
8	水谷勇夫	狂宴	1962年	紙本着彩	72.5×90.0	ii
9	堀尾実	フィロ	1950年	紙本着彩、銀箔	90.8×116.5	ii

(2)常設企画展
Thematic Exhibition

北川民次の絵画技法
—自然科学的調査と再現研究を通して—
Painting Technique of Tamiji Kitagawa

会期：2015年 1 月 5 日(火)～ 2 月21日(日)

会場風景 1

主催
名古屋市美術館、愛知県立芸術大学

助成
公益財団法人　日東学術振興財団

協力
公益財団法人　かみや美術館
愛知県立芸術大学 芸術創造センター
愛知県立芸術大学 保存修復研究所
東京藝術大学 大学院 木島研究室

会場風景 2

観覧料
一般300円、高大生200円、中学生以下無料
＊常設展チケットと共通

出品作品

No.	作家名	作品名	制作年	素材・技法	サイズ(cm)	所蔵
1	北川民次	メキシコ水浴の図	1930年	油彩・キャンヴァス	78.6×68.5	名古屋市美術館
2	北川民次	タスコの山B	1934年	油彩・木質ボード	45.5×60.6	名古屋市美術館
3	北川民次	カンディダ(無垢の女)	1935年	油性テンペラ・石膏ボード	60.8×46.0	公益財団法人かみや美術館
4	北川民次	女の像	1935年	油性テンペラ・石膏ボード	61.1×46.0	公益財団法人かみや美術館
5	北川民次	作文を書く少女	1939年	油彩・キャンヴァス	73.4×60.7	名古屋市美術館
6	北川民次	瀬戸登り窯	1940年頃	油彩・キャンヴァス	80.5×100.3	名古屋市美術館
7	北川民次	赤津陶工の家	1941年	テンペラ・キャンヴァス	128.1×163.6	名古屋市美術館
8	藤田嗣治	裸婦	1928年	油彩・キャンヴァス	73.0×101.0	名古屋市美術館(寄託)
9	ディエゴ・リベラ	ホコの葬列	1920年代	油彩・キャンヴァス	59.7×69.0	名古屋市美術館
10	ダヴィッド・アルファロ・シケイロス	カウテモックの肖像	1947年	ピロキシリン・メゾナイト	75.5×62.0	名古屋市美術館
11	ルフィーノ・タマヨ	黒人の仮面(カーニバル)	1939年	テンペラ・リンネル	44.8×60.4	名古屋市美術館

※ No. 2～5まで4作品の素材・技法については、今回の調査で新たに判明した情報を提示した。

内容

北川民次(1894 ～ 1989)は、児童美術教育の研究者・実践家であるとともにメキシコ美術の紹介者としても知られ、戦後名古屋を中心に活動を展開した洋画家である。本展は、名古屋市美術館と愛知県立芸術大学による共同研究の成果展示として、公益財団法人かみや美術館の協力をいただき、メキシコ滞在期の作品を主として様々な光学調査や顔料分析などの自然科学的調査と、画家の書き残した文献・手記記録を照合しながら制作の秘密を解き明かした。

関連事業

記念シンポジウム「北川民次の絵画技法　―研究の現場から―」

日　　時：1月23日(土)午後2時～
基調講演：歌田眞介(東京藝術大学名誉教授)
メキシコ音楽演奏：愛知県立芸術大学打楽器科学生
研究討論会：歌田眞介(東京藝術大学名誉教授)、
森田恒之(東京藝術大学客員教授)、
田中敬一(愛知県立大学教授)、
白河宗利(愛知県立大学芸術大学准教授)、
山田諭(当館学芸課長)
会　　場：2階講堂

ワークショップ「絵具をつくって描く」＊事前申込、参加費無料

日　　時：1月31日(日)午後2時～
講　　師：白河宗利(愛知県立芸術大学准教授)
会　　場：地階キッズコーナー
対　　象：小学3年生以上

レクチャー「科学の眼で見る絵画」＊事前申込、参加費無料

日　　時：2月14日(日)午後2時～
講　　師：森田恒之(東京藝術大学客員教授)
会　　場：2階講堂
対　　象：一般成人

メキシコ音楽演奏

研究討論会

ワークショップ「絵具をつくって描く」

レクチャー「科学の眼で見る絵画」

白土舎コレクションによる鷲見麿展
～第一級恋愛罪～

Sumi Maro: A Selection from Hakutosha Collection

会期：2015年10月３日（土）～12月20日（日）

会場

常設展示室３

内容

岐阜県関市（旧洞戸村）に生まれ、三重県四日市市に在住する鷲見麿（1954－）は、明るい色彩で風景のなかに美女を描く作風で知られ、その個性的な作品からこの地域を代表する異色作家として注目されてきた。鷲見は、自身が設立したフリースペースで心身に障害や病のある人と活動してきたが、現在は画廊や美術館で作品を発表することから距離を置き、新しい美術のあり方をその経験を発展させつつ模索し、かたちあるものにする活動に取り組んでいる。

鷲見は、久しく白土舎で作品発表を行ってきた。白土舎は名古屋の伏見にあった画廊で、1992年の開廊、2010年に閉廊しているが、昨年度（平成26年度）に所有の鷲見麿作品を一括して当館にご寄贈いただいた。全部で50点からなるこの白土舎コレクションは1975年から2006年までの作品を含んでおり、1974年の初個展から白土舎閉廊までの35年に及ぶ作家の制作の歩みを見通せる内容となっている。本展ではそのなかから28点を選び、鷲見の創作世界を紹介した。あわせて名品コレクション展Ⅱにおいて、コレクション解析学の対象作品として１点を紹介した。

関連事業

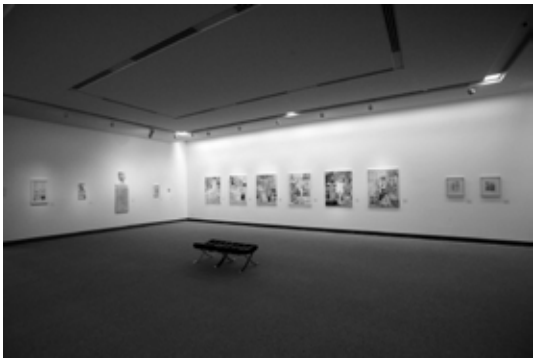
コレクション解析学2015-16　第３回

日　時：2015年11月22日（日）午後２時～

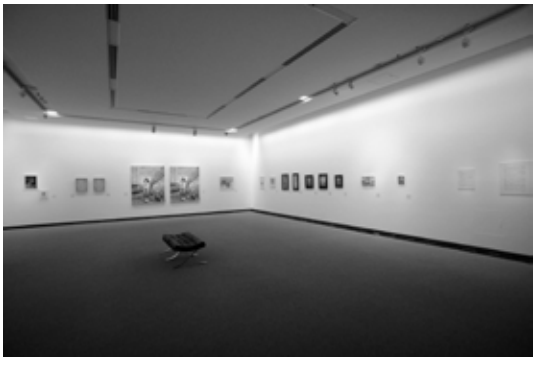
演　題：「それは罪なのか?」

講　師：角田美奈子（名古屋市美術館学芸員）

作　品：鷲見麿《Portrait of Battista Sforza, Portrait of Federico da Montefeltro and Portrait of Aoki》（３点１組）　1995年



会場風景１



会場風景２

出品作品

※シリーズならびにそこに含まれる作品は、『鷲見麿大凡全集』(特定非営利法人フリースペースめだかの学校、2008年)に従っている。
※末尾に「コレクション解析学2015-16」(第3回)の対象作品を付記する。

No.	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(cm)	備考
典子に捧げるシリーズ					
1	無題	1975	パステル・紙	23.4×16.2	
2	無題	1975	パステル・紙	32.7×25.0	
3	無題	1975	パステル・紙	30.0×25.0	
のりこに捧げるバラード					
4	風呂覗き	1976	パステル・紙	50.3×22.1	
5	記念写真	1976	パステル、鉛筆・紙	50.0×32.5	
6	にやけた裸体	1981	パステル・紙	22.0×25.0	
美女シリーズ					
7	ABBEY ROAD	1982	パステル、色鉛筆、水彩・紙	44.0×32.5	
青紀の時代					
8	Crazy for you	1987	パステル・紙	50.0×65.5	
9	13人の青紀 No.3	1990	油彩・キャンヴァス	162.1×130.3	
10	13人の青紀 No.6	1990	油彩・キャンヴァス	162.1×130.3	
11	13人の青紀 No.5	1991	パステル・紙	42.0×30.0	
12	13人の青紀 No.8	1991	パステル・紙	42.0×30.0	
13	悪魔に抱かれてF	1993	ミクストメディア	20.0×15.0×7.0	
14	第一級恋愛罪・青紀 まさよ	1993	ミクストメディア	各26.0×20.0×3.0	2点1組
15	Winter	1995	油彩・キャンヴァス	42.3×30.5、23.1×16.2	2点1組
聖なる美女ファティア					
16	Untitled No.2	1995	色鉛筆・紙	41.0×32.0	
17	Untitled No.3	1995	色鉛筆・紙	41.0×32.0	
18	BT	1996	油彩・キャンヴァス	117.0×90.3	
19	芸術新潮	1996	油彩・キャンヴァス	117.0×90.3	
20	太陽	1996	油彩・キャンヴァス	117.0×90.3	
21	みずゑ	1996	油彩・キャンヴァス	117.0×90.3	
22	VOGUE	1996	油彩・キャンヴァス	117.0×90.3	
23	AMICA	1996	油彩・キャンヴァス	117.0×90.3	
24	FATIAH No.4	1998	油彩、アクリル・木	12.0×9.0×4.5	
25	ファテイアの解剖学　その4	2001	油彩、アクリル・木	44.0×24.7×7.4	
26	聖なるファティア VII	2004	ミクストメディア	152.6×60.2×17.0	
27	聖なるファティア XVIII	2006	ミクストメディア	54.0×22.1×11.5	
28	聖なるファティア XVIII (blue print)	2006	ミクストメディア	70.1×40.0×5.0	

「コレクション解析学2015-16」(第3回)の対象作品

No.	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(cm)	備考
	Portrait of Battista Sforza,Portrait of Federico da Montefeltro and Portrait of Aoki	1995	油彩・ボード(2点) 油彩・キャンヴァス	42.3×30.5(2点) 12.7×10.0	3点1組

思い出の中の揺らめきーJコレクション

The Memory – It was waved. From the J collection

会期：2016年3月5日（土）～4月17日（日）

内容

コレクターのJご夫妻は、1980年代より長年にわたり、名古屋で若手のアーティストをサポートし、作家たちとの交流を続けながら、作品を収集してきた。

1985年から86年にかけて名古屋に滞在し制作して以来、長年交流を続けてきた辰野登恵子の作品や、愛知県立芸術大学で日本画を専攻した杉戸洋の学生時代の作品や初期の代表的シリーズ「アニマル・マン」。不可思議な絵画世界を展開し名古屋を拠点に活躍を続ける設楽知昭や、幻想的な女性像を表現するイケムラレイコ。ベルベットを脱色して遠い記憶のイメージが浮かび上がってくるように描き出す染谷亜里可や、巨大なインスタレーション作品を展開している塩田千春の作品のエッセンスが詰まった彫刻作品。それらの作品は個人のコレクションとはいえ、いずれも90年代以降の日本の現代美術の動向を今日に伝える優れた表現でもある。

展覧会のタイトルの「思い出の中のゆらめき」というのは、Jご夫妻がある作品を購入しようと思ったときに、作品がゆらめいて見えたことに由来している。

生活の中に取り入れられ愛されてきたJコレクションの作品からは、コレクターのアートへの愛とともに名古屋を中心に発表してきたアーティストや、名古屋で紹介されてきた現代アートの変遷をたどることもできる。その貴重なJコレクションの中から、選りすぐりの作品を紹介した。

会場風景１

会場風景２

出品作品

番号	作家名	作品名		材料	サイズ
1	イケムラレイコ	赤の中に立って	1996	油彩・綿キャンヴァス	70.1×70.1
2	イケムラレイコ	紫の中に横たわる	1998	テラコッタ・施釉	H36×93×45
3	今村哲	宇宙飛行士最後の夢	2001	蜜蝋、顔料、アクリル・キャンヴァス	146×123
4	奥井ゆみ子	Counter	1999	油彩・キャンヴァス	120.5×139.8
5	鬼頭健吾	supernova body	2004	サッカーボール、ビニール人形	H42×50×46
6	鬼頭健吾	diffuse nebula	2007	LED、樹脂、ガラス他	H29×25×25
7	塩田千春	眼球	2005	医学用眼球モデル、糸、鉄枠	H50×50×51.5
8	塩田千春	トラウマ/日常　赤い靴	2007	靴、糸、鉄枠	H50×25×25
9	塩田千春	行くべき場所、あるべきものーガラス	2010	トランク、セメント、ガラス、糸、ドローイング（水性クレヨン、アクリル絵の具）	H43×65×67
10	設楽知昭	鼻腔ト海岸（イケイ島・リーフ）	1992	壁より転写　顔料、リンシード・雁皮紙	107×174（額サイズ）
11	設楽知昭	驚愕する私	1999	油彩、シリコンゴム・ポリエステルフィルム	81.0×81.0
12	杉戸洋	Untitled	1991	アクリル、顔料・紙	225.0×181.0
13	杉戸洋	Elephant（p.p.）	2000	アクリル、顔料・紙	220.0×178.0
14	杉戸洋	Red Eye	2000	アクリル、顔料・紙	38.0×45.5
15	染谷亜里可	Decolor Table-B1	2000	ベルベット	110×120
16	染谷亜里可	Decolor - moon	2002	ベルベット	114×150
17	辰野登恵子	86-P-6	1986	油彩・キャンヴァス	97.0×145.5
18	辰野登恵子	Work 87' P' 29	1987	油彩・シルクキャンヴァス	161.6×130.3
19	辰野登恵子	Feb-19-98	1998	油彩・キャンヴァス	145.5×112
20	辰野登恵子	Nov-11-2000	2000	油彩・キャンヴァス	72.7×91
21	戸谷成雄	17.レリーフ '98 II	1998	木、灰・アクリル	H76×72.5×12
22	戸谷成雄	立ち昇る森	1999	木、灰・アクリル	H166×30×30
23	長谷川繁	Untitled	1989	油彩・ボード	89.7×82.1
24	三輪美津子	無題	1986	油彩、額縁・キャンヴァス	162.1×131.0
25	三輪美津子	無題	1986	油彩、額縁・キャンヴァス	161.5×131.0

平成27年度は、５本の特別展を開催しました。年度最初の特別展は、日本の現代彫刻を代表する作家若林奮の作品を紹介する「若林奮　飛葉と振動」を開催しました。若林奮については、1997年に近作を紹介する展覧会を一度開催しており、二度目となる今回は回顧展としてこの作家の全貌を紹介しました。時間の推移による環境の変化は、この作家の創作のキーワードの一つですが、とりわけ最も重要なテーマと言われる「庭」をめぐる作品が数多く紹介されました。晩年数多く手がけた庭の模型や、現在の庭の様子を伝えるビデオも上映され、若林作品と自然とのかかわりがよく伝わる展示となりました。

平成27年は、終戦から70年目の節目の年となることもあり、日本各地で戦争を回顧する展覧会が開かれました。当館でも、14名の作家の戦前、戦中、戦後の作品の推移を検証する「画家たちと戦争：彼らはいかにして生き抜いたのか」を７月から９月にかけて開催しました。どんな画家も社会の状況と全く無縁に生きることはできませんが、とりわけ戦争のような圧倒的な出来事は、すべての画家の作品に色濃くその影響を及ぼしました。戦前から戦後へと移り変わる作品を見ることにより、それぞれの画家がどのように戦争に対峙したのか、その軌跡をこの展覧会は浮かび上がらせました。

続いて10月から12月にかけては、19世紀半ばのイギリスで、ラファエロの作品を手本に新しい絵画様式を生み出した画家たち、ラファエル前派を紹介する展覧会を開催しました。イギリス中部の港町リバプールにある国立美術館には、このラファエル前派の秀作が多数コレクションされており、今回初めてまとまった形で日本で紹介されました。ロセッティ、ミレイ、ハントら、このグループの中心メンバーはもとより、20世紀に活躍した画家たちの作品も含めた70点の展示は、大英帝国華やかなりし時代の優雅な雰囲気で展示室を満たしていました。

地元の現代美術を紹介する当館の独自規格「ポジション展」は1994年に始まりましたが、年が明けた１月から２月にかけてこのポジション展の第五回展を開催しました。今回は「アートとクラフトの蜜月」と題し、二つの領域を自由に往来しながら新しい作品を生み出している７人の作家を取り上げました。アートの斬新さと独創性、クラフトのぬくもりと実用性を兼ね備えた７人の作品は、それぞれ様式は違いますが、これまでのポジション展とは一味違った親しみやすい表情を私たちに見せてくれました。

27年度の最後は、東京藝術大学のコレクションの中から女性像に焦点を当てた「麗しき面影：日本近代美術の女性像」を開催しました。展覧会は２部構成になっており、１部では明治から昭和にかけての女性像の変遷を、時代を代表する作家たちの作品で紹介しました。高橋由一の《美人（花魁）》に始まり狩野芳崖の《悲母観音》、荻原守衛の《女》、上村松園の《草紙洗小町》と続く傑作の数々は、見応え十分。そして２部では日本画科の卒業制作の中から女性像をまとめて紹介しました。40人の出品作家の中には、現在では忘れられた作家も少なくありませんが、作品の質の高さやそこに込められた情熱の強さは格別で、これが卒業制作のレベルだろうか、と驚く作品が数多くありました。

若林奮　飛葉と振動

ISAMU WAKABAYASHI　Flying Leaves and Oscillation

会期：2015年 4 月18日（土）～ 5 月24日（日）

主催

名古屋市美術館、WAKABAYASHI STUDIO、読売新聞社、美術館連絡協議会、中京テレビ放送

後援

愛知県･岐阜県各教育委員会、名古屋市立小中学校PTA協議会

協力

㈱カシマ、ケンジタキギャラリー、多摩美術大学若林奮研究会、横田茂ギャラリー、日本通運、名古屋市交通局

協賛

ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜

助成

公益財団法人 ポーラ美術振興財団

出品協力

独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館

観覧料

一般1,200円、高大生800円、中学生以下無料

内容

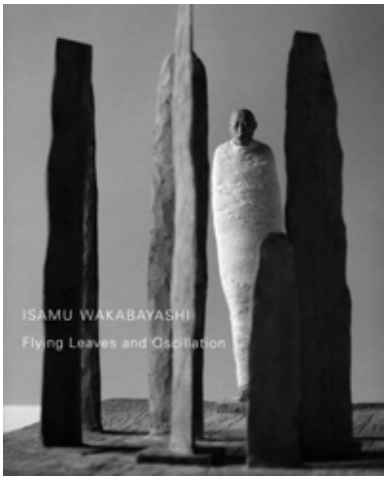
若林奮（1936－2003）は20世紀後半の日本を代表する彫刻家である。幼い頃に戦争を体験し、戦後の高度経済成長期に作家となった若林は、社会が大きく移り変わるなか、時間の推移や運動によって変化する環境のあり方を自身との関係性において彫刻として造形し、その行いを通して世界の本質を考察しつづけた。その作品の多くは、主題はもとより、形状や材質、技法においても従来の彫刻にはなかったものとなっている。

「飛葉と振動」は最晩年の彫刻作品につけられた名前であり、このふたつの言葉を手がかりとして、最も重要な主題である「庭」をめぐる作品から作家の生涯にわたる創作の歩みを紹介した。

名古屋展の総出品点数は264点（彫刻98点、ドローイング133点、書籍6点、写真等資料類27点）。そのうち愛知県美術館蔵の《大気中の緑色に属するものの制作ノート》（1981-82年）と《大気中の緑色に属するものⅠ》（1982年）は名古屋展のみの出品であり、MIHO MUSEUM蔵の《多くの川を渡り　再び森の中へ》は一組18点の一括展示は同じく名古屋展のみであるなど、巡回展ながら特長のある構成となっていた。

芸術が思索の装置としてあり、哲学として存在していることを再認識させる若林の造形は、この世にある人間存在がはかなくもろいものであることを知らしめ、謙虚に世界と向き合うことへと導く。作家亡きあとに開催された本展は、名古屋市美術館では1997年以来となるものであり、若林奮という無二の作家の魅力にあらためて触れていただく機会となった。

チラシ



図録

図録

28.0×22.5cm　224頁
編　集：名古屋市美術館、足利市立美術館、
　　神奈川県立近代美術館、府中市美術館、うらわ美術館
発　行：読売新聞社、美術館連絡協議会

関連催事

講演会「1974年在外研修 フランス、スペイン、エジプト」
　日時：2015年４月18日（土）午後２時～４時
　講師：淀井彩子（画家）
　会場：２階講堂、無料

鼎　談「若林さんのこと」
　日時：2015年４月29日（水・祝）午後１時30分～４時
　講師：青木野枝（彫刻家）・鈴木省三（画家）・袴田京太朗（彫刻家）
　進行：角田美奈子（名古屋市美術館学芸員）
　会場：２階講堂、無料

講演会「若林奮と言葉」
　日時：2015年５月10日（日）午後２時～４時
　講師：市川政憲（美術評論家）
　会場：２階講堂、無料

解説会
　日時：2015年５月16日（土）午後２時～４時
　講師：角田美奈子（名古屋市美術館学芸員）
　会場：２階講堂、無料

講演会「1974年在外研修 フランス、スペイン、エジプト」

鼎談「若林さんのこと」

講演会「若林奮と言葉」

出品作品

※各項のデータは、作品番号、作品名、制作年、材質・技法、寸法（cm：縦・高×横・幅×奥行）、所蔵からなる。書籍は他に著者、装幀・挿画者、出版社、刊行年、形状を、写真または動画は撮影場所、撮影者、撮影年、出品形状などを記し、必要に応じて撮影対象作品の寸法、オリジナル写真の所蔵情報など付記した。
※作品番号のアルファベットは以下を表す。d=ドローイング　p=写真など　b=書籍
※作品名が不明の場合、［無題］を原則としている。ただし、ドローイングは、WAKABAYASHI STUDIO所蔵分は、作品に記された日付に同スタジオによる整理番号を追記し、仮称を示す［ ］を付記したものとしている。東京国立近代美術館所蔵分は、同館の表記に従った。装幀本の原画と案には、該当書籍名を記した。

作品番号	作品名	制作年	材質・技法	寸法	所蔵
Ⅰ：庭への予兆（1957-1982）					
I-1:初期彫刻 I					
I-1-1	Untitled	1957	石	17.0×13.0×25.0	WAKABAYASHI STUDIO
I-1-2	Untitled	c.1960	鉄	20.5×21.5×20.5	WAKABAYASHI STUDIO
I-1-3	［猫］	1965	木	37.0×10.5×15.0	若林薫氏
I-1-4	［無題］	1968	木（桜）	4.0×11.0×3.1	WAKABAYASHI STUDIO
I-1-5	［無題］	1968	木（桜）	5.6×14.6×3.4	WAKABAYASHI STUDIO
I-1-6	［無題］	1968	木（桜）	3.8×13.2×4.4	WAKABAYASHI STUDIO
I-1-7	［無題］	1968	木（桜）	13.0×12.5×7.0	WAKABAYASHI STUDIO
I-1-8	［無題］	1968	木（桜）	8.4×5.0×5.0	WAKABAYASHI STUDIO
I-1-9	［無題］	1968	木（桂）	13.2×5.5×5.0	WAKABAYASHI STUDIO
I-1-10	泳ぐ犬	1973	鉄、木	13.5×10.7×24.9	淀井由利子氏
I-1-d1	［ドローイング　1962-011］	1962	鉛筆、水彩、インク、コピーした紙	25.5×19.7	WAKABAYASHI STUDIO
I-1-d2	62-18	1962	鉛筆、水彩、インク、紙	24.3×30.3	東京国立近代美術館
I-1-d3	［ドローイング　1963-035］	1963	鉛筆、紙	39.0×53.8	WAKABAYASHI STUDIO
I-1-d4	64-59	1964	墨、紙	36.4×25.6	東京国立近代美術館
I-1-d5	64-63-A	1964	墨、紙	36.4×25.6	東京国立近代美術館
I-1-d6	［ドローイング　1964-017］	1964	鉛筆、色鉛筆、水彩、オイルパステル、紙	37.6×29.5	WAKABAYASHI STUDIO
I-1-d7	［ドローイング　1964-018］	1964	鉛筆、色鉛筆、水彩、オイルパステル、紙	29.4×37.6	WAKABAYASHI STUDIO
I-1-d8	［ドローイング　1966.07.10-009］	1966	鉛筆、オイルパステル、紙	38.1×26.9	WAKABAYASHI STUDIO
I-1-d11	70-99-19	1970	ボールペン、水性フェルトペン、紙（タバコの箱）	14.2×7.1	東京国立近代美術館
I-2:初期彫刻 II					
I-2-1	残り元素 I	1965	鉄	87.0（台座:58.0）×36.0×86.0	神奈川県立近代美術館
I-2-2	中に犬・飛び方	1967	鉄	113.5×99.6×92.5	神奈川県立近代美術館
I-2-3	犬から出る水蒸気	1968	鉄	74.0×99.0×91.0	神奈川県立近代美術館
I-2-4	港に対する攻撃 II	1968	鉄	19.0×30.0×21.0	個人蔵（比嘉このみ氏旧蔵）
I-2-5	10×□ IV	1970	木、ステンレス、ネジ	10.8×11.6×10.8	酒井忠康氏
I-2-p1	《3.25mのクロバエの羽》（1969）、万博記念公園（吹田）（撮影:内田芳孝、1983年9月）			［パネル展示］	オリジナル写真:内田芳孝氏
I-2-p2	《3.25mのクロバエの羽》（1969）、万博記念公園（吹田）（撮影:山本糾、2015年1月）			［パネル展示］	
I-3:風景					
I-3-1	日の出、日没 I（グラマンTBFを見た）	1970	鉄	8.0×56.0×66.0	神奈川県立近代美術館
I-3-2	日の出、日没 IV	1972	鉄	7.0×37.0×26.0	個人蔵
I-3-3	日の出、日没（4線）［2nd stage］	1977-1979	木、鉄、胡粉	12.5×70.0×69.5	ケンジタキギャラリー
I-3-d2	［ドローイング　1977-007］	1977	木版、鉛筆、オイルパステル、紙	35.0×26.1	WAKABAYASHI STUDIO
I-3-d3	［ドローイング　1977-020］	1977	木版、鉛筆、紙	35.0×26.1	WAKABAYASHI STUDIO
I-4:エジプト、フランス、スペイン滞在（1973-74）					
I-4-1	LIVRE OBJET No.10	1971	鉄、鉛、書籍（『頭脳の塔』）	11.0×31.2×24.9	大川博氏（足利市立美術館寄託）
I-4-2	LIVRE OBJET 後からの試作I	1972	鉄、銅線	19.5×23.0×22.5	個人蔵
I-4-3	LIVRE OBJET 後からの試作 III	1973	鉄、鉛、紐	6.5×27.8×22.2	個人蔵
I-4-4	［無題］	1974-1993	木、インク	6.9×23.0×22.3	WAKABAYASHI STUDIO
I-4-5	［無題］	1975	木、インク、ラッカー	4.0×23.0×20.0	個人蔵
I-4-6	［無題］	1975	木、インク、ラッカー	5.5×15.0×22.0	個人蔵
I-4-7	Untitled	1975	木、着彩	9.6×31.8×18.0	馬場駿吉氏（名古屋市美術館寄託）
I-4-d2	［ドローイング　1971-002］	1971	鉛筆、紙	21.2×40.0	WAKABAYASHI STUDIO
I-4-d3	［ドローイング　1971-003］	1971	鉛筆、紙	19.2×30.0	WAKABAYASHI STUDIO
I-4-d4	71-6	1971	鉛筆、水彩、インク、紙	26.8×20.9	東京国立近代美術館
I-4-d6	72-129	1972	ボールペン、紙	19.3×21.4	東京国立近代美術館
I-4-d9	F-16（1-20）	1973	水彩、インクほか、紙（スケッチブック）	26.8×20.9	東京国立近代美術館
I-4-d12	F-113	1974	鉛筆、紙	29.0×45.9	東京国立近代美術館
I-4-d15	75-105	1975	水彩、インク、ボールペン、紙	27.5×37.5	東京国立近代美術館
I-4-b1	詩:吉増剛造、装幀・挿画:若林奮『頭脳の塔』（青地社、1971）			書籍　26.5×18.8	WAKABAYASHI STUDIO
I-4-p1	［エジプト、フランス、スペイン滞在アルバムより］（撮影:若林奮、淀井彩子、1973-74）			写真（12点）8.8×12.5ほか	WAKABAYASHI STUDIO
I-4-p2	《地表面の耐久性について》（1975）、宇部市野外彫刻美術館（撮影:脇坂進）			［パネル展示］28.0×548.0×183.0	オリジナル写真:WAKABAYASHI STUDIO

I-5:振動尺

I-5-1	振動尺試作 小 Ⅱ	1976	鉄	直径3.5×32.8	個人蔵
I-5-2	振動尺試作 小 Ⅲ(3点組)	1976	鉄	各直径3.5×32.8	個人蔵
I-5-3	振動尺試作 小 Ⅳ	1976	木、鉛	直径2.8×36.5	個人蔵
I-5-4	振動尺試作 小 Ⅴ	1976	石	直径3.0×38.5	個人蔵
I-5-5	振動尺試作 小 Ⅵ	1976	鉄	直径3.5×7.0×42.5	個人蔵
I-5-6	振動尺試作 小 Ⅶ	1976	鉄	直径3.0×33.4	個人蔵
I-5-7	振動尺試作 小 Ⅷ	1976	鉄	直径3.0×32.0	個人蔵
I-5-9	スプリング蒐集・右手の先	1978	真鍮	8.0×30.0×45.0	滝沢和彦氏
I-5-d4	79-8-10	1979	鉛筆、紙	36.1×26.9	東京国立近代美術館
I-5-d5	80-2	1980	鉛筆、パステル、紙	36.2×26.9	東京国立近代美術館
I-5-d8	[ドローイング　1981-05;『水分の移動』のための原画]	c.1981	鉛筆、インク、紙	29.7×20.5	WAKABAYASHI STUDIO
I-5-d9	[ドローイング　1981-07;『水分の移動』のための原画案]	c.1981	鉛筆、インク、グアッシュ、紙	22.5×20.5	WAKABAYASHI STUDIO
I-5-d10	[ドローイング　2001.01.27-019]	2001	鉛筆、紙	36.5×25.5	WAKABAYASHI STUDIO
I-5-d11	[ドローイング　2001.07.25-174]	2001	鉛筆、紙	25.7×36.3	WAKABAYASHI STUDIO
I-5-b1	詩:鈴木志郎康、装幀・挿画:若林奮『水分の移動』(思潮社、1981)			書籍　21.8×16.0	WAKABAYASHI STUDIO
I-5-b2	詩:辻井喬、装幀:若林奮『鳥・虫・魚の目に泪』(書肆山田、1987)			書籍　22.5×14.7	WAKABAYASHI STUDIO
I-5-b3	作品集『境川の氾濫』(雅陶堂ギャラリー、1982)			書籍　23.5×19.0	WAKABAYASHI STUDIO
I-5-p1	武蔵野美術大学実習棟「鉄の部屋」(撮影:内田芳孝、1981年5月31日、1982年9月7日)			[パネル展示]	オリジナル写真:WAKABAYASHI STUDIO
I-5-p2	《振動尺(手許)》と若林奮、「大気中の緑色に属するもの」展、雅陶堂ギャラリー(撮影:内田芳孝、1982年10月)			[パネル展示]	オリジナル写真:横田茂ギャラリー

Ⅱ:庭へ(1982-2000)

Ⅱ-1:大気中の緑色に属するものⅠ・Ⅱ

II-1-2	大気中の緑色に属するものⅠ	1982	鉛、木	158.0×474.5×400.0(鉛板部)	愛知県美術館
II-1-3	大気中の緑色に属するものの制作ノート(11点組)	1981-1982	グアッシュ、紙	各76.5×53.0	愛知県美術館
II-1-4	「所有・雰囲気・振動ー森のはずれ」のための模型　No.9	1984-1985	木、紙、水彩、鉛筆	28.1×39.7×26.2	杉本貴志氏
II-1-5	「所有・雰囲気・振動ー森のはずれ」のための模型　No.4	1984	木、石、胡粉、鉛筆、グァッシュ	7.3×.29.6×.25.3	馬場駿吉氏(名古屋市美術館寄託)
II-1-6	所有・雰囲気・振動ーSLIT Ⅰ	1984	銅、油絵具、パステル、ネジ	45.7×45.7×4.5(銅板29枚)	滝沢和彦氏
II-1-7	所有・雰囲気・振動ーSLIT Ⅲ	1984	銅、鉄、油絵具、パステル	2.8×50.0×50.0(銅板12枚)	WAKABAYASHI STUDIO
II-1-8	正立方体 No.4	1984	鉄、銅、紙	10.0×10.0×10.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-1-9	正立方体 No.14	1984	鉄、銅、紙	10.0×10.0×10.0	大川博氏
II-1-10	大気中の緑色に属するものⅡ(部分)	1986	鉛	インスタレーションサイズ	WAKABAYASHI STUDIO
II-1-11	100線 No.43	1983	鉄、鉛、真鍮、その他	4.7×直径10.4	個人蔵
II-1-12	新100線 No.1	1992	鉄、鉛	2.3×直径7.3	馬場駿吉氏(名古屋市美術館寄託)
II-1-13	新100線 No.2	1992	鉄、鉛、石	10.1×18.5×1.0	馬場駿吉氏(名古屋市美術館寄託)
II-1-d1	[ドローイング　1982.12.12-001]	1982	鉛筆、紙	20.5×36.0	横田茂ギャラリー
II-1-d2	[ドローイング　1982.12.12-002]	1982	鉛筆、紙	20.5×36.0	横田茂ギャラリー
II-1-d3	[ドローイング　1982.12.12-003]	1982	鉛筆、紙	20.5×36.0	横田茂ギャラリー
II-1-d4	[ドローイング　1986-034]	1986	写真、紙	18.5×26.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-1-d5	[ドローイング　1986-036]	1986	写真、鉛筆、インク、紙	36.0×25.5	WAKABAYASHI STUDIO
II-1-d6	[ドローイング　1987-113]	1987	鉛筆、グアッシュ、紙	54.5×78.5	WAKABAYASHI STUDIO
II-1-d7	[ドローイング　1987-114]	1987	鉛筆、色鉛筆、紙	43.2×63.3	WAKABAYASHI STUDIO
II-1-d8	[ドローイング　1987-115]	1987	鉛筆、色鉛筆、紙	43.0×63.1	WAKABAYASHI STUDIO
II-1-d9	[ドローイング　1987.09.30-044]	1987	鉛筆、紙	28.0×36.5	WAKABAYASHI STUDIO
II-1-d10	[ドローイング　1993.04.13-022]	1993	鉛筆、紙	36.2×25.6	WAKABAYASHI STUDIO
II-1-d11	[ドローイング　1995.03.21-011]	1995	鉛筆、色鉛筆、紙	29.7×20.9	WAKABAYASHI STUDIO
II-1-d12	[ドローイング　1995.03.21-013]	1995	鉛筆、色鉛筆、紙	29.7×20.5	WAKABAYASHI STUDIO
II-1-d13	[ドローイング　1999.12.19-152]	1999	鉛筆、紙	21.0×29.7	WAKABAYASHI STUDIO
II-1-p1	《大気中の緑色に属するものⅠ》インスタレーション(1st,2nd,3rd)、「大気中の緑色に属するもの」展、雅陶堂ギャラリー(撮影:内田芳孝、1982年11月-83年2月)			写真(3点)　各20.2×25.3	内田芳孝氏
II-1-p2	《大気中の緑色に属するものⅡ》インスタレーション(1st)、「ヴェネツィア・ビエンナーレ」日本館(撮影:内田芳孝、1986年6月)			写真(4点)　各20.2×25.3	内田芳孝氏
II-1-p3	《大気中の緑色に属するものⅡ》インスタレーション(2nd)、「若林奮展」、東京国立近代美術館(撮影:内田芳孝、1987年10月)			[パネル展示]	オリジナル写真:内田芳孝氏
II-1-p4	《大気中の緑色に属するものⅡ》インスタレーション(3rd)、「若林奮展」、京都国立近代美術館(撮影:内田芳孝、1987年12月ー1988年1月)			[パネル展示]	オリジナル写真:内田芳孝氏
II-1-p5	《大気中の緑色に属するものⅡ》インスタレーション(4th)、「ISAMU WAKABAYASHI Sculptures and Drawings」展、ソウル・アーツ・センター(撮影:山本糾、1991年10月)			[パネル展示]	オリジナル写真:WAKABAYASHI STUDIO
II-1-p-6	《大気中の緑色に属するものⅡ》インスタレーション(5th)、「若林奮展」、豊田市美術館(撮影:山本糾、2002年10月)			[パネル展示]	オリジナル写真:WAKABAYASHI STUDIO

Ⅱ-2:軽井沢・高輪美術館の庭

II-2-1	軽井沢・高輪美術館　庭の模型	c.1984	木、鉄、鉛、グアッシュ、鉛筆、石膏	17.0×150.0×95.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-2-d1	[ドローイング]	c.1982	鉛筆、紙(スケッチブック)	33.1×24.2	WAKABAYASHI STUDIO
II-2-d2	[ドローイング　1982-1983]	1982-1983	鉛筆、紙(スケッチブック)	35.0×26.8	WAKABAYASHI STUDIO
II-2-p1	[軽井沢・高輪美術館 庭の写真(1)]			1985 写真、コラージュ、紙 23.0×39.5	横田茂ギャラリー
II-2-p2	[軽井沢・高輪美術館 庭の写真(2)]			1985 写真、コラージュ、紙 23.0×74.0	横田茂ギャラリー
II-2-p3	軽井沢・高輪美術館　庭			1985[パネル展示](オリジナル:インク、鉛筆、青焼き)	オリジナル:横田茂ギャラリー
II-2-p4	軽井沢・高輪美術館(現・セゾン現代美術館)庭(撮影:山本糾、2014年11月)			[パネル展示]	
II-2-p5	軽井沢・高輪美術館(現・セゾン現代美術館)庭(撮影:山本糾、2014年11月)			[動画:3'21"]	

Ⅱ-3:神慈秀明会神苑(みその)の庭

II-3-1	近い緑 II	1986	鉄	274.5×103.5×70.0	ケンジタキギャラリー
II-3-2	神慈秀明会神苑ゲート広場のための模型	1986-1994	鉄、銅、木(チーク)、インク、グアッシュ	37.5×131.0×94.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-3	次の庭へのエスキース　V	1987	石膏、鉛筆	15.0×76.0×85.5	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-4	次の庭へのエスキース　VIII	1987	石膏	63.0×51.5×35.0	滝沢和彦氏
II-3-5	新100線 No.20	1993	鉄、木、アクリル	3.8×直径10.7	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-6	新100線 No.33	1993	鉄、木、アクリル	2.8×直径9.5	個人蔵
II-3-7	新100線 No.47	1995	鉄、木、アクリル	4.0×直径11.2	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-8	多くの川を渡り　再び森の中へ(18点組)	1986	鉛筆、紙、キャンヴァス	各248.5×113.5	MIHO MUSEUM
II-3-d1	[ドローイング　1987.06.18-017]	1987	鉛筆、紙	36.0×25.5	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-d2	[ドローイング　1987.07.28-006]	1987	鉛筆、紙	43.0×32.1	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-d3	[ドローイング　1987.08.05-012]	1987	鉛筆、紙	43.0×32.1	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-d4	[ドローイング　1987.08.07-014]	1987	鉛筆、紙	43.0×32.1	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-d5	[ドローイング　1987.08.25-016]	1987	鉛筆、紙	43.0×32.1	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-d6	[ドローイング　1989.03.26-030]	1989	鉛筆、紙	25.5×36.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-d7	[ドローイング　1990.06.14-107]	1990	インク、紙	25.7×18.2	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-d8	[ドローイング　1992.12.19-005]	1992	鉛筆、紙	38.0×26.9	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-d9	[ドローイング　1992.12.19-014]	1992	鉛筆、紙	37.7×27.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-d10	[ドローイング　1992.12.19-031]	1992	鉛筆、紙	43.0×32.1	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-d11	[ドローイング　1993.03.22-017]	1993	鉛筆、紙	29.8×42.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-d12	[ドローイング　1993; 1994.05.20-033]	1993-94	鉛筆、色鉛筆、インク、コピーした紙	29.8×42.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-d13	[ドローイング　1994.06.25-038]	1994	鉛筆、インク、紙	21.0×29.6	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-d14	[ドローイング　1996.09.15-007]	1996	鉛筆、水彩、紙	25.2×21.5	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-d15	[ドローイング　1996.09.15-011]	1996	鉛筆、水彩、紙	24.9×21.7	WAKABAYASHI STUDIO
II-3-p1	神慈秀明会神苑の庭(1992)			[パネル展示](若林奮による素描[水彩、インク、鉛筆・紙]を一部、デジタル加工)	オリジナル:WAKABAYASHI STUDIO
II-3-p2	神慈秀明会神苑の庭(撮影:山本糾、2014年11月、2015年3月)			[パネル展示]	
II-3-p3	神慈秀明会神苑の庭(撮影:山本糾、2014年11月)			[動画:3'40"]	

Ⅱ-4:DAISY

II-4-1	Everest Hotel VIII	1982-1991	木、硫黄、鉄、アクリル、綿布	91.0×41.5×41.0	ケンジタキギャラリー
II-4-2	DaisyⅡ-A	1995	木、ジェッソ、石膏	144.0×31.0×31.0	世田谷区美術館
II-4-3	DaisyⅡ-B	1995	木、ジェッソ、石膏	146.5×31.5×27.7	世田谷区美術館
II-4-4	DaisyⅡ-C	1995	木、ジェッソ、石膏	139.0×50.3×28.5	世田谷区美術館
II-4-5	DaisyⅡ-D	1995	木、ジェッソ、石膏	120.6×70.0×31.5	世田谷区美術館
II-4-6	DaisyⅡ-E	1995	木、ジェッソ、石膏	120.2×51.0×29.3	世田谷区美術館
II-4-7	新々100線 #71	1995	鉄、木、インク、グアッシュ	5.5×直径5.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-4-8	新々100線 #85	1996	鉄、木、インク	6.8×直径4.7	WAKABAYASHI STUDIO
II-4-9	新100線 No.80	1999	鉄、木、インク	8.3×直径7.4	WAKABAYASHI STUDIO
II-4-10	Blue Daisy 1997.3.8-①	1997	インク、グアッシュ、紙	24.5×18.2	ギャラリー十玄門(足利市立美術館寄託)
II-4-11	Blue Daisy 1997.3.8-②	1997	インク、グアッシュ、紙	24.5×18.2	ギャラリー十玄門(足利市立美術館寄託)
II-4-12	Blue Daisy 1997.3.11-④	1997	インク、グアッシュ、紙	24.5×18.2	ギャラリー十玄門(足利市立美術館寄託)
II-4-13	Blue Daisy 1997.3.13-①	1997	インク、グアッシュ、紙	24.5×18.2	ギャラリー十玄門(足利市立美術館寄託)
II-4-d3	72-178	1972	インク、紙	25.8×36.3	東京国立近代美術館
II-4-d5	[ドローイング　1993.01.25-048]	1993	鉛筆、紙	36.2×25.8	WAKABAYASHI STUDIO
II-4-d6	[ドローイング　1993.07.23-166]	1993	鉛筆、色鉛筆、紙	21.0×29.5	WAKABAYASHI STUDIO
II-4-d7	[ドローイング　1996.01.30-164]	1996	鉛筆、水彩、紙	28.5×21.5	WAKABAYASHI STUDIO
II-4-d8	[ドローイング　1996.02.08-168]	1996	鉛筆、水彩、紙	21.5×19.8	WAKABAYASHI STUDIO
II-4-d9	[ドローイング　1996.06.15-172]	1996	水彩、紙	29.2×22.2	WAKABAYASHI STUDIO
II-4-d10	[ドローイング　1996.06.17-174]	1996	水彩、紙	27.5×22.7	WAKABAYASHI STUDIO
II-4-d11	[ドローイング　1999.05.18-229]	1999	鉛筆、紙	22.5×19.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-4-d12	[ドローイング　1999.05.18-232]	1999	鉛筆、色鉛筆、紙	23.0×19.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-4-p1	《地下のデイジー》(2002)、府中市美術館(撮影:山本糾、2002年3月)			[パネル展示]	オリジナル写真:WAKABAYASHI STUDIO

Ⅱ-5:緑の森の一角獣座

II-5-1	緑の森の一角獣座模型	1996-1997	鉄、銅、木(檜)、インク、グアッシュ	33.0×85.3×38.7	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-2	緑の森の一角獣座ーカッパーペインティングC(11点組)	1996	ウレタン、エポキシ塗料、銅板	200.0×100.0(7点);300.0×100.0(4点)	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-3	緑の森の一角獣座ーカッパーペインティングD-6,D-8	1996-2003	ウレタン、エポキシ塗料、銅板	300.0×100.0(2枚)	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-4	水没Ⅱ	2002	木、インク、紙	12.5×19.7×160.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-5	新100線 No.59(緑の森の一角獣座)	1996	木、鉄、グアッシュ	6.5×直径10.5	滝沢和彦氏
II-5-6	新100線 No.58 "森の中の椅子と机"(緑の森の一角獣座)	1996	木、鉄、グアッシュ	4.3×直径9.6	滝沢和彦氏
II-5-7	新々100線 #19(緑の森の一角獣)	1995	木、鉄、インク、グアッシュ	4.3×直径8.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-8	新々100線 #26(緑の森の一角獣)	1995	木、鉄、グアッシュ	2.8×8.9×6.3	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-9	新100線 No.57(緑の森の一角獣座)	1996	木、鉄、グアッシュ	5.5×13.0×9.5	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-10	新々100線 #50(緑の森の一角獣)	1996	木、鉄、インク、グアッシュ	4.3×直径8.6	WAKABAYASHI STUDIO

II-5-11	新々100線 #61(緑の森の一角獣)	1996	木、鉄、インク、グアッシュ	4.5×直径8.5	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-12	新々100線 #66(緑の森の一角獣)	1997	木、鉄、インク、グアッシュ	5.0×9.0×9.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-13	新100線 No.77(緑の森の一角獣座)	1999	木、鉄、真鍮、インク、グアッシュ	5.5×18.0×9.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-14	新100線 No.78(緑の森の一角獣座)	1999	木、ブリキ、インク、グアッシュ	6.3×直径10.8	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-15	新100線 No.83(緑の森の一角獣座)	1999	木、ブリキ、インク、グアッシュ	4.3×18.0×9.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-16	新100線 No.87(緑の森の一角獣座)	1999	木、鉄、インク、グアッシュ	12.0×11.0×7.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d1	[ドローイング　1995.12.09-003]	1995	色鉛筆、紙	29.8×21.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d2	[ドローイング　1995.12.09-004]	1995	鉛筆、色鉛筆、紙	19.0×27.5	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d3	[ドローイング　1995.12.10-009]	1995	鉛筆、色鉛筆、紙	19.5×28.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d4	[ドローイング　1996.01.26-010]	1996	水彩、紙	20.0×23.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d5	[ドローイング　1996.03-017]	1996	鉛筆、水彩、紙	29.5×42.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d6	[ドローイング　1996.05.07-019]	1996	鉛筆、水彩、紙	26.0×17.7	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d7	[ドローイング　1999.06.13-082]	1999	鉛筆、色鉛筆、水彩、紙	33.0×24.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d8	[ドローイング　1996-002:『緑の森の一角獣座 1996 若林奮』のための原画]	c.1996	鉛筆、色鉛筆、水彩、修正液、コピーした紙	25.8×35.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d9	[ドローイング　1996-005:『緑の森の一角獣座 1996 若林奮』のための原画]	c.1996	鉛筆、色鉛筆、水彩、修正液、コピーした紙	25.8×35.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d10	[ドローイング　1996-012:『緑の森の一角獣座 1996 若林奮』のための原画]	c.1996	鉛筆、、水彩、修正液、紙	25.8×35.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d11	[ドローイング　1997.03.03-013:『緑の森の一角獣ー旅 その1』(『武蔵野美術』No.104)のための原画]	1997	鉛筆、色鉛筆、インク、コラージュ、スタンプ、紙	17.5×8.5	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d12	[ドローイング　1997.06.05-048:『緑の森の一角獣ー旅 その2』(『武蔵野美術』No.105)のための原画]	1997	鉛筆、色鉛筆、紙	17.0×12.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d13	[ドローイング　1997.08.27-060:『緑の森の一角獣ー旅 その3』(『武蔵野美術』No.106)のための原画]	1997	色鉛筆、紙	23.0×8.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d14	[ドローイング　1997.11.24-068:『緑の森の一角獣ー旅 その4』(『武蔵野美術』No.107)のための原画]	1997	鉛筆、オイルパステル、紙	22.5×10.5	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d15	[ドローイング　1998.02.27-083:『緑の森の一角獣ー旅 その5』(『武蔵野美術』No.108)のための原画]	1998	鉛筆、色鉛筆、オイルパステル、紙	23.0×11.2	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d16	[ドローイング　1998.06.02-095:『緑の森の一角獣ー旅 その6』(『武蔵野美術』No.109)のための原画]	1998	鉛筆、色鉛筆、オイルパステル、紙	21.0×10.3	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d17	[ドローイング　1998.08.31-108:『緑の森の一角獣ー旅 その7』(『武蔵野美術』No.110)のための原画]	1998	鉛筆、色鉛筆、オイルパステル、紙	12.0×21.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d18	[ドローイング　1998.12.06-111:『緑の森の一角獣ー旅 その8』(『武蔵野美術』No.111)のための原画]	1998	鉛筆、色鉛筆、紙	21.3×9.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d19	[ドローイング　1999.01.30-044]	1999	鉛筆、色鉛筆、紙	24.5×12.2	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d20	[ドローイング　1999.01.30-047]	1999	鉛筆、紙	24.0×13.8	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d21	[ドローイング　1999.02.04-050]	1999	鉛筆、紙	25.0×11.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d22	[ドローイング　1999.02.04-053]	1999	鉛筆、色鉛筆、紙	25.8×18.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d23	[ドローイング　1999.02.07-054]	1999	水彩、色鉛筆、鉛筆、紙	27.0×21.7	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d24	[ドローイング　1999.02.08-055]	1999	鉛筆、色鉛筆、水彩、紙	27.3×19.7	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d25	[ドローイング　1999.02.10-058]	1999	鉛筆、紙	25.0×11.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d26	[ドローイング　1999.04.30-068]	1999	鉛筆、水彩、紙	33.0×24.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d27	[ドローイング　1999.05.02-072]	1999	水彩、鉛筆、紙	24.0×18.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d28	[ドローイング　1999.06.14]	1999	鉛筆、色鉛筆、水彩、紙	25.0×34.8	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d29	[ドローイング　1999.08.18-086]	1999	鉛筆、色鉛筆、水彩、紙	35.0×25.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d30	[ドローイング　2000.02.27+04.06-094]	2000	鉛筆、色鉛筆、水彩、紙	37.0×27.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d31	[ドローイング　2000.03.30-093]	2000	鉛筆、色鉛筆、水彩、紙	37.0×27.0	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d32	[ドローイング　2000.07.19-144]	2000	鉛筆、紙	36.0×25.5	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d33	[ドローイング　2000.07.20-147]	2000	鉛筆、紙	36.0×25.5	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-d34	[ドローイング　2000.07.28-151]	2000	鉛筆、修正液、コピーした紙	15.5×36.5	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-b1	『緑の森の一角獣座 1996 若林奮』(WIWP、1996)			書籍　26.0×18.5	WAKABAYASHI STUDIO
II-5-b2	詩・写真:吉増剛造、挿画:若林奮「緑の森の一角獣ー旅 その1-8」(『武蔵野美術』No.104-111、武蔵野美術大学出版部、1997-99)			雑誌　25.8×21.0	うらわ美術館
II-5-p1	緑の森の一角獣座(第1期)休息の椅子と石段、カッパーペインティングの仮設置(撮影:山本糾、1996年、1999年4月)			[パネル展示]	オリジナル写真:WAKABAYASHI STUDIO
II-5-p2	新しい庭(撮影:山本糾、2014年10月)			[パネル展示]	
II-5-p3	新しい庭(撮影:山本糾、2014年10月)			[動画:3'00"]	

Ⅲ:庭から(2000-2003)

Ⅲ-1:境界の犬

III-1-1	自分の方へ向かう犬I	1997	木、油絵具	13.0×10.1×66.8	ケンジタキギャラリー
III-1-2	硫黄の味方 3	2000	硫黄、鉛筆、ジェッソ、紙、ボード	38.0×30.0	WAKABAYASHI STUDIO
III-1-3	新100線 No.23	1995	鉄、銅、アクリル	2.5×6.3×9.0	個人蔵
III-1-4	新100線 No.66	1998	鉄、真鍮、鉛、銅線	3.3×直径9.0	WAKABAYASHI STUDIO
III-1-d1	[ドローイング　1997.04.16-049]	1997	鉛筆、紙	25.2×34.0	WAKABAYASHI STUDIO
III-1-d2	[ドローイング　1997.07.02-114]	1997	鉛筆、紙	25.0×18.0	WAKABAYASHI STUDIO
III-1-d3	[ドローイング　1997.07.17-8.23]	1997	水彩、紙(スケッチブック)	31.7×40.5	WAKABAYASHI STUDIO
III-1-d4	[ドローイング　1998.12.01-236]	1998	鉛筆、インク、紙	20.8×8.7	WAKABAYASHI STUDIO
III-1-d5	[ドローイング　1998.12.19-256]	1998	鉛筆、水彩、紙	17.0×11.7	WAKABAYASHI STUDIO
III-1-p1	[ルクソール、ナイル](撮影:若林奮、1972年3月28日)			写真　8.3×11.5	WAKABAYASHI STUDIO

Ⅲ-2:4個の鉄に囲まれた優雅な樹々

III-2-1	[無題]	1984-1985	木、鉛、鉄、鉛筆	10.5×11.1×9.3	WAKABAYASHI STUDIO
III-2-d1	84-248	1984	鉛筆、紙(スケッチブック)	21.1×24.2	東京国立近代美術館
III-2-d2	[ドローイング　1991.10.21-022]	1991	鉛筆、紙	43.0×32.1	WAKABAYASHI STUDIO

III-2-d3	［ドローイング　1996.01.27-005］	1996	鉛筆、水彩、紙	18.3×22.8	WAKABAYASHI STUDIO
III-2-d4	［ドローイング　1998.12.17-003］	1998	鉛筆、色鉛筆、紙	24.8×35.5	WAKABAYASHI STUDIO
III-2-d5	［ドローイング　1999.01.10-008］	1999	鉛筆、水彩、紙	36.0×25.5	WAKABAYASHI STUDIO
III-2-d6	［ドローイング　1999.02.10-010］	1999	鉛筆、色鉛筆、水彩、紙	24.0×33.0	WAKABAYASHI STUDIO
III-2-d7	［ドローイング　1999.03.26-016］	1999	鉛筆、色鉛筆、紙	24.3×33.0	WAKABAYASHI STUDIO
III-2-d8	［ドローイング　1999.03.29-018］	1999	鉛筆、色鉛筆、水彩、紙	36.0×25.5	WAKABAYASHI STUDIO
III-2-d9	［ドローイング　2000.02.07-019-01］	2000	鉛筆、紙	26.0×36.5	WAKABAYASHI STUDIO
III-2-d10	［ドローイング　2000.02.07-019-01］	2000	鉛筆、紙	26.0×36.5	WAKABAYASHI STUDIO
III-2-d11	［ドローイング　2000.02.07-019-02］	2000	鉛筆、紙	29.6×21.0	WAKABAYASHI STUDIO
III-2-d12	［ドローイング　2000.06.14-100］	2000	鉛筆、紙	29.5×21.0	WAKABAYASHI STUDIO
III-2-d13	［ドローイング　2000.07.02-127］	2000	鉛筆、色鉛筆、紙	25.5×36.0	WAKABAYASHI STUDIO
III-2-d14	［ドローイング　2000.10.04-182］	2000	鉛筆、紙	23.5×20.0	WAKABAYASHI STUDIO
III-2-d15	［ドローイング　2001.07.16-154］	2001	鉛筆、紙	51.4×32.3	WAKABAYASHI STUDIO
III-2-p1	《4個の鉄に囲まれた優雅な樹々》(2000)、霧島アートの森（撮影:山本糾、2014年11月）			［パネル展示］	
III-2-p2	《4個の鉄に囲まれた優雅な樹々》(2000)、霧島アートの森（撮影:山本糾、2014年11月）			［動画:3'11"］	

Ⅲ-3:飛葉

III-3-1	雰囲気	1980-2000	紙、木、インク、ジェッソ、布、バラ、ハハコグサ	16.6×41.6×14.7	WAKABAYASHI STUDIO
III-3-2	［無題（銅葉 ゆりの樹）］	1983-1984;1988	銅	(6点)32.5×17.0(最小)-40.0×23.8(最大)	WAKABAYASHI STUDIO
III-3-3	［無題（I.W 葉ッパの箱）］	1984-1993	銅、木、針金など	6.5×23.5×7.5	個人蔵
III-3-4	［無題（銅葉 朴葉）］	1992-1993	銅	(16点)37.3×17.5(最大)	WAKABAYASHI STUDIO
III-3-5	［無題（銅葉 栃ノ木）］	1996	銅	(18点)28.5×12.5(最大)	WAKABAYASHI STUDIO
III-3-6	［無題（銅葉 桐）］	1999	銅	(14点)5.5×3.2(最小)-23.0×14.5(最大)	WAKABAYASHI STUDIO
III-3-7	［無題（鉛の葉 桐）］	1999	鉛	(4点)14.1×8.5(最小)-21.0×11.2(最大)	WAKABAYASHI STUDIO
III-3-8	LEAVES Liriodendron tulipifera	1985	コラージュ、コピー、鉛筆、紙	25.8×18.3	WAKABAYASHI STUDIO
III-3-9	7月の冷却と加熱　ミズキの一枝	1986	鉄、鍋、リトグラフ、フロッタージュ、鉛筆、紙、本(未綴)	28.0×22.5×2.1	うらわ美術館
III-3-10	LEAD DRAWING	1991	鉛、鉛筆、紙	28.5×23.5	WAKABAYASHI STUDIO
III-3-11	飛葉と振動	2003	木、布、ジェッソ	20.5×18.2×29.1	WAKABAYASHI STUDIO
III-3-12	飛葉と振動Ⅲ	2003	木、ジェッソ	9.0×23.3×15.8	個人蔵(神奈川県立近美術館寄託)
III-3-13	閉じた系列としての振動―自画像	1990-2003	鉛筆、インク、ボールペン、紙、真鍮	30.8×21.7×7.0	WAKABAYASHI STUDIO
III-3-14	100線 No.8	1983	鉄、鉛	2.6×8.4×5.7	個人蔵
III-3-15	100線 No.3	1983	鉄、鉛	2.8×直径10.5	馬場駿吉氏(名古屋市美術館寄託)
III-3-16	新100線 №93（草の葉を数える I）	2000	鉄、鉛	3.3×18.5×8.0	足利市立美術館
III-3-17	飛葉（12点組）	2000	色鉛筆、グアッシュ、紙	各36.7×27.0	足利市立美術館
III-3-d1	［ドローイング　2001.02.22-030］	2001	鉛筆、紙	36.2×26.0	WAKABAYASHI STUDIO
III-3-d2	［ドローイング　2002.11.26-019］	2002	鉛筆、紙	23.0×21.0	WAKABAYASHI STUDIO
III-3-d3	［ドローイング　2002.11.29-023］	2002	鉛筆、色鉛筆、紙	23.5×21.0	WAKABAYASHI STUDIO
III-3-d4	［ドローイング　2002.12.01-027］	2002	鉛筆、色鉛筆、水彩、インク、紙	26.0×21.0	WAKABAYASHI STUDIO
III-3-d5	［ドローイング　2003.03.10-2-002］	2003	色鉛筆、紙	23.3×21.2	WAKABAYASHI STUDIO
III-3-d6	［ドローイング　2003.05.29-3-003］	2003	インク、ボールペン、紙	25.0×17.7	WAKABAYASHI STUDIO
III-3-d7	［ドローイング　2003.08.22-4-001］	2003	色鉛筆、ボールペン、コピーした紙	25.0×17.1	WAKABAYASHI STUDIO
III-3-d8	［ドローイング　2003.09.02-4-002］	2003	ボールペン、紙	25.0×17.4	WAKABAYASHI STUDIO
III-3-d9	［ドローイング　2003.09.02-4-011］	2003	鉛筆、色鉛筆、紙	24.8×16.3	WAKABAYASHI STUDIO

画家たちと戦争:彼らはいかにして生きぬいたのか

Japanese Painters under the World War II
: How did they survive war?

会期：2015年7月18日（土）～9月23日（水・祝）

主催

名古屋市美術館、中日新聞社

後援

愛知県･岐阜県各教育委員会、名古屋市立小中学校PTA協議会

協力

名古屋市交通局

観覧料

一般1,300円、高大生800円、小中生無料

内容

画家は、一般的に、絵画の手解きを受けてから少しずつ学習を深め、自己の芸術を探究して、画風を形成・確立し、成熟させるとともに、新たなる展開を目指して創作を続けて、その生涯を掛けて自己の芸術を完成させる。彼らは、古今東西の多様な芸術・文化を糧として、その画業を積み重ねていくが、それ以上に、彼らが生きている社会と時代の動向に大きな影響を受けている。

そのなかでも「戦争」は、画家の芸術にとって圧倒的な事件として存在している。日本の近代美術の歴史において、1931年の「満州事変」から始まり1945年の「大東亜戦争」に終った十五年戦争が画家たちに与えた影響は極めて重大である。

本展では、この戦争の時代を生きぬいた代表的な画家たち（洋画家、日本画家、版画家の総計14名）に注目して、狭義の意味での戦中期（1937～1945年）を挟んで、戦前期（～1937年）と戦後期（1945年～）の各時期に制作された作品（基本的に各3点、総計9点）を一堂に展示して、作品の変遷を展望することで、彼らが戦争を「いかにして生きぬいたのか」について検証しようとするものである。

戦後70年を迎える本年、不幸にも戦争の時代を生きなければならなかった画家たちが制作した作品を通して、「戦争とはどのようなものなのか」「戦争を生きぬくというのはどのようなことなのか」について考える機会になることを期待して開催した。

図録

28.0×22.1×1.6cm　216頁

チラシ

図録

出品作品

1	横山大観	霊峰不二	1919年	絹本着彩,額装	83.5×117.4cm		横浜美術館
2	横山大観	初秋黎明の富嶽	1930年	絹本着彩,額装	69.0×170.0cm		神奈川県立小田原高等学校
3	横山大観	神国日本	1935年	紙本着彩,額装	52.0×94.0cm		名都美術館
4	横山大観	山に因む十題　霊峰四趣・春	1940年	紙本着彩,軸装	75.2×110.7cm		茨城県立近代美術館
5	横山大観	日出処日本	1940年	紙本着彩,額装	94.0×128.9cm		個人蔵(静岡県立美術館寄託)
6	横山大観	耀八紘図	1942年	紙本着彩,軸装	70.8×99.2cm		公益財団法人遠山記念館
7	横山大観	霊峰春色	1943年頃	紙本着彩,軸装	67.0×87.0cm		桑山美術館
8	横山大観	春光る(樹海)	1946年	紙本着彩,軸装	69.2×101.0cm		財団法人ひろしま美術館
9	横山大観	霊峰飛鶴(天長地久)	1953年	絹本着彩,軸装	64.8×86.5cm		財団法人横山大観記念館
10	横山大観	海浜の不二	1953年頃	紙本着彩,額装	97.0×114.0cm		大松美術館
11	藤田嗣治	花を持つ少女	1918年	油彩・キャンバス	65.0×54.0cm		栃木県立美術館
12	藤田嗣治	眠れる女	1931年	油彩・キャンバス	74.4×125.0cm		公益財団法人平野政吉美術財団
13	藤田嗣治	自画像	1936年	油彩・キャンバス	127.7×191.9cm	第23回二科会展	公益財団法人平野政吉美術財団
14	藤田嗣治	横たわる裸婦	1937年	油彩・キャンバス	79.0×115.5cm		京都国立近代美術館
15	藤田嗣治	猫のいる静物	1939-40年	油彩・キャンバス	80.6×99.9cm	第27回二科会展	石橋財団ブリヂストン美術館
16	藤田嗣治	シンガポール最後の日(ブキ・テマ高地)	1942年	油彩・キャンバス	148.0×300.0cm	第1回大東亜戦争美術展	東京国立近代美術館
17	藤田嗣治	道(仏印カンボジアの平野)	1944年	油彩・キャンバス	53.0×72.7cm		松江赤十字病院(島根県立美術館寄託)
18	藤田嗣治	私の夢	1947年	油彩・キャンバス	64.3×99.0cm		新潟県立近代美術館・万代島美術館
19	藤田嗣治	猫を抱く少女	1949年	油彩・キャンバス	70.0×51.5cm		個人蔵(愛知県美術館寄託)
20	恩地孝四郎	白昼浴	1923年	木版・紙	25.5×17.3cm		和歌山県立近代美術館
21	恩地孝四郎	Lyrique No.2 楽曲によせる断情　山田耕作"おやすみなさい"	1933年頃	木版・紙	25.1×20.9cm		千葉市美術館
22	恩地孝四郎	ダイビング	1936年	木版・紙	47.0×29.2cm		横浜美術館
23	恩地孝四郎	海の見える窓	1940年	木版・紙	57.5×49.6cm		個人蔵(養清堂画廊)
24	恩地孝四郎	白堊(蘇州所見)	1940年	木版・紙	83.0×58.0cm	紀元2600年奉祝美術展	千葉市美術館
25	恩地孝四郎	音楽	1944年	木版・紙	34.3×25.0cm		和歌山県立近代美術館
26	恩地孝四郎	あるヴァイオリニストの印象(諏訪根自子像)	1946年	木版・紙	40.6×32.7cm		和歌山県立近代美術館
27	恩地孝四郎	Allegorie No.2 廃墟	1948年	木版・紙	49.5×38.5cm		東京都現代美術館
28	恩地孝四郎	Lyrique No.13 日本の憂愁	1951年	マルチブロック・紙	52.0×41.9cm		個人蔵(養清堂画廊)
29	北川民次	トラルパム霊園のお祭り	1930年	油彩・キャンバス	99.5×89.5cm		名古屋市美術館
30	北川民次	女	1935年	油彩・キャンバス	61.9×45.7cm		目黒区美術館
31	北川民次	タスコの祭り	1937年	テンペラ・キャンバス	178.1×267.0cm	第24回二科会展	静岡県立美術館
32	北川民次	鉛の兵隊[銃後の少女]	1939年	油彩・キャンバス	54.7×70.0cm	第1回聖戦美術展(招待)	個人蔵
33	北川民次	岩山に茂る	1940年	油彩・キャンバス	130.3×162.0cm	紀元2600年奉祝美術展	個人蔵(愛知県美術館寄託)
34	北川民次	赤津陶工の家	1941年	テンペラ・キャンバス	128.5×163.8cm		名古屋市美術館
35	北川民次	焼跡	1945年	油彩・キャンバス	65.5×80.5cm		名古屋市美術館
36	北川民次	雑草の如くⅢ	1949年	油彩・キャンバス	130.3×162.0cm	第34回二科会展	静岡県立美術館
37	北川民次	いなごの群れ	1959年	油彩・キャンバス	163.5×132.0cm	第44回二科会展	名古屋市美術館
38	福沢一郎	他人の恋	1930年	油彩・キャンバス	162.1×130.3cm	第1回独立美術協会展	群馬県立近代美術館
39	福沢一郎	よき料理人	1930年	油彩・キャンバス	81.6×116.0cm	第1回独立美術協会展	神奈川県立近代美術館
40	福沢一郎	美しき幻想は至る所にあり	1931年	油彩・キャンバス	162.0×114.0cm	第2回独立美術協会展	岡山市立中央図書館
41	福沢一郎	牛	1936年	油彩・キャンバス	192.0×260.0cm	第6回独立美術協会展	東京国立近代美術館
42	福沢一郎	女	1937年	油彩・キャンバス	162.1×112.1cm	第7回独立美術協会展	富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館
43	福沢一郎	花	1938年	油彩・キャンバス	116.7×80.3cm	独立美術協会秋季展	多摩美術大学美術館
44	福沢一郎	男(黄土に住む人)	1940年	油彩・キャンバス	116.7×91.0cm	第1回美術文化協会展	群馬県立富岡高等学校
45	福沢一郎	世相群像	1946年	油彩・キャンバス	130.0×162.1cm	個展「ダンテ神曲地獄篇による幻想より」	富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館
46	福沢一郎	顔	1955年	油彩・キャンバス	116.7×90.9cm	第3回日本国際美術展	群馬県立近代美術館
47	岡鹿之助	信号台	1926年	油彩・キャンバス	45.7×53.2cm	サロン・ドートンヌ	目黒区美術館
48	岡鹿之助	雪の街	1930年	油彩・キャンバス	81.0×100.0cm		京都国立近代美術館
49	岡鹿之助	魚	1939年	油彩・キャンバス	60.5×72.8cm	第2回巴里日本美術家展	横須賀美術館
50	岡鹿之助	廃墟(ミディ)	1939年	油彩・キャンバス	80.3×100.0cm	第18回春陽会展	個人蔵
51	岡鹿之助	白鷺城[城]	1942年	油彩・キャンバス	70.0×100.0cm	愛20回春陽会展	北野美術館
52	岡鹿之助	農家	1943年	油彩・キャンバス	72.8×91.0cm	第6回文展	個人蔵
53	岡鹿之助	橋	1948年	油彩・キャンバス	54.0×72.8cm	春陽会25周年記念展	横浜美術館
54	岡鹿之助	遊蝶花	1951年	油彩・キャンバス	60.7×73.2cm	第5回美術団体連合展	下関市立美術館
55	岡鹿之助	雪の発電所	1956年	油彩・キャンバス	72.7×90.9cm	第2回現代日本美術展	石橋財団ブリヂストン美術館
56	北脇　昇	墓地	1935年	油彩・キャンバス	112.3×145.3cm	第1回新日本洋画協会展	東京国立近代美術館
57	北脇　昇	章表	1937年	油彩・キャンバス	89.0×63.0cm	第2回京都市美術展	京都市美術館
58	北脇　昇	眠られぬ夜のために	1937年	油彩・キャンバス	130.0×162.0cm	第3回京都市美術展	京都市美術館
59	北脇　昇	鳥獣曼荼羅	1938年	油彩・キャンバス	45.5×33.4cm	創紀美術協会京都前哨展	名古屋市美術館
60	北脇　昇	流行現象構造	1940年	油彩・キャンバス	160.5×129.0cm	第1回美術文化協会展	京都市美術館
61	北脇　昇	周易解理図(泰否)	1941年	油彩・キャンバス	90.0×116.0cm	第2回美術文化協会展	京都市美術館

62	北脇　昇	春に合掌す	1942年	油彩・キャンバス	72.5×91.0cm	第7回京都市美術展	名古屋市美術館
63	北脇　昇	朱と紫	1945年	油彩・キャンバス	72.5×152.5cm	第1回京都市主催美術展	京都市美術館
64	北脇　昇	クォ・ヴァディス	1949年	油彩・キャンバス	91.0×117.0cm	第9回美術文化協会展	東京国立近代美術館
65	福田豊四郎	はなびわのかげ	1923年	紙本着彩,額	80.0×80.0cm	第9回院展試作展	秋田県立近代美術館
66	福田豊四郎	早苗曇り	1930年	絹本着彩,額	212.0×181.0cm	第11回帝展(特選)	秋田県立近代美術館
67	福田豊四郎	夏郷	1934年	紙本着彩,屏風(二曲一隻)	218.8×178.6cm	第15回帝展	秋田県立近代美術館
68	福田豊四郎	蒙彊	1939年	紙本着彩,屏風(二曲一隻)	216.2×179.1cm	第3回新文展	秋田県立近代美術館
69	福田豊四郎	山脈(からす)	1941年	紙本着彩,屏風(二曲一隻)	216.5×178.0cm	第4回新文展	秋田県立近代美術館
70	福田豊四郎	落下傘	1943年	紙本着彩,額	183.0×129.4cm	第2回大東亜戦争美術展	秋田県立近代美術館
71	福田豊四郎	暮沼	1947年	紙本着彩,額	255.4×186.0cm	第3回日展	秋田県立近代美術館
72	福田豊四郎	踊る娘達	1949年	紙本着彩,屏風(四曲一隻)	188.0×227.0cm	第2回創造美術展	個人蔵
73	福田豊四郎	滝	1955年	紙本銀地着彩,屏風(四曲一隻)	168.0×256.0cm	第19回新制作展	個人蔵(秋田県立近代美術館寄託)
74	宮本三郎	花と女	1932年	油彩・キャンバス	130.3×97.0cm	第19回二科会展	世田谷美術館
75	宮本三郎	裸女結髪	1935年	油彩・キャンバス	126.0×97.0cm	第7回新美術家協会展	小松市立宮本三郎美術館
76	宮本三郎	赤いクッション	1935年	油彩・キャンバス	79.2×129.5cm	第22回二科会展	石川県立美術館
77	宮本三郎	裸婦像	1939年	油彩・キャンバス	118.5×83.8cm		石川県立美術館
78	宮本三郎	マライの娘	1943年	油彩・キャンバス	37.7×45.5cm		星野画廊
79	宮本三郎	シンガポール英軍の降伏	1943年	油彩・キャンバス	53.0×72.7cm	「大東亜戦争記念報国葉書」原画	郵政博物館
80	宮本三郎	死の家族	1950年	油彩・キャンバス	98.0×145.8cm	『アサヒグラフ』1951年	世田谷美術館
81	宮本三郎	家族	1956年	油彩・キャンバス	106.2×106.3cm	第10回二紀会展	愛知県美術館
82	宮本三郎	女優の像	1960年	油彩・キャンバス	116.6×72.9cm	個展(兜屋画廊)	小松市立宮本三郎美術館
83	吉原治良	麦藁帽子と仕事着A	1931年	油彩・キャンバス	91.0×65.0cm	個展(紀伊国屋ギャラリー)	東京都現代美術館
84	吉原治良	風景	1933年頃	油彩・キャンバス	91.0×116.5cm	第21回二科会展	大阪新美術館建設準備室
85	吉原治良	図説	1934年[1936-37年頃]	油彩・キャンバス	96.9×130.3cm	第24回二科会展	東京都現代美術館
86	吉原治良	作品A	1936年[1938-40年頃]	油彩・キャンバス	91.0×116.7cm	第2回九室会展?	京都国立近代美術館
87	吉原治良	雪山	1940年	油彩・キャンバス	91.2×116.4cm	紀元2600年奉祝美術展	大阪新美術館建設準備室
88	吉原治良	菊(ロ)	1942年	油彩・キャンバス	91.0×72.5cm	第29回二科会展	大阪新美術館建設準備室
89	吉原治良	涙を流す顔	1949年	油彩・キャンバス	130.0×97.0cm	第34回二科会展	京都国立近代美術館
90	吉原治良	作品B	1953年	油彩・キャンバス	130.0×97.2cm	第2回日本国際美術展	大阪新美術館建設準備室
91	吉原治良	作品(UNTITLED)	1962年	油彩・キャンバス	182.0×272.0cm	ｸﾞﾀｲﾋﾟﾅｺﾃｶ開館展／第7回日本国際美術展	東京都現代美術館
92	吉岡堅二	奈良の鹿	1930年	紙本着彩,額	181.0×183.0cm	第11回帝展(特選)	京都国立近代美術館
93	吉岡堅二	海浜	1934年	紙本着彩,額	185.0×196.0cm	第15回帝展(無鑑査)	東大和市立郷土博物館
94	吉岡堅二	熱帯植物と蛾	1935年	紙本着彩,二曲一隻	151.3×158.0cm	第1回煌土社展	個人蔵(東大和市立郷土博物館寄託)
95	吉岡堅二	乳牛	1938年	紙本着彩,四曲一隻	236.0×376.0cm	第1回新美術人協会展	東大和市立郷土博物館
96	吉岡堅二	駱駝	1939年	紙本着彩,額	125.1×228.5cm	第5回煌土社展	京都国立近代美術館
97	吉岡堅二	馴鹿	1941年	紙本着彩,額	146.0×156.0cm	第6回煌土社展	東大和市立郷土博物館
98	吉岡堅二	雨中急迫	1941年	紙本着彩,まくり	146.0×159.0cm	第2回聖戦美術展	個人蔵(東大和市立郷土博物館寄託)
99	吉岡堅二	尾瀬沼畔	1947年	紙本着彩,額	112.5×98.5cm	第3回日展	上田市立美術館
100	吉岡堅二	鶴	1959年	紙本着彩,額	152.0×121.0cm	第23回新制作協会展	愛知県美術館
101	山口　薫	緑衣の女	1931年頃	油彩・キャンバス	92.0×72.7cm	第8回国画会展	群馬県立近代美術館
102	山口　薫	裸婦四人とバラ	1933年頃	油彩・キャンバス	72.5×61.0cm		何必館・京都現代美術館
103	山口　薫	黒曜石	1937年	油彩・キャンバス	100.0×80.0cm	第1回自由美術家協会展	世田谷美術館
104	山口　薫	南風	1939年	油彩・キャンバス	130.0×160.0cm	第3回自由美術家協会展	何必館・京都現代美術館
105	山口　薫	銃	1943年	油彩・キャンバス	130.0×160.0cm	第7回美術創作家協会展	何必館・京都現代美術館
106	山口　薫	練習機飛ぶ	1944年	油彩・キャンバス	38.5×45.5cm	第8回美術創作家協会展	個人蔵(群馬)
107	山口　薫	矢	1947年	油彩・キャンバス	100.3×80.1cm	第2回モダンアート協会展	世田谷美術館
108	山口　薫	画室の森	1949年	油彩・キャンバス	130.0×162.3cm	第13回自由美術家協会展	岐阜県美術館
109	山口　薫	矢羽根飛ぶ	1959年	油彩・キャンバス	130.5×161.8cm	第5回日本国際美術展	群馬県立近代美術館
110	香月泰男	風景	1931年頃	油彩・キャンバス	60.3×72.8cm		香月泰男美術館
111	香月泰男	雪庭	1934年	油彩・キャンバス	60.4×72.5cm	第10回国画会展	香月泰男美術館
112	香月泰男	兎	1939年	油彩・キャンバス	73.0×100.0cm	第3回文展(特選)	香月泰男美術館
113	香月泰男	石と壺	1940年	油彩・キャンバス	72.5×116.5cm	紀元2600年奉祝美術展	香月泰男美術館
114	香月泰男	ホロンバイル	1944年	油彩・キャンバス	46.0×65.0cm	戦時特別文展	個人蔵(フォルム画廊)
115	香月泰男	風	1948年	油彩・キャンバス	72.9×116.1cm	第22回国画会	東京藝術大学大学美術館
116	香月泰男	鳩と青年	1954年	油彩・キャンバス	72.5×116.5cm	第1回現代日本美術展	香月泰男美術館
117	香月泰男	乗客	1956年	油彩・キャンバス	116.7×72.8cm	第3回現代日本美術展	山口県立美術館
118	香月泰男	涅槃	1960年	油彩・キャンバス	130.3×194.3cm	第6回日本国際美術展	山口県立美術館
119	松本竣介	有楽町駅附近	1936年	油彩・紙,板	72.7×90.9cm	第7回NOVA美術協会展	岩手県立美術館
120	松本竣介	婦人像	1936年	油彩・紙	33.0×24.0cm	第7回NOVA美術協会展	個人蔵(東京1)
121	松本竣介	郊外	1938年	油彩・紙	52.5×72.5cm		個人蔵(東京2)
122	松本竣介	街	1938年	油彩・板	130.6×162.6cm	第25回二科会展	公益財団法人大川美術館
123	松本竣介	街にて	1940年	油彩・板	116.5×90.7cm	紀元2600年奉祝美術展	下関市立美術館

124	松本竣介	立てる像	1942年	油彩・キャンバス	162.0×130.5cm	第29回二科会展	神奈川県立近代美術館
125	松本竣介	議事堂のある風景	1942年	油彩・キャンバス	60.5×91.0cm	第2回個展	岩手県立美術館
126	松本竣介	鉄橋附近	1943年	油彩・キャンバス	34.3×59.8cm	第1回新人画会展	島根県立美術館
127	松本竣介	Y市の橋	1944年頃	油彩・キャンバス	65.0×80.5cm		個人蔵(東京1)
128	松本竣介	人[画家の像]	1947年	油彩・キャンバス	116.2×90.5cm	第11回自由美術協会展	岩手県立美術館
129	松本竣介	建物	1948年	油彩・キャンバス	60.5×73.0cm	第2回美術団体連合展	東京国立近代美術館

山田洋次講演会

リバプール国立美術館所蔵
英国の夢　ラファエル前派展

Pre-Raphaelite and Romantic Painting

会期：2015年10月 3 日（土）～12月13日（日）

主催

名古屋市美術館、中日新聞社

後援

ブリティッシュ・カウンシル、愛知県・岐阜県各教育委員会、名古屋市立小中学校PTA協議会

協力

KLMオランダ航空、日本航空、名古屋市交通局

観覧料

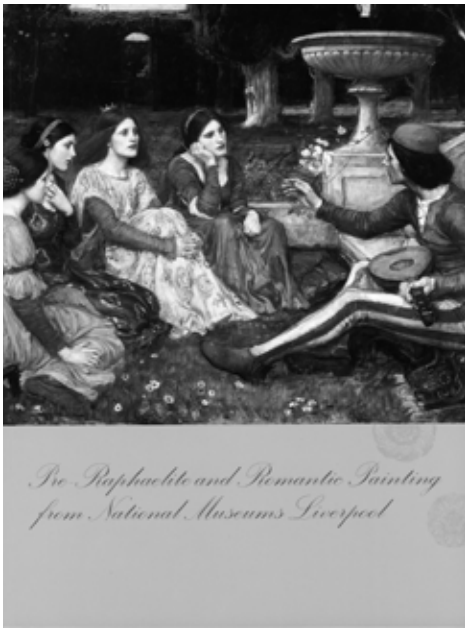
一般1,400円（1,200円）、高大生900円（700円）、中学生以下無料
（　）内は、前売り及び20名以上の団体料金

内容

「ラファエル前派」は19世紀半ばのイギリスで「自然に忠実に」をモットーに、ルネサンスの巨匠ラファエロ以前の美術を理想とし、それまでのイギリス画壇を支配してきたアカデミックな絵画とは全く異なる、豊かな物語性を孕み、想像力を喚起するような新しい絵画世界を創造した。「ラファエル前派」のグループとしての活動は数年と短い期間だったが、この運動は後の作家たちに大きな影響を与え、やがて象徴主義の潮流を形成していくことになるのである。またこの運動は明治期の日本にも紹介され、画家の青木繁や藤島武二、文学者の夏目漱石らに大きな影響を与えている。

この展覧会では、リバプール国立美術館の所蔵品から、ジョン・エヴァレット・ミレイ、ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティ、ウィリアム・ホルマン・ハントらラファエル前派の作品をはじめとするこの流れにある作家たちの代表作70点を紹介した。リバプール国立美術館は、リバプール市内及び近郊の3つの美術館（ウォーカー・アート・ギャラリー、レディ・リーヴァー・ギャラリー、サドリー・ハウス）と4つの博物館の総称で、特にラファエル前派の優れた作品を所蔵する美術館として世界的に知られているが、この美術館の代表的な作品を日本で初めて紹介する貴重な機会となった。

チラシ



図録

図録

29.8×22.5cm　224頁
監修・執筆：クリストファー・ニューアル、木島俊介
編　　集：塩田純一（新潟市美術館　館長）
　　松沢寿重（新潟市美術館　学芸係長）
　　山岸亜友美（新潟市美術館　学芸員）
　　高橋りほ（新潟市美術館　学芸員）
　　深谷克典（名古屋市美術館　副館長）
　　笠木日南子（名古屋市美術館　学芸員）
　　宮澤政男（Bunkamura ザ・ミュージアム　上席学芸員）
　　三谷知子（Bunkamura ザ・ミュージアム　学芸員）
　　萬屋健司（山口県立美術館　専門学芸員）
編集協力：見原由紀子（有限会社アルティス）
表紙デザイン：若林伸重（Akane Design）
制　　作：印象社
発　　行：有限会社アルティス

関連催事

記念講演会
　日時：10月3日（土）午後2時～
　講師：クリストファー・ニューアル氏（美術史家・本展監修者）
　　逐次通訳付き
　場所：2F講堂

展覧会解説会
　日時：10月24日（土）、11月23日（月・祝）いずれも午後2時～
　講師：笠木日南子（当館学芸員）
　場所：2F講堂

ボランティアによるギャラリートーク
　開催日：［10月］11日（日）、15日（木）、21日（水）、25日（日）、
　　28日（水）、29日（木）、30日（金）
　　［11月］ 3日（火・祝）、 6日（金）、11日（水）、
　　12日（木）、13日（金）、18日（水）、20日（金）、
　　21日（土）、26日（木）、27日（金）
　　［12月］ 1日（火）、 2日（水）、 5日（土）
　開始時間：午前10時30分～／午後1時30分～（約60分）

記念講演会

出品作品

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法	サイズ
1	ジョン・エヴァレット・ミレイ	いにしえの夢―浅瀬を渡るイサンブラス卿	1856～57年	油彩・カンヴァス	125.5×171.5cm
2	ジョン・エヴァレット・ミレイ	《いにしえの夢―浅瀬を渡るイサンブラス卿》のバージョン	1863年（推定）	グワッシュ・紙	14×17.7cm
3	ジョン・エヴァレット・ミレイ	春（林檎の花咲く頃）	1859年	油彩・カンヴァス	113×176.3cm
4	ジョン・エヴァレット・ミレイ	ブラック・ブランズウィッカーズの兵士	1860年	油彩・カンヴァス	104×68.5cm
5	ジョン・エヴァレット・ミレイ	森の中のロザリンド	1867–68年頃	油彩・板	22.6×32.7cm
6	ジョン・エヴァレット・ミレイ	ソルウェーの殉教者	1871年頃	油彩・カンヴァス	70.5×56.5cm
7	ジョン・エヴァレット・ミレイ	良い決心	1877年	油彩・カンヴァス	110×82.2cm
8	ジョン・エヴァレット・ミレイ	巣	1887年に最初の出品	油彩・カンヴァス	129.5×99
9	フォード・マドックス・ブラウン	花束	1865–67年	水彩、グワッシュ、黒チョーク・紙	23.3×15.9cm
10	フォード・マドックス・ブラウン	コーディリアの分け前	1866–72年	水彩、グワッシュ、パステル・紙	70.5×107.3cm

11	アーサー・ヒューズ	聖杯を探すガラハッド卿	1870年に最初の出品	油彩・カンヴァス	113×167.6cm
12	ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティ	シビラ・パルミフェラ	1865–70年	油彩・カンヴァス	98.4×85cm
13	ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティ	パンドラ	1878年	カラーチョーク・紙	100.8×66.7cm
14	シメオン・ソロモン	泉の少女	1865年	水彩、グワッシュ・紙	33×25.5cm
15	アントニー・オーガスタス・フレデリック・サンズ	トロイアのヘレネ	1866年頃	油彩・パネル	38.4×30.5cm
16	ダニエル・マクリース	祈りの後のマデライン	1868年に最初の出品	油彩・カンヴァス	128×101.5cm
17	ジョージ・ジョン・ピンウェル	ギルバート・ア・ベケットの誠実―夕暮れ時にロンドンへ入るサラセン人の乙女	1872年	グワッシュ、鉛筆・紙	57.5×109.3cm
18	ローレンス・アルマ=タデマ	打ち明け話	1869年	油彩・パネル	55.3×37.6cm
19	ローレンス・アルマ=タデマ	バッカス神の巫女(「彼がいるわ!」)	1875年	油彩・パネル	25.8×19.6cm
20	ローレンス・アルマ=タデマ	テピダリウム(テピダリウムにて)	1881年	油彩・パネル	24×33cm
21	ローレンス・アルマ=タデマ	お気に入りの詩人	1888年	油彩・パネル	38.6×51.5cm
22	ローレンス・アルマ=タデマ	美しさの盛りに	1911年	水彩・カード紙	16.5×23cm
23	フレデリック・レイトン	《ダフネフォリア》のための習作	1875年頃	油彩・板	26.2×60cm
24	フレデリック・レイトン	書見台での学習	1877年	油彩・カンヴァス	63.1×72.7cm
25	フレデリック・レイトン	プサマテー	1879–80年	油彩・カンヴァス	85×66.5cm
26	フレデリック・レイトン	エレジー	1888年	油彩・カンヴァス	61.5×51.3cm
27	フレデリック・レイトン	ペルセウスとアンドロメダ	1891年	油彩・カンヴァス	235×129.2cm
28	チャールズ・エドワード・ペルジーニ	「ドルチェ・ファール・ニエンテ(甘美なる無為)」	1882年に最初の出品	油彩・カンヴァス	119.4×138.5cm
29	チャールズ・エドワード・ペルジーニ	シャクヤクの花	1887年に最初の出品	油彩・カンヴァス	77.4×59cm
30	エドワード・ジョン・ポインター	愛の神殿のプシュケ	1882年	油彩・カンヴァス	66.3×50.7cm
31	エドワード・ジョン・ポインター	テラスにて	1889年に最初の出品	油彩・パネル	59.5×42.2cm
32	アルバート・ジョゼフ・ムーア	夏の夜	1890年に最初の出品	油彩・カンヴァス	132×228.5cm
33	アーサー・ハッカー	ペラジアとフィラモン	1887年	油彩・カンヴァス	113×184.2cm
34	ハーバート・ジェイムズ・ドレイパー	イカロス哀悼	1898年頃	油彩・パネル	48.4×41.6cm
35	ジョージ・アドルファス・ストレイ	ダナイスたちの徒労	1903年	水彩、グワッシュ・紙	25.8×35.8cm
36	ジョージ・オーウェン・ウイン・アパリー	プロクリスの死	1915年	水彩・グワッシュ・紙	78.9×134cm
37	ウィリアム・ヘンリー・ハント	卵のあるツグミの巣とプリムラの籠	1850–60年頃	水彩、グワッシュ、紙	32.3×42.5cm
38	ダニエル・アレクサンダー・ウィリアムソン	曇り空の日	1865年	水彩・紙	18×26.2cm
39	ジョージ・プライス・ボイス	サリー州アビンジャー近くの砂採取場	1866–77年	水彩、グワッシュ・紙	20.7×28.8cm
40	ウィリアム・ホルマン・ハント	イタリア人の子ども(藁を編むトスカーナの少女)	1869年	油彩・カンヴァス	52.1×49.1cm
41	ジョン・ラスキン	旧コニストン・ホール	1878年	水彩・紙	11.2×16cm
42	フレデリック・ウォーカー	魚屋の店	1872年	水彩、グワッシュ・紙	37.5×59.1cm
43	ケイト・グリーナウェイ	お嬢さんたち	1879年頃	水彩・紙	50.2×36.2cm
44	アルフレッド・ウィリアム・ハント	ダラム	1881年(推定)	水彩・紙	37.7×54.2cm
45	ヘレン・アリンガム	ピナーの田舎家	1890年代初め	水彩、紙	28.6×38.5cm
46	ジェイムズ・ハミルトン・ヘイ	流れ星	1909年	油彩・カンヴァス	64×76.8cm
47	フレデリック・ケイリー・ロビンソン	バルコニー	1920年	テンペラ、水彩・紙	40.5×40.5cm
48	ジョージ・フレデリック・ワッツ	十字架下のマグダラのマリア	1866–84年	油彩・カンヴァス	103×77.5cm
49	ジョージ・フレデリック・ワッツ	「これをこそ、女と呼ぼう」	1971年頃	油彩・カンヴァス	78.3×31cm
50	ジョージ・フレデリック・ワッツ	プシュケ(クピドに置き去りにされたプシュケ)	1875年	油彩・カンヴァス	66.7×23.5cm
51	ジョージ・フレデリック・ワッツ	《希望》のためのスケッチ	1877–86年頃	油彩・パネル	66×53.3cm
52	ジョージ・フレデリック・ワッツ	愛と生	1904年	油彩・カンヴァス	66.5×37.5cm
53	エドワード・コーリー・バーン=ジョーンズ	連作〈いばら姫〉最初の場面《眠れる騎士たち》の習作	1870年頃	油彩・カンヴァス	59×82.5cm
54	エドワード・コーリー・バーン=ジョーンズ	フラジオレットを吹く天使	1878年	水彩、グワッシュ、金彩・紙	74.9×61.2cm
55	エドワード・コーリー・バーン=ジョーンズ	スポンサ・デ・リバノ(レバノンの花嫁)	1891年	水彩、グワッシュ・紙	325.7×158cm
56–a	エドワード・コーリー・バーン=ジョーンズ	《スポンサ・デ・リバノ(レバノンの花嫁)》のための女性頭部習作	1891年頃	黒チョーク・和紙	30.9×23.5cm
56–b	エドワード・コリー・バーン=ジョーンズ	《スポンサ・デ・リバノ》のための女性頭部習作	1891年頃	カラーチョーク、水彩・紙	34.7×29cm
57	ジョン・メリッシュ・ストラドウィック	《おお燕よ、燕》	1894年	油彩・カンヴァス	93×59cm
58	ジョン・メリッシュ・ストラドウィック	聖セシリア	1896年に最初の出品	油彩・パネル	33.6×27.9cm
59	トーマス・ミリー・ダウ	エヴァ/炎の中でシンバルを持つ天使/竪琴を持つ天使(三連画)	1898年に最初の出品	油彩・カンヴァス	(中央)141×114.3cm、(左右)140.5×51.5cm
60	ジョン・ロダム・スペンサー・スタナップ	楽園追放	1900年に最初の出品	テンペラ・カンヴァス	136×176.8cm
61	ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス	エコーとナルキッソス	1903年	油彩・カンヴァス	109×189cm
62	ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス	デカメロン	1916年	油彩・カンヴァス	101.5×159cm
63	ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス	魔法をかけられた庭	1916–17年	油彩・カンヴァス	115.5×160cm
64	エレノア・フォーテスク=ブリックデール	小さな召使い(乙女エレン)	1905年に最初の出品	油彩・カンヴァス	90.8×57cm
65	ロバート・アニング・ベル	警鐘	1919年	水彩・紙	24.3×34.8cm

ポジション2016　アートとクラフトの蜜月

POSITION 2016 An Intimate Relationship of Art and Craft

会期：2016年１月５日（火）～２月21日（日）

主催

名古屋市美術館、日本経済新聞社、テレビ愛知

後援

愛知県・岐阜県各教育委員会、名古屋市立小中学校PTA協議会

協力

プラス株式会社、欅舎、福西和紙本舗、名古屋市交通局

観覧料

一般1,100円、高大生800円、中学生以下無料

内容

この地方で活躍する作家の作品を紹介するポジション展として5回目の開催。今回は「アートとクラフト」を採り上げた。アートとクラフトはそれぞれに違う個性を持っているが、近年、それらが融合することにより、新たな魅力ある世界が生み出されている。そのような、いわば「アートとクラフトの蜜月」ともいえる作品を紹介し、その豊かな可能性を感じ取っていただこうという企画である。出品作家は、稲葉佳子、徳田吉美、中谷ゆうこ、水谷一子、水野誠子、米山より子、KIM HONO の7名であり、ものづくりの盛んな愛知・名古屋からアートとクラフトの新しい在り方を発信していく作家達の個性溢れる作品が展示された。

図録

25×22.5cm　60頁

編　集：中村暁子、保崎裕徳（名古屋市美術館）

発　行：「ポジション2016　アートとクラフトの蜜月」展実行委員会

関連事業

作家によるギャラリートーク

出品作家が自らの作品と制作について語った。

日　　時：１月10日（日）
午前10時～KIM HONO、午前10時30分～水野誠子、
午前11時～中谷ゆうこ、午後２時～稲葉佳子、
午後２時30分～水谷一子、午後３時～米山より子、
午後３時30分～徳田吉美

場　　所：企画展示室内

ペインティングパフォーマンス「境界を越える」

出品作家の中谷ゆうこが、地下ロビーの曲面ガラスを使ったパフォーマンスを行った。（日栄一雅のサウンドとのコラボレーション。）

日　　時：１月８日（金）夕暮れ時（午後４時30分頃）

場　　所：名古屋市美術館地下ロビー

ワークショップ「お米で首飾りを作ろう！」

出品作家の米山より子が、お米とあこや本真珠を使って首飾りを作るワークショップを行った。

日　　時：１月24日（日）午前10時～

場　　所：名古屋市美術館地下ロビー

対象年齢：小学校４年生～一般　（申し込み制）

ワークショップ「紙でヘッドオブジェを作ろう！」

出品作家の米山より子が、紙を使ってヘッドオブジェを作るワークショップを行った。

日　　時：１月24日（日）午後２時～

場　　所：名古屋市美術館地下ロビー

対象年齢：小学校４年生～一般　（申し込み制）

ワークショップ「鳥になったつもりで巣を作ろう！」

出品作家の稲葉佳子が、木と糸を使ったワークショップを行った。

日　　時：１月30日（土）午後２時～

場　　所：名古屋市美術館地下ロビー

対象年齢：小学校４年生～一般　（申し込み制）

作品解説会

展覧会担当学芸員の中村暁子が、出品作品と出品作家について解説した。

日　　時：１月17日（日）午後２時～

場　　所：名古屋市美術館２階講堂

ボランティアによるギャラリートーク

開催日：［１月］19日（火）、21日（木）、23日（土）、24日（日）、
28日（木）、30日（土）、31日（日）
［２月］ 3日（水）、 6日（土）、 7日（日）、10日（水）、
12日（金）、13日（土）

開始時間：午前10時30分～／午後１時30分～（約60分）

出品作品

作家名	作品名	制作年	素材	サイズ(cm)
稲葉佳子	「仮宿」ー巣	2015	枝、和紙	21×21×(H)16
	「仮宿」ー巣	2015	枝、和紙(K氏作)	28×25×(H)15
	「仮宿」ー巣	2015	和紙(書家Y氏作)、布	18×18×(H)11
	「仮宿」ー巣	2015	枝、和紙、色鉛筆	21×21×(H)7
	「仮宿」ー巣	2015	枝、和紙(K氏作)	20×20×(H)23
	「仮宿」ー巣	2015	枝、糸(麻、綿)	28×28×(H)12
	「仮宿」ー巣	2015	枝、和紙(K氏作)	20×20×(H)14
	「仮宿」ー巣	2015	枝、糸(絹、綿)	29×(D)20×(H)22
	「仮宿」ー巣	2014	枝、糸(綿)	30×19×(H)10
	「仮宿」ー巣	2015	枝、糸(綿)	19×19×(H)7
	「仮宿」ー巣	2015	枝、糸(綿)	27×27×(H)7
	「仮宿」ー巣	2015	枝、糸(綿)、針金	15×15×(H)6
	「仮宿」ー巣	2015	枝、針金(ステンレス糸)、真綿	18×18×(H)8
	「仮宿」ー巣	2014	枝、水引、糸(絹、綿)	20×14×(H)8
	「仮宿」ー巣	2015	プラスチック、糸(綿)	16×16×(H)10
	「仮宿」ー巣	2015	糸(麻)	21×21×(H)15
	「仮宿」ー巣	2015	布(綿)、,枝、糸	48×30×(H)13
	「仮宿」ー巣	2015	枝、繭、糸(紡ぎ糸)	16×(D)16×(H)40
	「仮装」	2015	枝、糸　11点ひと組	(W)18～30×(D)5～20×(H)30～60
	「仮装」	2015	枝、糸　7点ひと組	(W)15～25×(D)10×(H)46～55
	「仮装」	2015	枝、糸　2点ひと組	(w)40×(D)10×(H)60
	「仮装」	2015	枝、糸	(w)50×(D)10×(H)100
徳田吉美	カップ	2015	半磁器	200×200(インスタレーション)
	プレート	2015	半磁器	200×200(インスタレーション)
	ボウル	2015	半磁器	200×200(インスタレーション)
	アクセサリーホルダー	2002	半磁器	200×200(インスタレーション)
	猿	2004	布、銅線、糸など、半磁器	38×20×15
	鳥	2005	布、銅線、糸など、半磁器	33×20×15
	虎	2010	布、銅線、糸など、半磁器	16×8×8
	犬	2004	布、銅線、糸	16×8×9
	猫	2004	布、銅線、糸	7×6×13
	マグカップ	2015	半磁器	(φ)8.5×(H)8　(φ)8×(H)7　等
	豆皿	2015	半磁器	(φ)6×(H)1.5
	ボタン	2015	半磁器	(φ)3.5×(H)1
	ピンバッジ	2015	半磁器	3×3
	作業服	2007～2008	京都カドヤ作業服	(H)140×(W)50
中谷ゆうこ	entrée	2014～2015	キャンバスに油彩	75.8×56.0
	l'origine des âmesーたましいのはじまり	2011～2015	キャンバスに油彩、クリップ、石粉粘土、ミクストメディア	サイズ可変(インスタレーション)
	Quartet	2002～2015	キャンバスに油彩	130.3×162.0
	つなぐもの	2015	キャンバスに油彩	162.0×162.0
	Trio	2002～2015	キャンバスに油彩	162.0×194.0
	les petites maisonsーちいさなおうち	2014～2015	クリップ、陶	サイズ可変(インスタレーション)2つ組み
	beyond the borderー境界を越える	2015	キャンバスに油彩、クリップ、和紙、ワイヤー、ミクストメディア	サイズ可変(インスタレーション)
	D'où venons-nous? Que sommes-nous? Où allons-nous? ー我々はどこから来たのか? 我々は何者か? 我々はどこへ行くのか?	2009～2015	キャンバスに油彩、陶	138.0×213.5×12.0
水谷一子	謐 ver.1	2013	brass wire(真鍮針金)	85×120×70
	謐 ver.2	2013	brass wire(真鍮針金)	130×60×45
	謐 ver.5	2015	brass wire(真鍮針金)	140×80×100
	謐 ver.6	2015	brass wire(真鍮針金)	120×70×50
	翻 ver.5	2015	brass wire(真鍮針金)	80×80×50
	技 ver.1	2015	brass wire(真鍮針金)	90×60×40
	技 ver.2	2015	brass wire(真鍮針金)	90×50×70
	技 ver.3	2013	brass wire(真鍮針金)	100×60×70
	饗 ver.7	2015	brass wire(真鍮針金)	90×60×35
	cat	2015	brass wire(真鍮針金)	60×15×70
	cat	2015	brass wire(真鍮針金)	30×50×20
	cat	2015	brass wire(真鍮針金)	42×30×20
	cat	2015	brass wire(真鍮針金)	45×23×20
	cat	2015	brass wire(真鍮針金)	40×23×20

水野誠子	テンション　(ジュエリー　ブローチ)	2006	布、銀(ロジュームメッキ)	8×8×7
	テンション　(ジュエリー　ブローチ)	2006	布、銀(ロジュームメッキ)	8×8×6
	テンション　(ジュエリー　ブローチ)	2006	布、銀(ロジュームメッキ)	8×8×7
	テンション　(ジュエリー　ブローチ)	2006	布、銀(ロジュームメッキ)	8×8×7
	テンション　(ジュエリー　ブローチ)	2006	布、銀(ロジュームメッキ)	8×8×7
米山より子	あうことーAdhere- こめのゆめ	2015	米、糸、阿古屋真珠、鏡	サイズ可変(インスタレーション)
	あうことーAdhere- はなれること	2015	和紙	サイズ可変(壁レリーフ)
	あうことーAdhere- 白居易「和夢遊春詩」より	2015	六曲一隻屏風、和紙	(H)171.6×(W)375.6×(D)1.8
KIM HONO	(タイトルなし)	2010～2015	陶器	サイズ可変(インスタレーション)
	(タイトルなし)	2010～2015	陶器	サイズ可変(インスタレーション)
	(タイトルなし)	2014	Tシャツ	サイズ可変(インスタレーション)

東京藝術大学コレクション
麗しきおもかげ:日本近代美術の女性像

My Dearest: Female Images in Japanese Modern Arts
from the Collection of Tokyo University of the Arts

会期：2016年3月5日（土）～4月17日（日）

主催
名古屋市美術館、中日新聞社

後援
愛知県・岐阜県各教育委員会、名古屋市立小中学校PTA協議会

特別協力
東京藝術大学

協賛
野崎印刷紙業

協力
名古屋市交通局、JR東海、名古屋鉄道、近畿日本鉄道

観覧料
一般1,300円、高大生800円、中学生以下無料

内容
東京藝術大学は1887年に開学した東京美術学校を前身として、戦後1949年に創立され、現在に至るまで、日本の近代、現代における美術文化の創造に貢献してきた。特に幕末から明治へ、日本社会の近代化が急速に進められるなかで、日本美術の伝統を継承しながら、西洋美術の真髄を移植することを主要な課題として、日本の近代美術を開拓した数多くの美術家たちを育成、輩出してきた。このように長き歴史を有する東京藝術大学には、日本の近代美術の貴重な作品がコレクションされている。

今回の展覧会では、第1部として、東京藝術大学コレクションのなかから厳選された作品50点に、名古屋市美術館が所蔵する代表的な作品11点を加えて、総計61点の作品により、日本の近代美術における女性像の変遷を紹介した。高橋由一の《美人（花魁）》や狩野芳崖《悲母観音》からはじまり、憧れの西洋女性の美しき肖像を経て、明治・大正・昭和三代を生きた日本女性の愛しき肖像まで、多彩な女性像を展示した。

また、第2部では、東京美術学校日本画科の卒業制作のなかから女性像を描いた作品40点を初めて特集して紹介した。画壇の流行に敏感な画学生たちが、渾身の力を込めて制作した処女作には、若い情熱に溢れた斬新で魅力的な作品が揃っていた。

図録
29.8×22.7×1.4cm　168頁

チラシ

図録

記念講演会

Ⅰ．日本近代美術の女性像

1	高橋由一	美人(花魁)	1872(明治5)年	油彩・キャンバス	77.0×54.8	*重要文化財
2	國澤新九郎	西洋婦人像	1873(明治6)年	油彩・キャンバス	49.3×39.7	
3	百武兼行	ブルガリアの女	1873(明治12)年	油彩・キャンバス	81.1×100.2	
4	山本芳翠	西洋婦人像	1882(明治15)年	油彩・板	41.0×32.9	
5	五姓田義松	操芝居	1883(明治16)年	油彩・キャンバス	84.0×119.4	
6	狩野芳崖	悲母観音	1888(明治21)年	絹本着彩	195.8×86.1	*重要文化財
7	浅井　忠	収穫	1890(明治23)年	油彩・キャンバス	69.6×98.2	*重要文化財
8	横山大観	猿廻	1892(明治25)年	絹本着彩	55.5×95.6	
9	下村観山	熊野御前花見	1894(明治27)年	絹本着彩	61.3×119.7	#卒業制作
10	板谷波山	元禄美人像	1894(明治27)年	木	h.132.7	#卒業制作
11	菱田春草	水鏡	1897(明治30)年	絹本着彩	257.8×170.8	日本絵画協会第3回共進会
12	小坂象堂	野辺	1898(明治31)年	絹本着彩	84.6×110.8	
13	矢崎千代二	教鵡	1900(明治33)年	油彩・キャンバス	73.7×58.8	第5回白馬会展
14	津田信夫	憂鬱ノ婦人立像	1900(明治33)年	青銅,鋳造	h.62.7	#卒業制作
15	藤島武二	造花	1901(明治34)年	油彩・キャンバス	136.5×94.0	第6回白馬会展
16	青木　繁	黄泉比良坂	1903(明治36)年	色鉛筆・紙	48.5×33.5	第8回白馬会展
17	原　撫松	裸婦	1906(明治39)年	油彩・キャンバス	130.5×97.8	
18	結城素明	無花果	1907(明治40)年	紙本着彩	225.0×117.0	第1回文展
19	小林萬吾	物思い	1907(明治40)年	油彩・キャンバス	115.3×81.3	第1回文展(3等賞)
20	満谷国四郎	車夫の家族	1908(明治41)年	油彩・キャンバス	150.7×120.3	第2回文展
21	荻原守衛	女	1910(明治43)年	ブロンズ	h.98.8	第4回文展(3等賞)
22	加藤静児	婦人像	1910(明治43)年代頃	油彩・キャンバス	100.5×73.2cm	
23	石井柏亭	チョチャラ	1911(明治44)年	水彩・紙	38.0×27.0	
24	五味清吉	秋のおとづれ	1911(明治44)年	油彩・キャンバス	162.2×112.2	第5回文展
25	建畠大夢	悶へ	1911(明治44)年	ブロンズ	h.112.0	#卒業制作
26	神津港人	雪の日	1912(明治45)年	油彩・キャンバス	116.2×80.2	#卒業制作
27	児島虎次郎	西洋婦人像	1912(明治45)年頃	油彩・キャンバス	114.5×89.0	
28	太田三郎	カフェーの女	1914(大正3)年	木版多色刷・紙	21.0×11.1	『現代の洋画』第23号
29	清水良雄	晩秋	1915(大正4)年	油彩・キャンバス	96.9×161.9	#卒業制作
30	北原鹿次郎	水の行方	1917(大正6)年	木、彩色	h.129.2	#卒業制作
31	清水(佐藤)三重三	独り	1919(大正8)年	木、彩色	h.65.4	#卒業制作
32	山本　鼎	ブルトンヌ	1920(大正9)年	木版多色刷・紙	36.3×28.4	第2回日本創作版画協会展
33	伊原宇三郎	よろこびの曲	1921(大正10)年	油彩・キャンバス	89.2×145.3	#卒業制作／第3回帝展
34	水野正一	少女	1921(大正10)年	油彩・キャンバス	73.0×53.0	
35	戸田海笛	水	1921(大正10)年	木	h.72.0	第3回帝展
36	保田龍門	クリスティーヌの首	1923(大正12)年頃	ブロンズ	h.34.2	第10回再興日本美術院展
37	林　雲鳳	聞香	1920(大正9)年代頃	絹本着彩	105.7×57.3	東海美術協会展(金賞)
38	松岡映丘	伊香保の沼	1925(大正14)年	絹本着彩	202.3×131.5	第6回帝展
39	清水多嘉示	レア嬢	1926(大正15)年	ブロンズ	h.39.4	第19回サロン・ドートンヌ
40	恩地孝四郎	『美人四季』より　春	1927(昭和2)年	木版多色刷・紙	27.8×22.4	第7回日本創作版画協会展
		『美人四季』より　夏	1927(昭和2)年	木版多色刷・紙	27.8×22.8	第7回日本創作版画協会展
		『美人四季』より　秋	1927(昭和2)年	木版多色刷・紙	28.3×23.0	第7回日本創作版画協会展
		『美人四季』より　冬	1927(昭和2)年	木版多色刷・紙	28.3×23.1	第7回日本創作版画協会展
41	大沢昌助	姉妹	1928(昭和3)年	油彩・キャンバス	111.9×145.4	#卒業制作
42	富澤有為男	姉	1928(昭和3)年	油彩・キャンバス	91.0×72.8	サンサシオン・光風会合同展
43	伊藤　廉	白いブラウス	1929(昭和4)年	油彩・キャンバス	81.2×65.2	
44	橋本平八	花園に遊ぶ天女	1930(昭和5)年	木,淡彩色	h.121.7	第17回再興日本美術院展
45	川崎小虎	荒涼	1931(昭和6)年	紙本着彩	174.7×168.4	第12回帝展
46	松下春雄	花を持つ女	1931(昭和6)年	油彩・キャンバス	162.3×130.1	第12回帝展(特選)
47	佐分　真	食後	1931(昭和6)年頃	油彩・キャンバス	130.3×162.1	
48	小磯良平	裁縫女	1932(昭和7)年	油彩・キャンバス	193.3×130.7	第13回帝展(特選)
49	硲　伊之助	裸婦	1932(昭和7)年	木版多色刷・紙	26.7×38.8	『滞欧版画集』
50	澤田政廣	華炎	1932(昭和7)年	木	h.142.8	第13回帝展
51	渡辺幾春	蓄音器	1933(昭和8)年	絹本着彩	210.0×190.0	第14回帝展
52	鬼頭鍋三郎	手をかざす女	1934(昭和9)年	油彩・キャンバス	191.0×129.0	第15回帝展(特選)
53	林　　武	梳ずる裸婦	1935(昭和10)年	油彩・キャンバス	78.2×54.8	第6回独立美術協会展
54	中村大三郎	読書	1936(昭和11)年	絹本着彩	120.8×91.8	昭和11年文展(招待)
55	上村松園	草紙洗小町	1937(昭和12)年	絹本着彩	214.6×133.0	第1回新文展
56	高田博厚	女のトルソー	1937(昭和12)年	ブロンズ	h.55.3	
57	北川民次	作文を書く少女	1939(昭和14)年	油彩・キャンバス	73.4×60.7	第5回京都市美術展
58	谷中安規	龍の夢	1939(昭和14)年	木版多色刷・紙	21.6×28.1	

59	鏑木清方	一葉	1940(昭和15)年	絹本着彩	143.6×79.4	紀元2600年奉祝美術展
60	中沢弘光	静思	1941(昭和16)年	油彩・キャンバス	100.0×80.6	第4回新文展
61	伊東深水	銀河祭り	1946(昭和21)年	絹本着彩	169.0×84.0	第2回日展

Ⅱ. 東京美術学校日本画科の卒業制作の女性像

1	桑名三郎	児育観世音	1896(明治29)年	絹本着彩	175.9×84.1	明治29年・本科
2	清家　恕(鉄山)	牡丹美人図	1898(明治31)年	絹本着彩	171.3×83.2	明治31年・本科
3	野本(山崎)勇馬(香雲)	秋夜孤影	1898(明治31)年	絹本着彩	164.8×98.1	明治31年・選科
4	平福貞蔵(百穂)	田舎嫁入	1899(明治32)年	絹本着彩	111.0×65.7	明治32年・選科
5	藤井　豊(紫水)	卒業帰途	1901(明治34)年	絹本着彩	193.0×111.8	明治34年・本科
6	古田土貞治(雅堂・古里)	少女	1902(明治35)年	絹本着彩	141.6×85.9	明治35年・本科
7	沢津昌利(松渓)	今様美人	1903(明治36)年	絹本着彩	170.9×84.6	明治36年・選科
8	葛捘一郎(江月)	外科手術	1904(明治37)年	絹本着彩	84.2×145.3	明治37年・本科
9	三浦　孝(広洋・北峡)	栄誉ナラズヤ	1905(明治38)年	絹本着彩	113.5×71.4	明治38年・選科
10	後藤茂啓	かぐや姫	1906(明治39)年	絹本着彩	170.0×85.2	明治39年・本科
11	磯野寿吉(露聲・霊山)	長恨	1907(明治40)年	絹本着彩	169.1×84.1	明治40年・本科
12	桐谷長之助(洗麟)	蜘蛛	1907(明治40)年	絹本着彩	119.5×84.8	明治40年・選科
13	戸部隆吉	枇杷と蕗の薹	1911(明治44)年	絹本着彩	203.4×163.0	明治44年・本科
14	中村岳陵	仏誕	1912(明治45)年	絹本着彩	243.0×86.0	明治45年・選科
15	廣島新太郎(晃甫)	玉乗り	1912(明治45)年	絹本着彩	116.3×84.3	明治45年・本科
16	山本信太郎(廣洋)	信仰	1912(明治45)年	絹本着彩	165.8×85.2	明治45年・本科
17	伊藤順三	庭園の春	1913(大正2)年	絹本着彩	178.1×88.5	大正2年・本科
18	上林重徳(大紹)	爪びき	1913(大正2)年	絹本着彩	139.5×85.8	大正2年・選科
19	菊池(田代)猶喜	海底のささやき	1913(大正2)年	絹本着彩	329.0×84.5	大正2年・本科
20	篠田十一郎(柏邦)	あかとんぼ	1913(大正2)年	絹本着彩	226.7×173.5	大正2年・本科
21	加藤丑之助(大夢)	八千代さん	1915(大正4)年	絹本着彩	210.5×114.3	大正4年・本科
22	夏目利政	海辺の女	1915(大正4)年	紙本着彩	124.2×148.7	大正4年・選科
23	星川清雄	春	1918(大正7)年	絹本着彩	155.3×114.1	大正7年・本科
24	川瀬忠雄	盲者の春	1920(大正9)年	絹本着彩	161.9×71.8	大正9年・本科
25	畠山錦成	早春	1921(大正10)年	絹本着彩	181.5×174.0	大正10年・本科
26	根上富治	鳩	1922(大正11)年	絹本着彩	180.5×146.7	大正11年・本科
27	池之上愿(原心)	春	1923(大正12)年	絹本着彩	196.6×160.5	大正12年・本科
28	國則　薫(欣哉)	まどゐ	1923(大正12)年	絹本着彩	169.2×167.8	大正12年・本科
29	山本正義(丘人)	白菊	1924(大正13)年	絹本着彩	160.0×108.1	大正13年・選科
30	小坂勝人	村娘	1926(大正15)年	絹本着彩	172.5×154.5	大正15年・選科
31	水谷道彦	春	1926(大正15)年	絹本着彩	266.5×191.2	大正15年・本科
32	三輪敏夫	閑庭	1928(昭和3)年	絹本着彩	196.9×115.2	昭和3年・本科
33	森村(田村)行雄(稲門・宜永)	夏	1929(昭和4)年	絹本着彩	181.5×240.7	昭和4年・本科
34	飯島正義	晩秋	1930(昭和5)年	絹本着彩	200.3×142.4	昭和5年・本科
35	塩　長廣	秋晴れ	1933(昭和8)年	絹本着彩	224.6×171.8	昭和8年・本科
36	杉山　寧	野	1933(昭和8)年	絹本着彩	177.8×178.4	昭和8年・本科
37	高山辰雄	砂丘	1936(昭和11)年	絹本着彩	236.0×183.0	昭和11年・本科
38	野嶋清一(青茲)	蓙織り	1938(昭和13)年	絹本着彩	186.0×216.0	昭和13年・本科
39	金子孝信	季節の客	1940(昭和15)年	絹本着彩	227.5×197.1	昭和15年・本科／紀元2600年奉祝美術展
40	稗田一穂	午後	1943(昭和18)年	紙本着彩	231.0×188.7	昭和18年・本科

名古屋市美術館では、美術鑑賞の楽しさや面白さを体験できる美術館を目指して、今年度も来館者の皆さんからの多様な要望に応えられるように多彩な教育プログラムを実施しました。

一般向けには、特別展や常設企画展などでの講演会や解説会が定番ですが、今年度は二人の映画監督の記念講演会が特筆されます。

戦後70年を記念して開催した「画家たちと戦争：彼らはいかにして生きぬいたのか」展では、山田洋次監督が新作映画「母と暮らせば」を制作中の多忙なときに来館され、戦争を生きるということの自らの満洲体験と映画を作ることの意味を語ってくれました。満席の会場は熱気に包まれていました。また、フランスのランス美術館との交流事業として、特別展「生誕130年　藤田嗣治」に先行するかたちで、新作映画「FUJITA」の上映とともに、小栗康平監督による特別講演を行いました。

この他に、特別展「若林奮　飛葉と振動」において、若林さんと親しかった彫刻家・青木野枝、画家・鈴木省三、彫刻家・袴田京太朗による鼎談、常設企画展「北川民次の絵画技法」では、歌田眞介（東京藝術大学名誉教授）、森田恒之（東京藝術大学客員教授）などによる記念シンポジウムが開催されました。

毎年恒例となった名古屋市美術館の学芸員による研究発表の場としての「コレクション解析学」は全５回（フリーダ・カーロ、コンスタンティン・ブランクーシ、鷲見麿、辰野登恵子、ハイム・スーチン）を実施しました。

次に、子ども向けの教育普及事業としては、夏休みの恒例となった「夏休み　こどもの美術館」では、「ボクいろ、わたしイロ、どんな色？」というタイトルで、基本的な造形要素のひとつであり、日頃から慣れ親しんでいる「色」に対する関心を高めることをねらいとして、作品制作を通して考える体験プログラムを実施しました。「だれでもワークショップ」「caféの色を楽しもう」「色の重なりを楽しもう」「自分色のレシピを作ろう」といった多彩なプログラムは、小中学生だけでなく、未就学児や一般成人も楽しんでもらえました。

また、学校休業日の体験活動の推進のための美術鑑賞プログラムにおいては、「びじゅつ　びっくり　たまてばこ」とタイトルを一新して、「子どものためのワークシート」を配布するとともに、常設展のなかの「イチおし！」の作品の鑑賞、展示室のなかの美術作品だけでなく、普段は気づかずに見逃しているものを見つけて考える「おさんぽマスター」、クイズ形式で美術館を体験してもらう「びじゅつかん検定」、白川公園の彫刻作品を見て回る「まるごと玉手箱」などを実施しました。

学校との連携による教育普及事業としては、平成15年度から開始された「出前アート体験」では、「名画の秘密をさぐる」「作品に託されたメッセージ」「美術から異文化を知ろう！」「アートカードで学ぼう」などのプログラムを持って、学芸員やガイドボランティアが出前授業（全８校）を行いました。今年度はトワイライトスクールでの「出前アート体験　アートカードで遊ぼう」を実施して、全６校214名が参加しました。学校の団体見学への対応においても、ガイドボランティアによる常設展のガイドトークを受けた児童・生徒たち（名古屋市内の小中学校を中心として、大学や老人クラブも含めて、22団体1,754名）は充実した美術鑑賞の体験をしています。名古屋市美術館が開発した美術鑑賞補助教材「アートカード」の貸出は、今年度はかなり減少して、美術館と保管校から総計18件29セットでした。また、昨年度から引き続いて、教師のための研修会として、名古屋市教育センター研修「名古屋市美術館における鑑賞教育講座」を２日間開催して、126名が受講しました。

このように名古屋市美術館が積極的な教育普及事業を展開できるのは、ガイドボランティアの活動に支えられているからです。名品コレクション展でのギャラリートークを基本として、「キッズの日」の美術鑑賞プログラムの企画・実施、「出前アート体験」の「アートカードで学ぼう」の支援、常設展の学校団体向けガイドトークの実施、ボランティア養成講座のサポートを行う教育活動など、幅広い分野で活動を行ってきました。今年度は、総計95名のボランティアが活動しました。

美術館の活動を支援することを目的とした美術愛好家の会である名古屋市美術館協力会では、春・秋の「美術館見学ツアー」や近郊の美術館への「美術鑑賞ミニツアー」を積極的に実施しました。現代美術家・設楽知昭氏にオリジナル・カレンダーの作成を委嘱しました。

この他に、美術書や画集・展覧会カタログが充実した図書室の利用者も年間で5,739名になっています。出版関係では、多彩で豊富な記事が好評の美術館ニュース「アートペーパー」（第99～101号）は創刊100号を迎えました。この他に定期刊行物としては『年報』「展覧会案内」を刊行しました。

1. 一般成人対象の事業

(1)講演会・解説会

年月日	時刻	内容	講　師　等	場　所	参加者
27年 4 月18日(土)	14時～	若林奮展講演会「1974年在外研修フランス、スペイン、エジプト」	淀井彩子(画家)	講堂	90
27年 4 月29日(水・祝)	13時半～	若林奮展鼎談「若林さんのこと」	青木野枝(彫刻家)、鈴木省三(画家)、袴田京太朗(彫刻家)	講堂	110
27年 5 月10日(日)	14時～	若林奮展講演会「若林奮と言葉」	市川政憲(美術評論家)	講堂	105
27年 5 月16日(土)	14時～	若林奮展解説会	角田美奈子(当館学芸員)	講堂	65
27年 7 月25日(土)	14時～	トリエンナーレスクール「創造するホモ・サピエンス　洞窟壁画にみる人類のクリエイティビティ」	五十嵐ジャンヌ(東京藝術大学美術研究科博士リサーチセンター)	講堂	92
27年 8 月 2 日(日)	14時～	画家たちと戦争展解説会「もしも戦争がなかったら」	山田諭(当館学芸課長)	講堂	90
27年 8 月15日(土)	14時～	画家たちと戦争展特別記念講演会(事前申込制)	山田洋次(映画監督)	講堂	180
27年 9 月 6 日(日)	14時～	画家たちと戦争展解説会「もしも戦争がなかったら」	山田諭(当館学芸課長)	講堂	90
27年10月 3 日(土)	14時～	ラファエル前派展記念講演会「英国美術とラファエル前派の魅力」	クリストファー・ニューアル(美術史家・本展監修者)	講堂	183
27年10月24日(土)	14時～	ラファエル前派展解説会	笠木日南子(当館学芸員)	講堂	148
27年11月23日(月・祝)	14時～	ラファエル前派展解説会	笠木日南子(当館学芸員)	講堂	100
28年 1 月17日(日)	14時～	ポジション2016展解説会	中村暁子(当館学芸員)	講堂	80
28年 1 月23日(土)	14時～	北川民次の絵画技法展記念シンポジウム	歌田眞介(東京藝術大学名誉教授)	講堂	60
28年 1 月31日(日)	14時～	トリエンナーレスクール「文学、そして表現活動を通してみるアラブの現代」	岡真理(京都大学大学院人間・環境学研究科教授)	講堂	93
28年 2 月18日(木)	10時半～	視覚障害者向け常設展ギャラリートーク	保崎裕徳(当館学芸員)	常設展	14
28年 3 月 5 日(土)	14時～	トリエンナーレスクール「宇宙を移動する目と移動する光ー天文学の最前線」	毛利勝廣(名古屋市科学館主任学芸員)	講堂	100
28年 3 月13日(日)	14時～	麗しきおもかげ展解説会	山田諭(当館学芸課長)	講堂	100
28年 3 月20日(日)	14時～	麗しきおもかげ展記念講演会	薩摩雅登(東京藝術大学大学美術館教授)	講堂	100
28年 3 月26日(土)	13時～	ランス美術館交流事業　小栗康平監督特別講演会及び映画上映会(事前申込制)	小栗康平(映画監督)	講堂	140

＊展覧会チケットまたは半券の提示が必要。

小栗康平監督特別講演会

(2)コレクション解析学

年月日	時刻	内容	講　師　等	場　所	参加者
27年 5 月17日(日)	14時～	フリーダ・カーロ《死の仮面を被った少女》	中村暁子(当館学芸員)	講堂	86
27年 8 月23日(日)	14時～	コンスタンティン・ブランクーシ《うぶごえ》	竹葉丈(当館学芸員)	講堂	85
27年11月22日(日)	14時～	鷲見麿《Portrait of Battista Sforza,Portrait of Federico da Montefeltro and Portrait of Aoki》(3点1組)	角田美奈子(当館学芸員)	講堂	70
28年 1 月24日(日)	14時～	辰野登恵子《WORK86-P-12》	笠木日南子(当館学芸員)	講堂	70
28年 3 月27日(日)	14時～	ハイム・スーチン《農家の娘》	清家三智(当館学芸員)	講堂	80

コレクション解析学第１回

日時：５月17日（日）午後２時～

作品：フリーダ・カーロ《死の仮面を被った少女》1938年

演題：「カーロの中の現代性」

講師：中村暁子（学芸員）

内容：メキシコの女性画家フリーダ・カーロ（1907-1954）の《死の仮面を被った少女》は、サイズの小さな作品でありながら、見る人に強い印象をもたらす。この作品が描かれる背景にある、カーロの劇的な人生についてまず紹介し、夫である壁画家ディエゴ・リベラに対する彼女の深い愛情や葛藤、リベラと自分を描いた作品に表れる宇宙的ともいえる壮大なビジョンについて解説した。また、カーロ研究の第一人者であるヘイデン・エレーラの論文をもとに、カーロの作品が現代作家の作品の中にどのように影響を与えているか、またどのように引用されているかを検証し、カーロの作品の中に描かれるプライベートな側面が現代の女性作家に通じる部分を持っていることを論じた。《死の仮面を被った少女》は、プライベートな出来事を色濃く反映しつつ、宇宙的なビジョンも感じさせるという意味で、カーロの特徴をよく示す作品といえる。最後にそのことについて作品を見ながら確認した。

コレクション解析学第２回

日時：８月23日（日）

作品：コンスタンティン・ブランクーシ
（Constantin BRUNCUSI; 1876-1957）
《うぶごえ》1917（1984）年、ブロンズ、17.0×26.0×18.0cm

演題：「作品が生まれる場＝アトリエについて
－ブランクーシからキーファーまで－」

講師：竹葉　丈（学芸員）

内容：彫刻家コンスタンティン・ブランクーシ（1876-1957）は、そのアトリエに於いて、彫刻本体と台座、それらの形態と素材の組み合わせを比較・検討するための記録として写真撮影を行っていた。彼は、作品の配置換えを行い、カメラと三脚の場所を変え、さらには光や影に工夫を凝らし、撮影を行ったが、その表現は単なる記録を超え、彫刻と空間を意識した空間構成を見せるようになる。言わば、彼は自らのアトリエをインスタレーションの空間として意識していった。

次いで、所蔵作品《シベリアの王女》（1988年）のような巨大な作品（280.0×501.0×6.5cm）が生み出されるアンゼルム・キーファー（1945～　）のアトリエを紹介。彼が生活と制作を行ってきたアトリエは、打ち棄てられた産業遺跡や“廃墟”のなかにあり、その空間や建物の記憶が、彼の想像力を刺激し、増幅させていることを指摘。

空間を強く意識した彫刻家と画家のアトリエ内部の状況を通して、美術作品が生まれる場所について考察した。

コレクション解析学第４回

日時：１月24日（日）午後２時～

作品：辰野登恵子《Work 86-P-12》1986年

演題：「絵画のかたちと抽象」

講師：笠木日南子（学芸員）

内容：抽象的なイメージの作品はどのように生まれるのかということに注目して、辰野登恵子の作品の変遷と、残されたインタビューなどの言葉から、辰野が現実にあるもののイメージからインスピレーションを得ていたことについて紹介し、また、辰野の作品の変遷から、当館で所蔵している《Work 86-P-12》に描かれているモチーフが、どのように現れ、変遷していったのかということを分析した。

没後、アトリエに残されていた、初期の罫線やます目のようなラインやグリッドを規則的に配置している作品は、当時はミニマル・アートの文脈で高く評価されたが、よく見ると、ところどころ手書きのフリーハンドで描かれている部分が強調されており、工業的な均一性の中にイメージを持たせようとしていたようにも思われる。1980年代に入ると、辰野の作品に花模様やひし形といった装飾的なモチーフが表れるが、それも現実に存在するものの形からインスピレーションを受け、そのかたちに色をつけ絵画空間に展開しており、それゆえに辰野の絵画のモチーフには実態的な物量感が生み出された。しかしながら、形態は次第にインスピレーションのもとになった実際のものからすっかり離れて絵画における自立したモチーフとなっていく。辰野の画業は、四角いキャンバスという空間に抽象的なかたち、絵の具の色、筆遣いといった、絵画を構成する基本的な要素によって、純粋に絵画でしか成り立たない絵画空間を追求するという一貫した制作姿勢に支えられていたことを紹介した。

コレクション解析学第５回

日時：３月27日（日）午後２時～

作品：ハイム・スーチン《農家の娘》1919年頃

演題：画家にとってモデルとは

講師：清家三智（学芸員）

内容：ハイム・スーチン（1893-1943）は、エコール・ド・パリの作家のなかでも特に激しくうねるようなタッチが特徴で、対象や空間を大胆に歪めて描く表現主義的な画風で知られている。ユダヤ人という出自によって受けた差別や貧しさ、孤独に対する反発心や叫びと彼の画風を結びつけて考える研究者もいるが、《農家の娘》では、筆致の速さはやや目立つもののデフォルメ（変形）の度合いは少なく、モデルの女性の落ち着いた佇まいや素直さが印象に残る作風となっている。画家がモデルといかに対峙し、作品を創造していったかを限られた資料とカタログレゾネを通じて探った。

⑶パフォーマンス・ワークショップ

年月日	時刻	内容	講　師　等	場　所	参加者
28年１月８日（金）	16時30分～	ペインティングパフォーマンス「境界を越える」	中谷ゆうこ（出品作家）日栄一雅	地階ロビー	50
28年１月10日（日）	10時～	作家によるギャラリートーク	出品作家7名	展示会場	150
28年１月24日（日）	10時～	ワークショップ「お米で首飾りを作ろう!」	米山より子（出品作家）	地階ロビー	25
28年１月24日（日）	14時～	ワークショップ「紙でヘッドオブジェを作ろう!」	米山より子（出品作家）	地階ロビー	7
28年１月30日（土）	14時～	ワークショップ「鳥になったつもりで巣を作ろう!」	稲葉　佳子（出品作家）	地階ロビー	14
28年１月31日（日）	14時～	ワークショップ「絵具をつくって描く」	白河宗則（愛知県立芸術大学准教授）	地階ロビー	7
28年２月14日（日）	14時～	北川民次の絵画技法「科学の眼で見る絵画」	森田恒之（東京藝術大学客員教授）	講堂	19

⑷その他

視覚障がい者の方向け常設展鑑賞会

日　　時　2016年２月18日（木）午前10時30分～正午
場　　所　常設展示室１・２、地下１階ロビー
参加者数　６名（および付添７名）
スタッフ　ボランティア９名
企画・運営　保崎裕徳（当館学芸員）
内　　容　視覚障がい者の方のみを対象として、常設展のギャラリートークを事前申込制で実施した。参加者１名につき当館ボランティア１名ないし２名が１組となり、説明をしながら４～５点の作品をじっくり鑑賞した。幾つかの作品のガイドにあたっては、事前に作成した立体コピーや、作品の模型を使いながら鑑賞した。

２．子ども対象の事業

⑴学校休業日の体験活動の推進

平成15年度から、長期休業期間を除く学校休業日（土日祝）を対象に、美術や美術館に親しむプログラムを継続して実施している。これは名古屋市教育委員会が平成22年度まで推進してきた「なごやっ子教育推進計画」の後継として策定した「名古屋市教育振興基本計画」の一環で行うものである。平成27年度は近年の実績や参加者の傾向、保護者からの意見や運営を支援するボランティアの状況の変化を鑑みて内容の改訂を行うとともに、催事全体の名称を“びじゅつ びっくり たまてばこ”と改め、年間５回のプログラムを開催した。

①事前申し込みが必要なプログラム

1）　イチおし！

日　　時　５月23日（土）午前10時～正午
対　　象　小学生
参加者数　24名
スタッフ　（学芸員）清家三智
　　ボランティア10名

内　　容　常設展示室に恒久設置しているフランク・ステラの作品《説教》を参加者全員でよく観察し、①一つ一つのパーツ（部品）がどんな形をしているか、②作者は何をヒントにあの不思議な形を生み出しているか、③パーツの装飾に用いられている色の組み合わせや模様にはどんな工夫があるか、などをについて話し合った。

その後、用意された雲形定規やコンパス、画材類を用いて、各自でステラ作品をヒントに不思議な形を画用紙に描き出し、お気に入りの形や模様を制作し、互いの作品の良さについて意見交換した。

2）　おさんぽマスター

日　　時　11月29日(日)午前10時～正午
対　　象　小中学生とその保護者
参加者数　９家族22名
スタッフ　(学芸員)清家三智
　　ボランティア９名
内　　容　鑑賞する対象を展示室内の美術作品に限ることなく日頃から身近にあるものに広げ、普段気づかずに過ごしているもの、聞き逃しているもの、目を向けていないものに意識を向けること、視点を変えることで新たに発見したり、不思議に思ったり、「なぜ～なんだろう？」と疑問を持ったりしながら自発的に五感を働かせることをねらいとしたプログラム。

　参加家族に白川公園の地図を渡し、散策（おさんぽ）しながら少しでも気になったものには足を止めて観察したり耳を澄ませたりする時間をとってもらい、どんな色や形をしていてどのぐらいの大きさだったか、どこからどんな音が聞こえたか、それを見て／聞いてどんな感想をもったり想像を膨らませたりしたか各自、付箋にメモしてもらった。最後に公園のどの辺りで見つけたか地図に貼付して、参加者全員で互いの体験を共有した。

3）　びじゅつかん検定

日　　時　2016年１月31日(日)午前10時～正午
対　　象　小学生
参加者数　15名
スタッフ　(学芸員)清家三智
　　ボランティア６名
内　　容　展覧会や美術作品を見た経験はあっても、美術館が何のための施設かを知る機会が少ないことに着目し、クイズ形式で参加者に疑問を投げかけ、意見を出し合って考えながら美術館の役割を正しく理解してもらうことをねらいとした。

クイズの内容は宝物（＝美術作品）を守る工夫に関する問題と、美術館を楽しむ問題の２つを用意し、美術館の役割に関することと来館者として楽しむこと両方を知ることが出来るよう工夫した。

②当日受付のプログラム

1）　イチおし！大人もいっしょ

日　　時　９月19日(土)／20日(日)
　　いずれも午前10時～正午
対　　象　小学生以上一般まで
参加者数　１日目…16名／２日目…28名
スタッフ　(学芸員)清家三智
　　ボランティア11名(２日間のべ)
内　　容　普段、小学生だけが参加できるプログラムを一般成人も楽しめるよう対象を広げて企画したもの。

　常設展で紹介している根岸芳郎《91-3-8》（寄託作品）の作品を参加者全員で鑑賞し、特徴であるにじみの表現について、どんな方法で制作しているのか、色の重なりや混じり合いによって生まれる色の深みや印象について話し合った。

　その後、準備した小さい綿キャンヴァスとアクリル絵の具、霧吹きなどを用いてオリジナル作品の制作体験を行い、絵具を塗った直後と乾いた後の色の違いや、色の重なりやにじみ、屋内と屋外での見え方の違いなどを確かめた。

2） まるごと玉手箱

日　　時　2016年３月19日（土）／20日（日）
いずれも午前10時～正午

対　　象　小学生以上一般まで

参加者数　１日目…７名／２日目…10名

スタッフ　（学芸員）清家三智
ボランティア14名（２日間のべ）

内　　容　白川公園に点在している多数の彫刻作品を紹介する機会が少ないことに着目し、公園を1つの大きな玉手箱に見立て、存在に気づかずに通り過ぎている宝物（＝彫刻作品）を探すとともに、一つ一つをじっくり鑑賞してもらうことをねらいとした。また公園内の散策を通じて、白川公園の良さに気づいてもらうことにも配慮した。

参加者を複数のグループに分け、それぞれ異なるコースを巡ったこともあり、最後に各自が鑑賞した作品についての感想を共有する時間を設けた。まだ見ぬ作品があると知らせることで、参加者の興味・関心が持続するよう働きかけた。

③こどものためのワークシート

日　　時　開館中の土曜・日曜・祝日および学校長期休暇期間（128日間）

対　　象　小中学生

延べ実績　659枚

参加方法　当日常設展入口で随時受付

内　　容　名品コレクション展Ⅰ～Ⅲの各展示内容にあわせて展示作品をじっくり鑑賞するためのヒントやクイズを載せた「こどものためのワークシート」を配布し、取り組んでもらうことで作家や作品への理解を深めた。

⑵夏休みこどもの美術館

平成27年度は「ボクいろ、わたしイロ、どんな色？」と題し、基本的な造形要素の一つであり日頃から慣れ親しむ機会の多い“色”に対する関心を高めることをねらいとし、色は何から採れるのか、色の種類やちがいはどこから来るのか、常に疑問や関心を持ちながら作品制作を行う体験プログラムを企画した。また昨年度好評だったことから、引き続き小中学生以外に未就学児や一般成人も参加できるプログラムを企画・開催した。

【当日受付の講座】

A.「だれでもワークショップ」

日　　時　７月29日（水）、８月12日（水）、８月19日（水）の計３日間
いずれも午前10時30分～／午後１時30分～の１日２回
１回につき１時間程度

対　　象　どなたでも（※未就学児は必ず保護者同伴）

参 加 費　100円

定　　員　各回16名

参加者数　82名（３日間×２回のべ）

内　　容　絵画作品には画家が絵具を混ぜて作りだした複雑な色が使われているが、「何色と何色を混ぜたら、あの色になるだろう？」と考えながら鑑賞する機会はめったにない。本ワークショップでは当館が所蔵する絵画作品６点のぬりえを用意、参加者は展示室で実作品を丁寧に観察した後、12色のクーピーペンシルの組み合わせを考えながら塗り重ね、本物そっくりの色を工夫して作り出し、ぬりえを完成させることにチャレンジした。プログラム開催中、作品の色を確認するためであれば展示室へは何度でも入場可能とした。

参加者の中心は幼児～小学校低学年のこどもだったが、乳児から、夏休みの部活動で美術館を訪れた中学生、特別展を見に来た一般成人まで、幅広い層の来館者にワークショップを提供することができた。また

いつも以上に熱心に作品を観察したり、作品についてボランティアスタッフと話し合う参加者の姿が見られた。

【事前申し込みが必要な講座】

B.「caféの色を楽しもう」

日　　時　８月６日(木)午前10時～12時半
講　　師　扇　千花(美術家、名古屋芸術大学教授)
対　　象　小学１～３年生
参 加 費　800円
定　　員　15組
参加者数　15組40名(見学の保護者含む)
内　　容　身近な食べ物や飲み物の色に注目し、食べこぼしでシミを作った経験などを話しながら、どんな食材であればきれいな色に染められるか、染まったらどんな色になると思うか、参加者とともに想像しながらＴシャツ染めに取り組んだ。当日は館内のコーヒーショップに協力を得て、初めてワークショップ会場として使用した。染材にはカレー粉、コーラ、媒染材にはミョウバンを使用し安全性にも配慮した。

C.「色の重なりを楽しもう」

日　　時　８月６日(木)午後２時半～４時半
８月７日(金)午前10時～午後３時半
※２日間かけて制作
講　　師　扇　千花(美術家、名古屋芸術大学教授)
対　　象　小学４年生～中学３年生
参 加 費　400円
定　　員　15名
参加者数　16名
内　　容　常設展に展示中の作品から色の重なりやにじみによる色の微妙な変化などを看取し、手ぬぐい染めを体験する工程で色の変化を丁寧に観察することをねらいとした。

学校等で経験済みの画用紙に絵具で彩色するのとは違い、よく知らない染め物の知識や慣れない作業、道具の取り扱いに最初は戸惑っていたが、何度も作業を繰り返すうち、参加者は布の畳み方によって異なる模様ができること、染液に浸す時間が少し異なるだけで色の重なり具合やにじみの加減が変わること、染めた直後と水にさらした後の色の違いなどを発見するようになった。

D.「自分色のレシピを作ろう」

日　　時　８月９日(日)午前10時～午後４時
講　　師　今井俊介(美術家)
対　　象　小学４年生～中学３年生
参 加 費　700円
定　　員　20名
参加者数　16名
内　　容　色の対比や組合せ、そこから生まれる空間を重視して抽象絵画を制作している講師を招き、参加者全員と常設展の作品を鑑賞しながら普段どのくらい色を意識して見ているか、色見本帳などを使って確かめた。色の見え方の不思議や色の組合せ、混色の基本に関する情報を講師のレクチャーと丁寧なデモンストレーションで確認した後、参加者が３原色および白、黒の絵具を用いて自分のお気に入りの色を作るためのレシピを考案した。最後は各自がお気に入りの色を生かして絵を描き、作品を互いに見せ合った。

⑶芸術と科学の杜

「芸術と科学の杜」とは、名古屋市美術館と科学館が連携して、市民の豊かな感性と創造力を育む魅力ある事業を継続して実施するとともに、白川公園周辺の文化施設や地域とも協力して連携の輪を広げることで「芸術と科学を中心にさまざまな文化が融合し、新しい文化を生み出すまち」の形成を目指すものである。

この事業の目的を実現するため、地元商店街や周辺の施設、関係機関で構成する「芸術と科学の杜連携推進会議」を設立し、買いにおいでデーや広小路夏祭りなど地元イベントへの参加や、地域連携事業を企画実施している。

その事業の一つとして、白川公園一帯及びその周辺で､「サイエンス＆アートフェスティバル」を開催し、美術館では『アート大会』を実施した。

アート大会

日　　時　11月７日(土)・８日(日)午前10時～午後４時

場　　所　白川公園

参加者数　1,622人(事前申込不要、当日受付)

企画･制作･講師

富永敏博(作家)

アシスタント６名

スタッフ　笠木日南子

当館ボランティア10名

内　　容　①スタンプラリーで彫刻を探そう

スタンプラリー用紙にある地図をもとに、白川公園内にある彫刻を探してスタンプを集める。

②不思議なフィルターでナゾとき

不思議なフィルターをかざして、公園内及び美術館内に隠されたナゾを解き明かす。

③ワークショップ「カツラを作って、ツリーを作ろう」

様々な素材を使い、オリジナルのカツラを作り、そのカツラをかぶって、みんなでツリーの形になって、空中から記念撮影をする。

３．学校対象事業

⑴ボランティアによる学校団体向けガイドトークの実績

平成27年度学校団体受入

No.	日時	曜日	団体名	見学者数(生徒数)	引率者数	対応ボランティア数
1	5月8日	金	私立美濃加茂中学校2･3年生	94	7	6
2	5月20日	水	名古屋市立中央高等学校昼間定時制	7	2	1
3	5月22日	金	岐阜県立各務野高等学校1･2年生	79	6	8
4	6月10日	水	岐阜県立岐阜工業高等学校デザイン工学科	40	2	5
5	7月28日	火	北名古屋市立師勝中学校美術部1～3年生	30	2	4
6	9月15日	火	名古屋市立富士見台小学校5年生	188	6	10
7	10月7日	水	名古屋市立本地丘小学校6年生	42	3	5
8	10月14日	木	名古屋市立貴船小学校6年生	109	4	11
9	10月20日	火	名古屋市立栄小学校1～6年生	150	12	9
10	10月29日	木	海部郡蟹江町立須西小学校4年生	49	2	6
11	10月29日	木	犬山市立東小学校5年生	63	2	7
12	10月30日	金	名古屋市立大森小学校6年生	76	3	9
13	11月18日	水	名古屋市立猪高小学校6年生	86	4	10
14	11月25日	水	名古屋市立西城小学校6年生	50	2	6
15	11月26日	木	弥富市立弥生小学校4年生	106	3	6
16	12月2日	水	名古屋市立藤が丘小学校6年生	98	4	10
17	12月9日	水	名古屋市立瀬古小学校6年生	132	5	12
18	12月11日	金	名古屋市立下志段味小学校6年生	67	3	8
19	12月15日	火	名古屋市立廿軒家小学校6年生	116	5	12
20	12月18日	金	名古屋市立小幡北小学校6年生	57	3	7
21	1月21日	木	名古屋市立なごや小学校4年生	55	4	7
22	2月17日	水	名古屋市立太子小学校4年生	60	3	7
計				1,754	87	166

⑵アートカード貸出実績

アートカードは、名古屋市美術館の所蔵作品の中から60点を選び、はがき大の複製図版に仕立てた鑑賞学習用補助教材である。名古屋市立の小中学校に対しては各区に設けた保管校を通して、それ以外の学校・団体には美術館から直接貸出を行い、鑑賞学習の普及に努めている。

平成27年度　アートカード保管校一覧

区	学校名	担当の先生	ケース数	保管ケース番号
千種区	城山中	森田　進午	3	2、3、4
東　区	桜丘中	高橋　陽子	3	1、5、6
北　区	清水小	浅野　陽佑	4	7、8、9、10
西　区	稲生小	山﨑　美佳 ※1	4	11、12、13、61
中村区	笹島中	川松　仁子	3	14、15、16
中　区	新栄小	滝　純	3	17、18、19
昭和区	駒方中	松岡　健児	3	20、21、22
瑞穂区	萩山中	水谷　恵美	3	23、24、25
熱田区	日比野中	長崎由利子	3	26、27、28
中川区	はとり中	校條　敬子	4	29、30、
	昭和橋中	鬼頭　沙弓 ※2		31、33
港　区	港明中	木村　雄介	3	34、35、36
南　区	柴田小	辻本　哲也	4	38、39、40、41
守山区	瀬古小	原　敏史	4	42、43、44、45
緑　区	太子小	中野　幸代	5	46、47、48、49、50
名東区	上社中	小林　弘倫	4	51、52、53、54
天白区	表山小	宮地　千加	4	55、56、57、58

※1　9月末より天神山中･清水翔一先生に変更
※2　11月上旬より山王中･大鹿公仁子先生に変更

平成27年度　美術館からの直接貸出実績

No.	学校･団体名	期間	ケース数
1	名古屋市立中央高等学校	4月18日－4月29日	1
2	(市立)松原小トワイライトスクール	5月22日－6月2日	1
3	愛知工業大学情報電子専門学校	5月28日－6月17日	1
4	名古屋市博物館	12月16日－1月14日	1
5	常滑市立三和小学校	1月5日－1月13日	2

計5件、6セット貸出

平成27年度　アートカード保管校別貸出実績一覧

区	貸出先	ケース数	貸出期間
東	愛知教育大学付属名古屋小学校	2	9月15日－11月30日
北	味鋺小学校	2	2月10日－貸出中
中	前津中学校	1	4月17日－5月17日
瑞穂	田光中学校	2	4月－6月
中川	千音寺小学校	2	2月19日－貸出中
	西前田小学校	1	通年
港	港明中学校	1	通年
守山	西城小学校	1	通年
	瀬古小学校	3	通年
緑	鳴子小学校	2	6月12日－7月22日
	太子小学校	2	2月16日－2月18日
	太子小学校	3	3月8日－3月15日
天白	表山小学校	1	6月

計13件、23セット貸出

⑶出前アート体験

①北区・辻小学校

プログラム名　作品に託されたメッセージ
日　　時　6月17日(水)午前9時45分～10時30分
場　　所　視聴覚室
対象学年　5学年2クラス44名
講　　師　(学芸員)笠木日南子
授業内容　サルバドール・ダリのだまし絵①《イメージが消える》と②《海辺に出現した顔と果物鉢の幻影》を紹介。絵の中に隠れているダブル･イメージを見つけさせた。次に③ピカソの《ゲルニカ》を紹介、ピカソの表現の工夫について考えさせ、また④ゴヤの《1808年5月3日、プリンシペ・ピオ丘での銃殺》を紹介し、「戦争などの残虐な行為を告発し、二度と繰り返してはいけない」というメッセージをより強く表すために別の作品も引用していることも紹介。最後に⑤森村泰昌《兄弟(虐殺Ⅰ)》《兄弟(虐殺Ⅱ)》を見せ、こちらもゴヤの作品を引用し、作品に込められたメッセージを踏襲しているが、それだけではなく、さらに、「見かけで判断するべきではない」という作家のオリジナルなメッセージが加えられていることを紹介。作品を作るにあたり、本物そっくりに描くことが重要なのではなく、時には、他の作品を真似たり、写真を使ったりしても、感情やメッセージが伝わるように自分なりの表現の工夫をすることで、オリジナルな作品を生み出すことができることを伝えた。

②港区・野跡小学校

プログラム名　作品に託されたメッセージ
日　　時　6月24日(水)午前9時45分～10時30分
場　　所　プレイルーム
学　　年　5年生2クラス45名
講　　師　(学芸員)保崎裕徳
授業内容　校内作品展等で児童がお互いの作品を鑑賞する際の評価基準のひとつとして、「作者に制作を支える強い動機や主張があるかどうか、また作者がそれを上手く表現できているかどうか」がある。授業の前半では、ムンクの《叫び》を題材に、作者が表現したかった「叫び」とは何だったのかを、人物のポーズや色づかい、筆づかいに注意しつつ、作者のことばや絵のもとになった実際の風景写真も参考にしながら考えた。後半では、当館所蔵のシャガール《二重肖像》を題材に「どんなメッセージがこめられているか」について考えた。人物の目線や明暗の使い方などを観察し、「なぜそのように描いたのか」という作者の意図（理由）が画面の隅々にいきわたっていることを確認した。

③天白区・植田小学校

プログラム名　アートカードで学ぼう
日　　時　10月6日(火)午前9時45分～12時30分(2～4時間目)
＊当初9月9日（水）の予定だったが、台風による警報発令のため学校と相談し、上記日時に延期した。
場　　所　各クラス教室
対象学年　5年生3クラス94名　＊クラス毎に授業

講　　師　(学芸員)清家三智
スタッフ　(ボランティア)６名
授業内容　クラスを６つのグループに分け、机を固めて島を作る。それぞれの班にボランティア１名がつき、以下の活動において児童の学習をサポートした。

【導入】複製図版を用いたギャラリートーク

北川民次《作文を書く少女》の拡大図版を見ながら、模擬ギャラリートークを行う。何が描かれているか図版をくまなく観察し、見えたものを自分の言葉で表現すること、ひいては「よく見る」とはどういうことか、トーク体験を通じてこどもたちに丁寧な観察／鑑賞の基本を理解してもらうことをねらいとした。

【メインの活動】どんな空か、考えてみよう

アートカード60枚のうち、空が描かれているカード12枚を抽出する。児童は一枚一枚手に取りながら、また複数を比較しながら作品をよく観察した後、さまざまな空の様子について、使われている色や明るさ、周囲の様子などから絵の中の天候や時間帯、季節などを推測して話し合い、模造紙に引いた座標軸（水平は朝から夜までの時間軸／垂直は快晴から雨までの天気軸とした）の当てはまる場所に置き、なぜその場所に当てはまると思ったか互いの考えを述べ合った。

ただ「空が描いてある」ではなく、いつ頃の、どんな天気の空か、見えているものを自分の経験と照らし合わせながら丁寧に絵画を読み解く体験をしてもらった。

④北区・名北小学校

ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ名　アートカードで学ぼう
日　　時　2015年10月７日（水）午前９時40分～12時20分(２～４時間目)
場　　所　各クラス教室
対象学年　４年生３クラス83名　＊クラス毎に授業
講　　師　(学芸員)清家三智
スタッフ　(ボランティア)５名
授業内容　クラスを５つのグループに分け、机を固めて島を作る。それぞれの班にボランティア１名がつき、以下の活動において児童の学習をサポートした。

【導入】見比べクイズ

アートカード60枚のうち、２つの作品の拡大図版を黒板に掲示してクラス全員で見比べ、共通するところ、違うところを探す。よく観察すること、作品を見ながら考えること、自分の言葉で意見を述べること､に慣れるための活動として行った。

【メインの活動】勝手に審査員

①アートカード60枚を場に広げてよく観察し、各自が1枚ずつ気に入った／気になった作品を選ぶ。

②（アイスブレイクで行った意見交換を思い出しながら）さらに丁寧に観察し、選んだ理由や真似してみたいところ、直したらもっと良くなると思うところなど自分なりに考え、グループ内で発表する。作品は重複しても構わないこととした。

⑤緑区・鳴子小学校

ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ名　名画の秘密をさぐる
日　　時　10月16日(金)午前９時40分～10時25分
場　　所　多目的スペース
学　　年　６年生２クラス42人
講　　師　(学芸員)中村暁子
授業内容　メキシコの女性画家フリーダ・カーロの《死の仮面を被った少女》を採り上げた。まず、世界地図を投影し、メキシコがどこにあるかを確認。その後、メキシコという国について話をした。次に､《死の仮面を被った少女》を見せ、何が描かれているかをじっくり観察し、この少女はなぜここに一人でいるのか、どんな気持ちかなどを考えてもらった。続いて、フリーダ・カーロの写真を見せて、彼女の人生となぜこの絵を描いたのかについて話をし、メキシコのお祭りである「死者の日」の話も交えながら、メキシコの死生観にも触れた。最後に再び《死の仮面を被った少女》を見てもらい、この絵を見てどう思ったかを何人かに発表してもらった。子供の意見を引き出しながら、名画というものに触れ、それがどのような背景のもとに描かれたかを知り、絵画に親しみつつ自分なりに考える授業とした。

⑥南区　笠寺小学校

ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ名　名画の秘密をさぐる
日　　時　11月４日(水)午前９時45分～10時30分
場　　所　多目的スペース

学　　年　６年生２クラス73名
講　　師　山田諭(学芸課長)
授業内容　モディリアーニの《おさげ髪の少女》の作品図版を提示して、児童に何が描いてあるか画面全体から細部に到るまで観察して、発表させた後、同じモデルを描いた作品などの図版と比較して観察させることで、それぞれの作品の特徴（共通点と相違点など）について考えさせた。また、ギリシャ建築の彫像(カリアティード)の写真図版を見せて、モディリアーニの表現技法の源泉についても解説した。

⑦千種区・千代田橋小学校
プログラム名　アートカードで学ぼう
日　　時　11月20日(金)午後１時40分～２時25分
場　　所　特活室
学　　年　６年生２クラス52名
講　　師　(学芸員)保崎裕徳
スタッフ　(ボランティア)８名
授業内容　児童を８グループ（６～７人）に分け、それぞれのグループにスタッフ1名がつき、「アートカード」を使用して以下の活動を行った。
1)さがしてあてよう
作品の一部分を切り取り拡大した映像がスクリーンに投影される。どの作品の一部か、手元にひろげた「アートカード」の図柄の中から探して当てる。
2)３つのヒントゲーム、３つのヒントづくり
リーダーが読み札「３つのヒント」を順番に読む。そのヒントにふさわしい作品がどれか探して当てる。次に、場に残ったカードの中から好きなカードを一枚選び、そのカードにふさわしい「３つのヒント」を各自で作る。

⑧緑区・片平小学校
プログラム名　名画の秘密をさぐる
日　　時　１月12日(火)10時45分～11時30分
場　　所　教室をくっつけた場所
対象学年　６年生３クラス162名
講　　師　深谷克典副館長
授業内容　この授業では、ピカソ、レオナルド･ダ･ヴィンチ、モディリアーニの三人の画家の作品を紹介しながら、それぞれの画家がどのような狙いで作品を描いているのかを説明した。時代も表現方法もそれぞれ異なる三人の作品だが、魅力はどこにあり、なぜそのような描き方をしたのか子供たちに考えさせた。また最後にモディリアーニの真作と贋作の図版を紹介し、どちらが真作であるかを考えさせた上で、どのようにすれば真作と贋作の区別がつくのか、その方法について具体例を挙げて説明した。

(4)就業･職業･職場体験及び職場訪問受け入れ

１．対象　中学校･高等学校　生徒
２．内容　【体　験】総務課、学芸課の業務内容を知るとともに、清掃、警備、案内監視、施設管理等の業務内容を知り体験する。
【訪　問】館内施設の見学をするとともに、疑問点についてインタビューを行い、美術館に関する理解を深める。
３．実績

実施日	内容	学校名	学年	人数
27年７月28・29日	体験	名古屋市立名古屋商業高校	２年	４人
27年７月31日	体験	名古屋市立西陵高等学校	２年	１人
27年８月４・５日	体験	豊田市立崇化館中学校	２年	１人
27年８月21日	体験	私立名古屋中学校	２年	２人
27年10月23日	体験	岩倉市立岩倉中学校	２年	３人
27年11月11・13日	体験	みよし市立北中学校	２年	２人
28年１月19・20日	体験	名古屋市立植田中学校	２年	５人
28年１月22日	体験	名古屋市立汐路中学校	２年	４人
28年１月29日	体験	名古屋市立藤森中学校	２年	３人
28年２月２・３日	体験	名古屋市立大森中学校	２年	４人
27年５月20日	訪問	岐阜市立岐阜中央中学校	２年	５人
27年５月26日	訪問	桑名市立光風中学校	２年	６人
27年６月２日	訪問	刈谷市立刈谷南中学校	２年	６人
27年６月９日	訪問	桑名市立陽和中学校	２年	５人
27年12月18日	訪問	名古屋市立北陵中学校	１年	６人
28年１月29日	訪問	名古屋市立はとり中学校	２年	７人

(5)教員対象の講座

①名古屋市教育センター研修「名古屋市美術館における鑑賞教育講座」

名古屋市教育センターからの依頼により、名古屋市立の小・中・高・養護学校を対象とする研修講座を開催した。美術館の基本的な活動と、児童・生徒を対象にした美術鑑賞の実践例を紹介した。当館が提供している常設展のギャラリートークの体験や鑑賞学習が児

童・生徒にどのような学習効果をもたらすか講義と映像資料で解説する時間を設け、美術館の活用法を具体的に知ってもらう機会とした。

また、昨年度に引き続き教育センターからの強い要望を受け、同内容の講座を2回に分けて開催し、受講できる人数を増やすほか受講者が希望日を選択できるよう協力した。

日　　時　①７月27日(月)午後１時～４時
②８月３日(月)午後１時～４時
場　　所　名古屋市美術館　講堂および常設展示室
参加者数　126名(２日間延べ)
講　　師　(副館長) 深谷克典、(学芸課長) 山田諭、(学芸員)中村暁子、清家三智
スタッフ　ボランティア12名(２日間延べ)

⑹その他

トワイライトスクールでの「出前アート体験 アートカードで遊ぼう」

通常は授業で行う「出前アート体験」を簡易化して、トワイライトスクールの特別講座のひとつとして実施し、児童に当館を認知してもらい、美術への関心をもってもらおうという趣旨の企画。今年度は臨時休館で団体鑑賞の受け入れやボランティアのガイド活動がない期間(６月22日(月)～７月17日(金))を中心に６校で実施した。

①葵小学校トワイライトスクール

日　　時　６月８日(月)午後３時～４時
参加者数　１～５年生40名
スタッフ　当館ボランティア６名
企画･運営　清家三智(当館学芸員)
内　　容　1)アートかるた
アートカード60枚を図柄が見えるようにして場に広げる。スタッフが読み上げる文章（作品の特徴）をヒントに、児童は当てはまる図柄（アートカード）を探して取る。中には紛らわしいカードがあるが、お手付きの場合は後から「どこで間違えたのか」を正解と見比べて確認する。より多くカードを取った児童の勝ち。
2)仲間を集めよう！
カードは図柄が見えるよう場に広げる。学芸員から出されるテーマに該当するものを、内容をよく観察して選び出す。カードの取り合いにならぬよう、順番を決め、１人ずつ発表する。判断に迷ったときは、グループ内で話し合って決める。テーマの例としては、「作品に登場する人物の数」「人物の持ち物(帽子、花など)や服装」「風景の種類」など。

②豊臣小学校トワイライトスクール

日　　時　６月９日(火)午後３時30分～４時30分
参加者数　１、２年生35名
スタッフ　当館ボランティア５名
企画･運営　保崎裕徳(当館学芸員)
内　　容　児童は７人ずつの５グループに分かれ、各グループにボランティアが進行役として1名つき、次のプログラムを実施した。

1)アートかるた
アートカードを表（絵柄を上）にして場に広げる。ボランティアが読み札をよみ、内容に合った絵柄のカードを取る。時間内に多くのカードを取った児童の勝ち。
2)マッチング･ゲーム(神経衰弱版)
アートカードを裏にして場に広げる。児童は順番に２枚のカードをめくり、絵柄の中にある共通点を１分以内に発見できたら２枚のカードを獲得できる。ふさわしい共通点が見つからなければ、共通点を見つけた別の児童に答える権利が与えられ、成功すればその児童が２枚のカードを獲得できる。誰も共通点が見つけられなかった場合は、カードを裏にして次の児童の番になる。一度発言された共通点はその後使えない。時間内に多くのカードを取った児童の勝ち。

③陽明小トワイライトスクール

日　　時　6月18日(木)午後3時～4時
参加者数　1、2年生30名
スタッフ　当館ボランティア5名
企画･運営　清家三智(当館学芸員)
内　　容　1)アートかるた
2)マッチングゲーム(神経衰弱式)
＊②豊臣小学校での実施内容と同様。

④白鳥小学校トワイライトスクール

日　　時　6月29日(月)午後3時～4時
参加者数　1～4年生26名
スタッフ　当館ボランティア4名
企画･運営　保崎裕徳(当館学芸員)
内　　容　児童は6～7人ずつの4グループに分かれ、各グループにボランティアが進行役として1名つき、次のプログラムを実施した。
1)アートかるた
2)マッチング･ゲーム(神経衰弱版)
＊②豊臣小学校での実施内容と同様。

⑤御器所小学校トワイライトスクール

日　　時　7月1日(水)午後3時～4時
参加者数　1～3年生43名
スタッフ　当館ボランティア5名
企画･運営　保崎裕徳(当館学芸員)
内　　容　児童は7～8人ずつの6グループに分かれ、各グループにボランティアまたは学芸員が進行役として1名つき、次のプログラムを実施した。
1)アートかるた
2)マッチング･ゲーム(神経衰弱版)
＊②豊臣小学校での実施内容と同様。

⑥松原小トワイライトスクール

日　　時　7月3日(金)午後3時～3時30分
参加者数　1、2年生40名
スタッフ　当館ボランティア4名
企画･運営　清家三智(当館学芸員)
内　　容　1)わたしは誰でしょう？
アートカードをすべて図柄が見えるよう場に広げる。学芸員が読み上げる3つのヒント（=作品の特徴）をもとに、児童は当てはまるカードを探して取る。ヒントが一人称で語られるという違いはあるが、基本的にはアートかるたとよく似た活動。
2)仲間を集めよう！
＊①葵小学校での実施内容と同様。

2 ボランティア

今年度は９期のボランティアを募集し、55名の応募の中から選考や養成講座を経て22名が新たに美術館ボランティアとして登録することとなった。

主な活動は、常設展示室でのギャラリートークや、学校休業日の教育プログラムにおける美術鑑賞体験の支援など通常の出前授業の他に、トワイライトスクールでアートカードを使った鑑賞学習体験を実施した。

また、名古屋まつり開催日の日曜日には、常設展を無料で開放するほか、ボランティア有志による企画として「ボランティアまつり」を開催した。彫刻や建物ガイド、アートカードを使ったゲームなどを実施し、ご来館いただいたお客様に美術鑑賞を楽しんでいただくとともに、ボランティア活動についても周知することができた。

多くのメンバーで安定した活動運営ができる一方で、一人当たりの活動の機会を確保することや、ガイドの質やレベルを平準化することが今後の課題となるが、美術館としては、ボランティアが安心して活動に積極的に取り組めるよう支援していくことが責務である。

⑴ボランティア登録者（2015年4月~2016年3月）

第４期：赤尾和江、天野恵子、荒川千華、加藤真由美、久保田典子、栗木恵子、坂田典子、杉浦直子、田内徳隆、土田晶子、寺西春美、中野芳枝、安井まり子、山田由紀子 ほか、計15名

第５期：赤尾和子、佐藤紀子、鈴木律子、瀧川友子、永田高志、野口健弘、原田直美、引地順子、平山千枝、藤井万巳、村松敦子、森和美、山田優子 ほか、計18名

第６期：伊藤えつ子、荻野知恵子、梶田清美、加藤枝里香、坂井千恵、中村俊雄、林梨加 ほか、計11名

第７期：池本せい子、井田紀子、井上静夫、今井康夫、遠藤明子、太田美奈、小澤智子、加藤たみ枝、加藤久子、末原みとせ、宗宮有紀子、蔦森敦子、中尾隆博、長尾理香、中川和彦、平尾真実、本多悠子、三浦有美、三島悠、安原栄里、横井文代、吉川優実 ほか、計24名

第８期：浅野雅樹、石島千愛、伊藤久美子、伊藤蘭子、今井佐知子、内海典子、沖田裕美、鏡味雅恵、川合幸代、神田初美、児玉史、榊原美和子、柴田順三、杉原和夫、杉山要、谷村満智子、都築祥子、道家千津子、中山越子、廣瀬千明、福田慶惠、三浦徹也、渡辺裕子 ほか、計27名

⑵定例会

定例会は原則として毎月第２土曜日の午前中に開催した。ボランティア間の連絡・調整の他に以下のような研修を行った。

日　時	時　間	内　容	講　師
４月11日	午前10時～12時	係活動の話し合い	ボランティア
５月９日	午前10時～12時	郷土の日本画について	保崎学芸員
６月13日	午前10時～12時	ナム・ジュン・パイクについて	竹葉学芸員
７月11日	午前10時～12時	ボランティア交流会	ボランティア
８月８日	午前10時～12時	河原温について	山田学芸課長
９月12日	午後10時～12時	名品コレクション展Ⅱについて	角田学芸員/保崎学芸員
10月10日	午前10時～12時	藤田と荻須:巴里の日本人画家たち	深谷副館長
11月14日	午前10時～12時	キーファー作品の修復について	大原秀之氏
12月12日	午前10時～12時	名品コレクション展Ⅲ（前期）について	笠木学芸員/清家学芸員
１月９日	午前10時～12時	スローンとマーシュ:エコール・ド・パリ同時代のアメリカ美術	深谷副館長
２月13日	午前10時～12時	9期養成講座について	清家学芸員
３月12日	午前10時～12時	来年度の名品コレクション展Iについて	角田学芸員/保崎学芸員

⑶ガイド活動

①常設展ギャラリートーク

休館日を除く毎日（午前11時～・午後２時～）、一般を対象とした約１時間のガイドツアーを各日ボランティア２名が担当した。

活動日数　248日間
参 加 数　延べ1,508名

②特別展ギャラリートーク

特別展ギャラリートークは、ボランティアに参加の希望を募り、展覧会ごとに担当を分けて行う。ギャラリートークの開催日、開始時間、方法などは、担当ごとに選出するまとめ役を中心にした話し合いによって決定する。登録後２年を経過したボランティアのメンバーが活動している。一般を対象とした約１時間のガイドツアーであり、ボランティア２名が組となり、会場入口で参加者を募りグループを編成して１日につき２回実施する。

a）画家たちと戦争：彼らはいかにして生きぬいたのか

開 催 日　８月６日、９日、11日、12日、13日、18日、19日、20日、22日、25日、26日、９月３日、５日、８日、10日、13日、15日、19日、20日（計19日）
時　　間　10時30分～／13時30分～
担　　当　４期：４名、５期：２名、７期：４名　計10名
参 加 数　延べ460人

b）リバプール国立美術館所蔵　英国の夢　ラファエル前派展

開 催 日　10月11日、15日、21日、25日、28日、29日、30日、11月３日、６日、11日、12日、13日、18日、20日、21日、26日、27日、12月１日、２日、５日（計20日）
時　　間　10時30分～／13時30分～
担　　当　４期：４名、５期：５名、６期：２名　計11名
参 加 数　延べ770人

c）ポジション2016　アートとクラフトの蜜月

開 催 日　１月19日、21日、23日、24日、28日、30日、31日、２月３日、６日、７日、10日、12日、13日（計13日）
時　　間　10時30分～／13時30分～
担　　当　４期：１名、５期：３名、６期：１名、７期：３名　計８名
参 加 数　延べ201人

d）東京藝術大学コレクション　麗しきおもかげ　日本近代美術の女性像

開 催 日　３月19日、21日、23日、24日、26日、27日、30日、31日（計８日）
時　　間　10時30分～／13時30分～
担　　当　５期：３名、６期：２名、７期：２名　計７名
参 加 数　延べ253人

⑷サポート活動 係の活動

・研修係

館内研修として６月20日に「藤田嗣治展の準備及びランス美術館との提携について」（講師：深谷副館長）、10月24日に「シャガールについて～所蔵作品を中心に～」（講師：深谷副館長）を企画・実施した。

またボランティア定例会での特別レクチャーとして11月14日に修復家の大原秀之氏（吉備国際大学教授）を講師に招き、講演会「キーファー作品の修復について」を企画・実施した。

館外の研修としては、９月14日と10月17日に名古屋学芸大学にて横山達也氏を講師に「写真の技法について学ぶ」というワークショップを企画・開催した。

・資料係

常設展の展示が絵ごとにギャラリー・トークの参考となる資料を選別して、ボランティアに配布したり、特別展等で使用した図書資料やコレクション解析学等の展覧会の記録を収集し、後に参照しやすいよう整理して保存するなど、資料の管理全般に携わった。

・体験活動係

年５回開催される体験活動推進事業各プログラムの実施に際し、スタッフの募集や実施までの連絡調整、教材の下準備、当日の運営サポート、実施後のボランティア定例会での活動報告を主に担当した。当日の円滑な事業運営や鑑賞対象となる作品への理解を深めるため、事前打ち合わせやギャラリートークの自主練習を行うとともに、実施後の記録や意見交換を通じてプログラムの改訂にも取り組んだ。

特に平成27年度は「びじゅつ びっくり たまてばこ」としてリニューアルし内容の改訂を図ったことから、新プログラム運営の打合せを例年よりも頻繁に行った。（取りまとめ担当：清家学芸員）

・団体対応係

学校団体等による常設展の鑑賞を円滑に進めるため、参加するボランティアの調整などの取りまとめを

行った。また、自主勉強会を２回にわたって開催し、各ボランティアの体験談を交えながらの話し合いを行って、現在の団体対応活動の問題点と今後の活動について考えた。

⑸その他

ボランティアによる名古屋まつり特別企画 わくわくArtの日

日　　時　10月18日（日）午前10時～午後３時30分
場　　所　常設展示室１・２、屋外美術館敷地内など
スタッフ　ボランティア数十名
補　　佐　保崎裕徳（当館学芸員）
内　　容　常設展が無料開放となる同日にあわせて、特別なイベントで来館者に美術と親しんでいただくと同時に、ボランティアによるギャラリートークをより多くの人に知っていただこうという趣旨の企画。今年は以下の３種類のイベントを実施した。各イベントとも前日までの申込は不要の自由参加の形をとった。

①**常設展ギャラリートーク**…ボランティアのリードにより、来館者が１つの作品をじっくり鑑賞するギャラリートーク。１人のボランティアが１部屋につき約15分のトークを担当し、次の部屋を別のボランティアが引き継ぐ形で、一時間内に４つのテーマ（エコール･ド･パリ、メキシコ･ルネサンス、現代の美術、郷土の美術）でトークを行った。11：00～、14：00～の２回開催。

②**たてものスタンプラリー**…地図とイラストをもとに、黒川紀章設計の建築の特徴ある箇所を探しながらスタンプを集めていく企画。美術館の内外、計８箇所にボランティアが待機して、参加者にスタンプを提供すると同時に、建築ディテールに関する解説を行った。午前は10：00～12:00、午後は13:00～15:00に実施。

③**アートカードで遊ぼう**…所蔵作品が印刷されたカードをつかったゲームを体験し、参加者が常設展の作品に親しむとともに、作品をきっかけとしたコミュニケーションを家族あるいはボランティアと楽しむ企画。来館者の希望に応じて随時、約20分のゲームを地下一階キッズコーナーで実施し、その後展示室内まで案内して、ゲームを通じて知った作品の実物を鑑賞するギャラリートークをボランティアが行った。10:00～15:30に実施。

３　学生向け優待事業

⑴美術館学生メンバーズ

①趣旨

美術館と大学等との教育連携により、学生と美術との出会いを容易にし、学生生活をより豊かにする機会を提供します。

②対象

大学（短大、大学院）、専修学校、各種学校等の学校の生徒。オプションとして教職員の付加も可能です。

③事業概要

「ゆめ・プレミアムアートコレクション寄附金」に一定額以上の寄附を行った学校法人や団体に対して、その特典として、在籍する学生等がその年度の特別展や常設展を学生証等の呈示だけで無料で観覧できるようにするものです。

⑵中京大学との相互連携

平成28年１月26日、中京大学と美術館、博物館及び科学館との間で「中京大学と博物館・美術館・科学館との相互連携事業に関する覚書」を締結しました。

4 協力会

名古屋市美術館協力会は、美術館の活動等に協力するとともに、市民の美術に関する知識と教養の向上を図るために必要な事業を行い、芸術文化の振興発展に寄与することを目的に活動を行っています。

＜会員数＞

特別会員	5名
一般会員	92名
ユース会員	8名
家族会員	42名
（計）	147名

＜新規・継続別＞（平成28年3月31日現在）

	新規	継続	計
特別会員	0名	5名	5名
一般会員	10名	82名	92名
ユース会員	5名	3名	8名
家族会員	6名	36名	42名
（計）	21名	126名	147名

平成27年度美術館協力会事業報告

1 展覧会ギャラリー・トークの開催
「若林奮 飛葉と振動」
平成27年4月25日（土） 42名参加
「画家たちと戦争：彼らはいかにして生きぬいたのか」
平成27年7月20日（月） 44名参加
「英国の夢 ラファエル前派展」
平成27年10月10日（土） 46名参加
「ポジション2016 アートとクラフトの蜜月」
平成28年1月23日（土） 30名参加
「華麗なる変身：日本近代美術の女性像」
平成28年3月13日（日） 44名参加

2 美術館見学ツアーの実施
春 平成27年4月19日（日） 42名参加
MIHOミュージアム、滋賀県立陶芸の森、櫟野寺
秋 平成27年10月31日（土）～11月1日（日） 30名参加
和歌山県立近代美術館、和歌山県立博物館
堺市文化会館、堺市博物館、仁徳天皇陵、利休屋敷跡

3 作家を囲む会
「ポジション展」作家を囲む会
平成28年1月10日（日） 35名参加

4 美術館鑑賞ミニツアー
「タグチヒロシ・アートコレクション展」岐阜県美術館
平成27年4月12日（日） 25名参加
「生誕150年記念ー竹内栖鳳展」碧南市藤井達吉美術館
平成27年5月24日（日） 22名参加
「片岡球子展」愛知県美術館
平成27年6月28日（日） 35名参加
「ダブル・インパクト展」ボストン美術館
平成27年7月12日（日） 35名参加
「小さな藤田嗣治展」岐阜県美術館
平成27年9月27日（日） 11名参加
「ソフィ・カル展」豊田市美術館
平成27年11月15日（日） 23名参加
「ヴェネツィア展」ボストン美術館
平成28年1月16日（土） 17名参加
「ピカソ展」愛知県美術館
平成28年2月21日（日） 21名参加
「舟越桂／フリオ・ゴンザレス展」三重県美術館
平成28年3月20日（日） 18名参加

5 ブログの運用
平成27年度ブログ閲覧状況
〔投稿47件、閲覧数12,923回、ユーザー数（延） 5,362名〕

6 オリジナル・カレンダーの作成及び配付
「設楽知昭」氏の墨、インク、テンペラ画 250部

7 催しものの案内
特別展、常設展、講演会など情報提供、年間展覧会案内、アートペーパーの配付

8 作品の寄贈
オリジナル・カレンダー1件1点
平成28年1月25日の資料収集審査委員会で決定

9 総会の開催
平成27年6月21日（日） 16名参加（委任状68名）

5 図書室

図書室の資料の充実を図るとともに、そのときどきの特別展に即した参考資料を揃えるなどして、利用者の多様なニーズに応えるよう努力しています。

図書資料分類別冊数一覧 （平成28年3月31日現在）

分類	和書	洋書
辞書、辞典、年鑑、図書目録	574（1）	223（0）
画集、美術全集、所蔵品目録	7,415（84）	3,518（28）
展覧会図録	12,700（273）	1,498（9）
研究書、技法書	353（12）	14（1）
年報、紀要、報告書	7,075（360）	23（0）
美術雑誌	12,788（155）	2,553（13）
その他（美術教科書、一般図書）	2,554（1）	1,094（0）
小計	43,459（886）	8,923（51）
総計	52,382（937）冊	

（ ）は今年度の受け入れ図書冊数

入室者数 5,739名

4月	125名	10月	733名
5月	438名	11月	726名
6月	117名	12月	542名
7月	311名	1月	393名
8月	872名	2月	358名
9月	477名	3月	647名

出版・制作物一覧

美術館ニュース「アートペーパー」No.99、100、101

美術館の活動状況や美術・文化についての様々な情報を広報するものです。

Ａ２版、部数：各5,000部

特集記事

99号：ブランクーシの横断的鑑賞
　　―東海圏美術館のコレクションより

100号：祝！「アートペーパー」創刊100号

101号：鬼頭鍋三郎《手をかざす女》
　　―ひとつの良妻賢母像―

年報

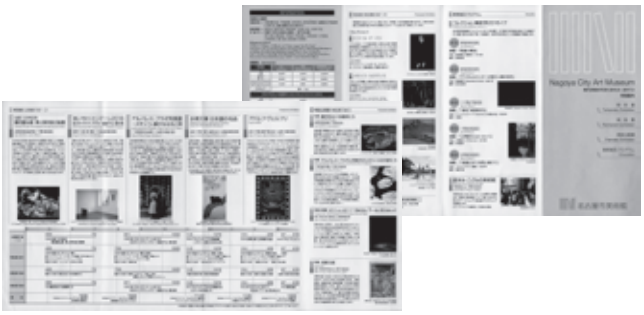
平成26年度の美術館活動全般の詳細な記録です。

Ａ４版、71頁、PDFデータとして当館ウェブサイトに掲載

年間案内

平成28年度一年間の展覧会の情報を告知するものです。

Ａ４版変形、部数：20,000部



所蔵作品解説シートの増し刷り

常設展で無料配布している所蔵作品についての解説シートです。

Ｂ６版、モノクロ、一部改訂、増刷７種、部数：24,000部

ボランティア募集要項

名古屋市美術館のボランティア（９期）を募集するための募集要項です。

Ａ４版、モノクロ、部数：7,000部

平成27年度は、購入６点、受贈24点、受託２点、受入変更２点の合計34点の作品を新たに受け入れました。

購入作品６点のうち３点は、メキシコの近代写真の歴史を開いたドイツ人写真家フーゴ・ブレーメの作品を新たに収集しました。名古屋市美術館では、すでにブラボーやティナモドッティなど、メキシコの写真史を飾る重要な作家の作品を収集していますが、今回ブレーメ作品を加える事によって、その歴史を俯瞰することができるようになりました。また同じく購入した野崎華年の作品２点は、日本画の技法による珍しい作品で、この作家の全貌を知る上で貴重な資料になりました。さらにこの地域の戦後の抽象表現を代表する作家、森眞吾の作品を１点購入し、併せて同氏の全体像を俯瞰することのできる作品６点をご寄贈いただきました。寄贈については、森眞吾の作品以外にも、坂野耿一、鷲見麿、庄司達、北山善夫、山田彊一、石黒鏘二など、地元の現代美術を語る上で欠かせない作家の作品を新たにコレクションに加えることができました。さらに、地元のみならず日本洋画壇の重鎮として活躍した伊藤廉の作品11点をまとめてご寄贈いただき、すでに所蔵されている2点に加えて、この作家の全貌を知ることのできるコレクションとなりました。

寄託作品としては、地元出身で全国的にも高い評価を受けている吉本作次の重要な作品２点が新たに加わりました。1980年代のニューペインティングの流れを汲む吉本の代表的な作品で、当館の開館時期とも重なり、当時の時代状況を鮮明に伝えてくれます。さらに下郷羊雄の写真集『メセム属』は、地元の個人所蔵家よりご寄贈いただき、図書資料としてこれまで扱ってきましたが、近年その希少性から展覧会に出品される機会も増えたため、新たに分類変えを行い、今後は写真資料としてコレクションの一部に加えることになりました。

(1)購入

1. フーゴ・ブレーメ(1882-1954)
Hugo BREHME
《ポポカテペトル山》
Popocatepetl, Volcan
n.d.(1920s-30s)
g.s.p.(ゼラチン・シルバー・プリント)
35.6×28.0cm

2. フーゴ・ブレーメ(1882-1954)
Hugo BREHME
《イスタシワトル山》
Ixtacihuatle
c.1915
g.s.p.(ゼラチン・シルバー・プリント)
28.0×35.6cm

3. フーゴ・ブレーメ(1882-1954)
Hugo BREHME
《ピコ・デ・オリザバ山》
Pico de Orizaba
n.d.(1920s-30s)
g.s.p.(ゼラチン・シルバー・プリント)
28.0×35.6cm

4. 野崎華年(1862-1936)
NOZAKI Kanen
《姑蘇城外　虎丘塔之景》
Outside the Gusu Castle-A View of the Tiger HillTower
1913年
絹本着彩
131.5×42.7cm

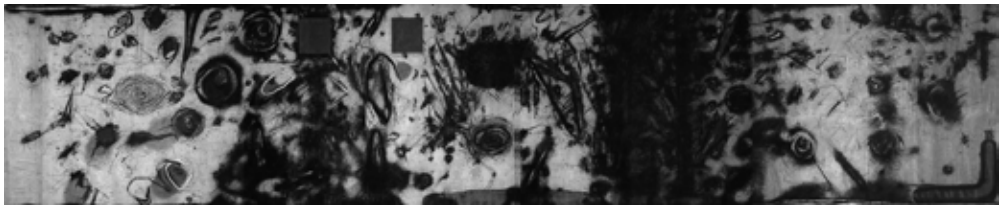
5. 野崎華年(1862-1936)
NOZAKI Kanen
《神田(みと)》
Sacred Rice Fields
1915年頃
絹本着彩
115.5×41.5cm

(2)寄贈

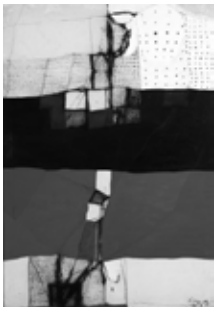
6. 森眞吾(1937-)
MORI Shingo
《Untitled 85,7,22》
Untitled 85,7,22
1985年
木炭、油彩・綿布
117.0×81.0cm

7. 森眞吾(1937-)
MORI Shingo
《傭兵エレジー》
ercenaries Elegy
1967年
油彩・キャンヴァス
146.0×112.0cm

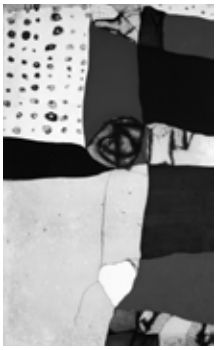
8. 森眞吾(1937-)
MORI Shingo
《エレジー》
Elegy
1967年
油彩・キャンヴァス
146.0×112.0cm



9. 森眞吾(1937-)
MORI Shingo
《M氏のもう一つの日記》
Another Diary of Mr. M
1977年
油彩・キャンヴァス
212.0×981.0cm



10. 森眞吾(1937-)
MORI Shingo
《Untitled 85,8,6》
Untitled 85,8,6
1985年
木炭、油彩・綿布
128.8×89.7cm

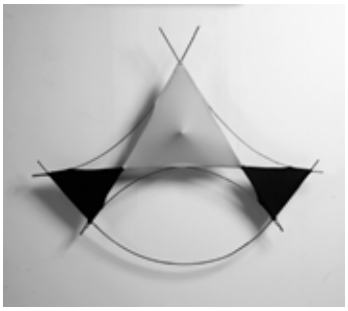


11. 森眞吾(1937-)
MORI Shingo
《Untitled 85,8,10》
Untitled 85,8,10
1985年
木炭、油彩・綿布
145.5×89.5cm

12. 森眞吾(1937-)
MORI Shingo
《Untitled 85,9,3》
Untitled 85,9,3
1985年
木炭、油彩・綿布
145.5×89.5cm

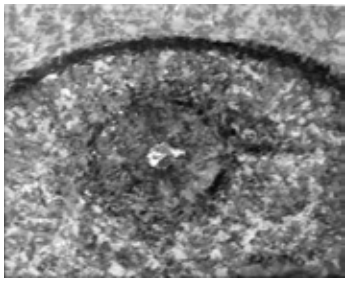
13. 坂野耿一(1917-1976)
BANNO Koichi
《無題》
Untitled
n.d.(1960年代)
木炭・紙
23.0×15.0cm

14. 鷲見麿(1954-)
SUMI Maro
《無題》
Untitled
1974年
パステル・紙
24.9×16.4cm



15. 庄司達(1939-)
SHOJI Satoru
《SHOJI KITE No.4》
SHOJI KITE No.4
1988/2015年
布、糸、竹
96.0×118.0×14.0cm

16. 北山善夫(1948-)
KITAYAMA Yoshio
《光へ、藤田八栄子へ》
Towards the Light, for Ms. FUJITA Yaeko
1994年
竹、銅線、照明器具
38.0×38.0×60.0cm



17. 伊藤廉(1898-1983)
ITO Ren
《いちじく》
Fig
1960年頃
油彩・キャンバス
31.8×39.5cm

18. 伊藤廉(1898-1983)
ITO Ren
《パンジー》
Pansy
1972-73年頃
油彩・キャンバス
21.6×14.7cm

19. 伊藤廉(1898-1983)
ITO Ren
《雨上がりの窓の静物》
Still life by the window after a rain
1982年
油彩・キャンバス
53.0×45.5cm

20. 伊藤廉(1898-1983)
ITO Ren
《縞の壺とパンジー》
Striped Pot and Pansy
981年頃
油彩・キャンバス
21.8×14.9cm

21. 伊藤廉(1898-1983)
ITO Ren
《静物とその水影》
Still life and its reflection
1980年代
油彩・キャンバス
36.8×44.3cm

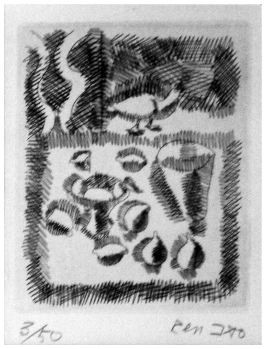
22. 伊藤廉(1898-1983)
ITO Ren
《レモン》
Lemon
1970年代
墨・紙
36.5×26.4cm

23. 伊藤廉(1898-1983)
ITO Ren
《鳥と静物》
Bird and still life
970年代
墨・紙
30.8×46.0cm

24. 伊藤廉(1898-1983)
ITO Ren
《三色菫C》
Pansy C
1980年代
色鉛筆・紙
26.8×19.3cm

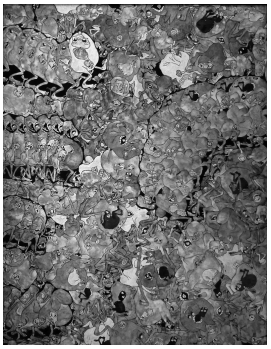
25. 伊藤廉(1898-1983)
ITO Ren
《雨上がり》
After a rain
1980年代
木炭・紙
46.6×30.0cm

26. 伊藤廉(1898-1983)
ITO Ren
《鳥》
Bird
1970年代
エッチング・紙　ed.3/50
12.7×11.2cm



27. 伊藤廉(1898-1983)
ITO Ren
《窓辺の鳩と室内静物》
Pigeon and still life by the window
1970年代
エッチング・紙　ed.3/50
15.0×11.2cm

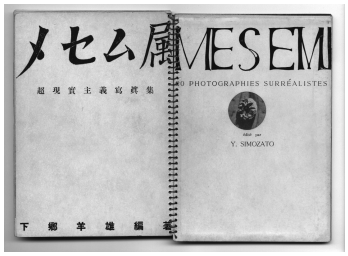
28. 山田彊一(1938-)
YAMADA Kyoichi
《婆羅門シリーズNo.2》
"Brahman" Series No.2
1960年
油彩・塗料・粉絵具・キャンバスボード
145.0×112.0cm



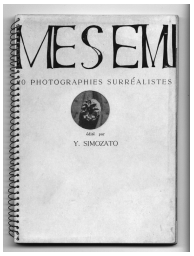
29. 山田彊一(1938-)
YAMADA Kyoichi
《太郎と花子シリーズNo.7》
"Taro and Hanako" Series No.7
1966年
墨・水彩・和紙・紙
144.8×111.8cm

30. 石黒鏘二(1935-2013)
ISHIGURO Shoji
《カバン》
Shoulder bag
1970年代前半
鉄(溶接)
42.0×47.0×25.0cm

(3)受入変更



31. 下郷羊雄(1907-1981)
SHIMOZATO Yoshio
《下郷羊雄編
『超現実主義写真集メセム属』》
"MESEM: 10 PHOTGRAFIES SURREALISM"
1940年
インク・紙、金属(白黒印刷、螺旋リング留め)
ed.158/200
18.3×12.9×0.8cm



32. 下郷羊雄(1907-1981)
SHIMOZATO Yoshio
《下郷羊雄編
『超現実主義写真集メセム属』》
"MESEM: 10 PHOTGRAFIES SURREALISM"
1940年
インク・紙、金属(白黒印刷、螺旋リング留め)
ed.195/200
18.3×12.9×0.8cm

⑷資料収集状況一覧

年度別

年度＼分類	日本画など	洋画など	水彩素描など	版画など	写真	彫刻など	特別資料	総　計
58 年 度	0	26	2	0		1		29
59 年 度	3	32	50	1		0		86
60 年 度	4	25	67	20		2		118
61 年 度	5	23	33	6		1		68
62 年 度	12	38	0	360		15		425
63 年 度	0	15	8	13		6		42
元 年 度	3	7	2	275		1		288
2 年 度	7	4	2	17		1		31
3 年 度	1	3	2	122		0		128
4 年 度	2	10	15	126		3		156
5 年 度	0	13	4	0		3		20
6 年 度	0	7	0	1		2		10
7 年 度	1	27	2	195		0		225
8 年 度	0	7	0	2		3		12
9 年 度	0	2	0	17		2		21
10 年 度	2	8	0	21		0		31
11 年 度	2	10	0	0		1		13
12 年 度	0	9	0	0		0		9
13 年 度	0	8	0	※　−83	※　83	1	0	9
14 年 度	1	0	0	167	0	0	0	168
15 年 度	0	1	0	0	8	2	0	11
16 年 度	0	0	8	0	0	2	0	10
17 年 度	0	2	10	0	4	0	0	16
18 年 度	0	9	0	0	0	0	0	9
19 年 度	0	2	0	0	0	1	0	3
20 年 度	0	1	0	0	0	1	0	2
21 年 度	0	1	7	3	0	0	0	11
22 年 度	0	1	0	0	0	0	0	1
23 年 度	0	1	0	0	0	0	0	1
24 年 度	0	0	0	0	0	2	0	2
25 年 度	0	0	0	0	2	0	0	2
26 年 度	0	0	0	0	0	0	0	0
27 年 度	2	1	0	0	3	0	0	6
購入総計	(2)　45	(1) 293	212	1,263	(3) 100	50	0	(6) 1,963
保管転換	16	41	31	35	3	3	1	130
寄　贈	82	(12) 332	(7)　927	(2)　366	433	(3) 27	1,631	(24) 3,798
受入変更	0	0	0	0	(2)　2			(2)　2
総　計	(2) 143	(13) 666	(7) 1,170	(2) 1,664	(5) 538	(3) 80	1,632	(32) 5,893

収集方針別

分　類	日本画など	洋画など	水彩素描など	版画など	写真	彫刻など	特別資料	総　計
エコール・ド・パリ	−	29	3	478	0	2	1	513
メキシコ・ルネサンス	−	34	38	381	(3) 57	4	0	(3)　514
現代の美術	5	137	82	282	12	(1) 62	10	(1)　590
郷土の美術	(2) 138	(13) 466	(7) 1,047	(2)　523	(2) 469	(2) 12	1,621	(28) 4,276
総　計	(2) 143	(13) 666	(7) 1,170	(2) 1,664	(5) 538	(3) 80	1,632	(32) 5,893

(　)内の数字は平成27年度収集分
※分類変更による増減

キーファー，アンゼルム《シベリアの王女》

1988年　木枠、鉛、キャンバス、石、コンクリート、土、・油彩、バレエ・シューズ　280.1×501.0×6.5cm

同作品は、1994（平成6）年に購入、その巨大さから展示室での設置場所を決定、展示して以来、現代美術を代表する優れた作品として、幅広い層から好評を得てきた。横長の巨大なワイド・スクリーンを思わせる画面は、木枠の支持体に鉛、セメント、麻布を貼り付け、その上に描かれた絵の具の層は、ペインティング・ナイフで削られ、バーナーで焼かれるなど、さまざまな技法によって荒々しいマチエール（絵肌）を現出させ、観る者に強い印象を与えるものとなっている。近年になって、画面と下地、支持体の接着部分が脆くなり、一部絵具層が浮き上がり、剝落の恐れが目視できるようにまで進行してきた。

今回、画面全体の点検を行い、清掃の後、剝落の危険性がある部分を修復し、制作時の状態への復旧を目指した。画面の剝落防止に関しては、高温によって熔解する接着マイラー・シートによって処理を施した。

尚、作品が巨大で常設展の展示場所からの撤収・移動が困難であり、また常設展開催中であることにより、通常余り見学できることのない修復作業を一般に公開することにした。作業期間中の三日間には、数多くの見学者の訪問を受け、併せて美術館活動の一端を来館者に向けて広く紹介することができた。

【修復作業スケジュール】
日時：11/13（金）　9：30～12：00／13：30～16：30
　　11/14（土）　9：30～12：00／13：30～16：30
　　11/15（日）　9：30～12：00
＊作品は随時、公開とした。

《シベリアの王女》
公開修復風景

アントニー・ゴームリー《接近V》

1994年　鋳鉄　201.0×174.0×27.0cm

アントニー・ゴームリー《接近V》は、1999（平成11）年に作家が来日し、作家自らがその設置場所を検討、決定した屋外彫刻である。作家自身の身体から直接象られ、鋳鉄された作品は、美術館の南側庭園を散策する市民に現代美術の楽しさを知らしめ、設置以来、幅広い層から愛されてきた。またその反面、屋外に設置されていることにより、温湿度等の自然環境による影響ばかりでなく、夜間に落書き等の被害を度々受け、そのたびに応急処置を施し、対応してきた。本年８月、同作品上で花火を焚かれ、焦げたような跡が確認された。溶剤塗布により表面の汚れは一応除去することができたが、刷毛等による塵埃の清掃、アセトン系溶剤による全面清掃を行い、その後ワックスを塗布し、防錆処理を行った。

パイク，ナムジュン《ロボット家族−お父さん、お母さん》

1986年　テレビ、ビデオ　226.1×139.1×52.1cm、203.1×153.7×53.3cm

ナムジュン・パイク《ロボット家族−お父さん、お母さん》に関しては、先に2013年ニューヨークの〈アジア・ソサエティ美術館〉での展覧会（『ナムジュン・パイク：ロボットへの転生』2014.9.5-2015.1.4）への出品に際して、映像のデータ化と映像送信システムの変更、さらには14インチ液晶モニターへの変更と搭載を行ったが、常設展示室で展示するに当たって、モニターの受像状況を確認、二台のモニターを取り換えた。また、当館展示室の受信環境が整備されていないため、延長ケーブルによる受信を行った。尚、当館での展示は、「地上デジタル」放送が施行された2011年以来、四年ぶりとなった。

作品を収集にあたっては、サイズ・材質・形状、作品の状態などの作品に即したデータの採取のほか、作者・作品名・制作年・出品歴・所蔵歴などの作品に係わる歴史・文献的な情報の調査も行っている。これらの情報は、作品研究の基礎となるものであるが、収蔵時にすべてが明らかにできない作品もある。このような作品は、収蔵後も機会あるごとに追跡調査や情報収集を行って、不明な事項や新しい事実を明らかにするように努めている。

⑴作家の生没年の変更
改定：
＊ヒラ・ベッヒャー（1934-2015）
理由：
作家の逝去（2015年10月10日）

収蔵資料貸出（平成27年度）

作家名	作品名	貸出期間・貸出先	展覧会名・展示期間
鶴田吾郎	済州島 西帰浦	H.27. 3 .20～H.27. 9 . 7 神奈川県立近代美術館 葉山 新潟県立万代島美術館 岐阜県美術館	「日韓近代美術家のまなざし－『朝鮮』で描く」展 H.27. 4 . 4 ～H.27. 5 . 8 H.27. 5 .16～H.27. 6 .28 H.27. 7 . 9 ～H.27. 8 .23
若林奮	(受託美術品)作品 (受託美術品)「所有・雰囲気・振動－森のはずれ」のための模型　No.4 (受託美術品)100線 No.3 (受託美術品)新100線 No.1 (受託美術品)新100線 No.2	H.27. 4 . 3 ～H.28. 7 . 4 名古屋市美術館 足利市立美術館 神奈川県立近代美術館 葉山 府中市美術館 うらわ美術館	「若林奮　飛葉と振動」展 H.27. 4 .18～H.27. 5 .24 H.27. 6 . 6 ～H.27. 8 . 2 H.27. 8 .15～H.27.12.23 H.28. 1 . 9 ～H.28. 2 .28 H.28. 4 .23～H.28. 6 .19
三岸好太郎	海と射光	H.27. 4 .11～H.27. 8 . 7 大分県立美術館	開幕展「モダン百花繚乱－大分世界美術館－」展 H.27. 4 .24～H.27. 7 .20
杉戸洋	(受託美術品)elephant(p.p) (受託美術品)red eye	H.27. 4 .17～H.27. 8 .10 宮城県美術館	「杉戸洋展」 H.27. 5 . 2 ～H.27. 7 .26
熊谷守一	烏 八ヶ岳 秋 秋 山椿 冬の夜	H.27. 4 .30～H.27. 7 .13 熊谷守一美術館	「熊谷守一美術館30周年展」 H.27. 5 .15～H.27. 6 .28
山本悍右 坂田稔	題不詳[布団] 「伽藍の鳥籠」のヴァリエーション (受託美術品)無題 (受託美術品)民家民藝：伊良湖の農民家屋 (受託美術品)民家民藝：木曽福島の農家の土蔵	H.27. 6 .26～H.27.10.12 三重県立美術館	「20世紀日本美術再見　1940年代」展 H.27. 7 .11～H.27. 9 .27
キスリング 藤田嗣治	ルネ・キスリング夫人の肖像 風景	H.27. 7 .10～H.27.11. 9 広島県立美術館 長崎県美術館	「広島・長崎 被爆70周年－戦争と平和展」 H.27. 7 .25～H.27. 9 .13 H.27. 9 .20～H.27.10.25
田島二男 下郷羊雄 編	金属の造形 培養された貌 『超現実主義写真集 メセム属』 『超現実主義写真集 メセム属』（下郷旧蔵版）	H.27. 7 .23～H.27.10.19 愛知県美術館	「芸術植物園」展 H.27. 8 . 7 ～H.27.10. 4
中村正義	自画像 男女 (受託美術品)太郎と花子	H.27. 7 .24～H.28. 1 .25 豊橋市美術博物館 川崎市岡本太郎美術館	「岡本太郎と中村正義<東京展>」展 H.27. 8 . 8 ～H.27. 9 .27 H.27.10.17～H.28. 1 .11
喜多村麦子	暮れ行く堀川	H.27. 9 .18～H.27.12. 8 一宮市三岸節子記念美術館	「一宮の文人野村一志と土田麦僊をめぐる画家たち」展 H.27.10. 3 ～H.27.11.23
安藤幹衛	僕らはもうごめんだ 解放 破壊 凋落	H.27.11.11～H.27.11.30 知立市文化会館	「生誕100年　安藤幹衛展」 H.27.11.19～H.27.11.23
三岸節子	二つの太陽 花咲くブルゴーニュ	H.28. 1 .8～H.28. 5 .30 一宮市三岸節子記念美術館 香雪美術館	「生誕110年記念　三岸節子展」 H.28. 1 .23～H.28. 3 . 6 H.28. 3 .17～H.28. 5 .15
磯見輝夫	混沌の門(ed.6/15)	H.28. 1 .22～H.28. 4 .24 横須賀美術館	「嶋田しづ・磯見輝夫」展 H.28. 2 . 6 ～H.28. 4 .10

資料　5 寄附金
COLLECTION Donation

⑴名称
　ゆめ・プレミアムアートコレクション寄附金事業

⑵趣旨
　開館30周年の節目となる平成30年に、記念となる優れた美術品を収集するため、寄附金を集めるものです。

⑶寄附金の概要
　１口1,000円以上。特典として、3,000円以上の個人の寄附者には、常設展１年間定期観覧券（大人1,200円）を進呈します。

⑷目標額
　平成30年度に30,000千円。（学生向け優待制度の一部金額も含む）

⑸寄附金受入状況
　81件、9,079千円（平成28年３月31日現在）

入館者一覧
VISITOR

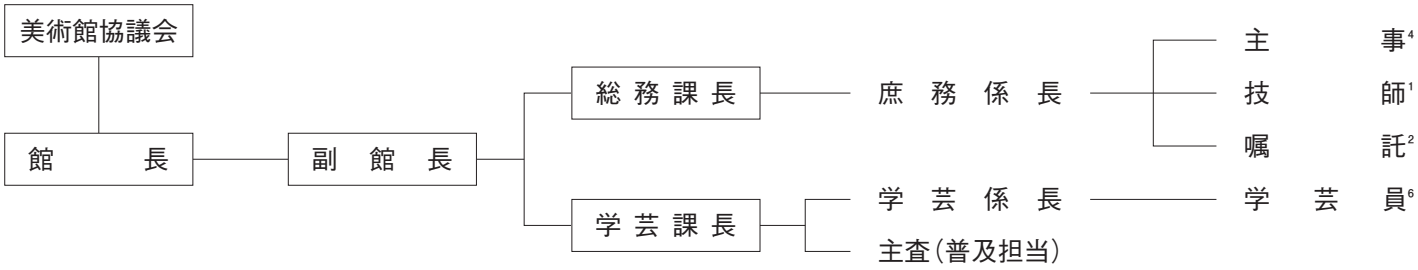
展覧会名		開催期間	開催日数	有料			無料			入場者総数
				一般	高大生	有料小計	招待券等	中学生以下	無料小計	
常設展		平成27年 4月18日(土)～ 平成28年 3月31日(木)	248	6,228	1,813	8,041	51,892	6,051	57,943	65,984
特別展	若林奮　飛葉と振動	平成27年 4月18日(土)～ 平成27年 5月24日(日)	32	1,598	810	2,408	2,059	258	2,317	4,725
	画家たちと戦争： 彼らはいかにして 生きぬいたのか	平成27年 7月18日(土)～ 平成27年 9月23日(水・祝)	59	7,566	1,100	8,666	4,867	2,144	7,011	15,677
	リバプール国立美術館所蔵 英国の夢 ラファエル前派展	平成27年 10月3日(土)～ 平成27年 12月13日(日)	62	23,090	1,934	25,024	7,936	1,919	9,855	34,879
	ポジション2016 アートとクラフトの蜜月	平成28年 1月5日(火)～ 平成28年 2月21日(日)	42	2,829	449	3,278	3,015	616	3,631	6,909
	東京藝術大学コレクション 麗しきおもかげ 日本近代美術の女性像	平成28年 3月5日(土)～ 平成28年 4月17日(日) ※統計数字は年度末までのもの	23	5,640	454	6,094	1,950	439	2,389	8,483
	特別展小計		218	40,723	4,747	45,470	19,827	5,376	25,203	70,673
合計				46,951	6,560	53,511	71,719	11,427	83,146	136,657
								教育普及事業参加者 (展示室内参加者を除く)		14,856
								総計		151,513

〈年度別入館者数等〉

区分			平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	累計
展覧会	常設展	開催日数	223日	275日	251日	248日	7,949日
		入場者数	69,656人	129,114人	86,558人	65,984人	3,776,886人
	特別展	開催日数	185日	217日	239日	218日	5,979日
		入場者数	190,562人	232,612人	172,776人	70,673人	7,557,061人
	入場者小計		260,218人	361,726人	259,334人	136,657人	11,333,947人
教育普及事業参加者			54,039人	24,702人	14,094人	14,856人	653,033人
入館者合計			314,257人	386,428人	273,428人	151,513人	11,986,980人

組織・予算 （平成28年3月31日現在）
ORGANIZATION, STAFF AND BUDGET

1 組織図



2 美術館協議会

(1)名古屋市美術館協議会委員

名古屋市立東山小学校長	佐藤　佳子	愛知県私学協会副会長	大谷　恩
愛知県立旭丘高等学校長	笹尾　幸夫	名古屋市立向陽高等学校長	津金　倫明
公益財団法人名古屋市文化振興事業団副理事長	別所　眞三	金城学院大学人間科学部教授	原　史子
名古屋市地域女性団体連絡協議会理事	橋本りゑ子	名古屋市立小中学校PTA協議会理事	林　淳子
公募委員	近藤　眞理	愛知県立芸術大学美術学部教授	小西　信之
名古屋商工会議所文化・観光委員会副委員長	滝　茂夫	愛知県美術館長	島　敦彦
名古屋造形大学造形学部教授	江本菜穂子	名古屋大学文学研究科准教授	加藤　靖恵

(2)名古屋市美術館協議会開催状況

日時	場所	協議題
第1回定例会 平成27年 8 月19日(水) 13：30～15：30	美術館講堂	○平成26年度事業実施結果について ○平成27年度事業実施状況について
第2回定例会 平成28年 2 月18日(木) 10：00～12：00	美術館講堂	○平成27年度事業実施状況について ○平成28年度事業計画案について

3 職員

館長	横井　政和	学芸課長	山田　諭
副館長	深谷　克典	学芸係長	山田　諭
総務課長	鈴村　良規	主査(普及)	蒲原　貴子
庶務係長	蘆澤　耕二	学芸員	角田美奈子
主事	髙木　忠明		竹葉　丈
	布施　英彦		中村　暁子
	塚本　精蔵		笠木日南子
	岸　正子		清家　三智
技師	小川　和秀		保崎　裕徳
嘱託	小崎　博一		
	石川　信介		

4 運営予算

総予算費	内訳	
239,663千円	特別展関係費	100,339千円
	常設展運営費	18,611千円
	資料関係費	5,791千円
	教育普及事業費	8,231千円
	調査研究費	1,572千円
	管理費	105,119千円

平成27年度名古屋市美術館年報

発行日
平成28年12月

編集･発行
名古屋市美術館
〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目17番25号
（芸術と科学の杜・白川公園内）
TEL 052-212-0001
FAX 052-212-0005

名古屋市美術館
〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目17番25号
Tel.052-212-0001 Fax.052-212-0005

この冊子は古紙パルプを含む再生紙を使用しています